

令和3年度 新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム



報告集

- 目 次 -

【はじめに・ジモト大学に寄せて】

○ ジモト大学は大人こそ学び成長できるプラットフォームへ.....	4
東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科 准教授 岡崎エミ	
○ ジモト大学とともに	5
山形県立新庄北高等学校長 高橋剛文	
○ 先進性を土台に「その先の未来」へ	6
大正大学 地域創生学部 公共政策学科 教授 浦崎太郎	

【目的・体制】

○ 新庄・最上ジモト大学推進事業/コンソーシアム組織体制	8
○ 尾花沢キャンパス開設.....	9
○ 私たちはどんな人材を育成しなければならないか？/ジモト大学グランドルール/Love ルール	10
【ジモト大学プログラムパンフレット】	11
【プログラム参加者統計一覧】	12

【実施報告 ①プログラム】

1. 城下町・新庄謎解きウォークラリー.....	19
2. 高校生×SDGs カードゲーム.....	20
3. 日台地元 PR プロジェクト～MOGAMI から你好！～.....	21
4. あつまれ ミライの公務員.....	22
5. 【真室川 de デコレーション PJT】オリジナルのマステで地域を彩ろう！.....	23
6. YouTube 動画を本格的な機材で制作！	24
7. You はなぜ田舎（さけがわ）に？.....	25
8. とざわの伝統、未来へ繋ごう.....	26
9. アクティビティを通して歴史とイベント運営を知る！-歴史にある湖には、ドラマがある-.....	27
10. こだわりのそば「原種最上早生」を使ってそばガールズと一緒に商品開発！	28
11. 医療福祉座談会	29
12. 医療現場見学会	30
13. しごトーーーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄南高等学校金山校）	31
14. しごトーーーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄北高等学校）	32
15. しごトーーーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄神室産業高等学校）	33
16. しごトーーーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄東高等学校）	34
17. しごトーーーク ～まちのひと図鑑～（新庄南高等学校）	35
18. しごトーーーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄北高等学校最上校）	36

19. しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～（新庄神室産業高等学校真室川校）	37
20. ふるさとをまもり未来をつくる土木技術者たちのはなし	38
21. みんなを元気にする「てれ・ぼら」プロジェクト	39
22. U-18 オンラインフェス～続きは WEB で～	40
23. シン・ダイガクセイカツ	41
24. 「初めて料理をしてみた！」これから一人暮らしをはじめるキミに捧げる YouTube 動画作成	42
25. 全身ユニクロコーデスタイリングに挑戦！	43
26. ESPORTS LEAGUE SHINJO 2021	44
27. かわいいプロモーションビデオ・CM を作ってみよう！	45
28. 高機能機材を活用してライブ配信を体験しよう！	46
29. 自分だけの「ない本」を考えよう！	47
30. #まちとしょステーション～ジブンの知りたい!!を知る場所づくり～	48
31. TASKI 塾～大学生と災害・防災について考えよう～	49
32. きのこと円食堂～キノコの捨てる部位だけ使って料理してみた件～	50
33. 対話のファシリテーション講座	51
34. 一緒に世界の貧困について学び、学んだことを地域の小・中学生にも伝えていこう!!	52
【実施報告 ②】	
○ 新庄・最上ジモト大学説明会	54
○ プログラム勉強会	55
○ プログラム地域部会	56
○ 高校生とともにある地域・未来フォーラム	57
○ 新庄・最上ジモト大学オープンキャンパス 2022	60
【プログラム参加者アンケート】	
○ 令和 3 年度 新庄・最上ジモト大学 高校生アンケート結果	62
○ 令和 3 年度 新庄・最上ジモト大学 大人アンケート結果	65
【記事スクラップ】	68
【会議等一覧 他】	
○ 総会・運営委員会・各部会・事務局会議等一覧	81
○ 新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム規約	82
○ あとがきにかえて	86

「はじめに・ジモト大学に寄せて」



ジモト大学は大人こそ学び成長できるプラットフォームへ

東北芸術工科大学
コミュニティデザイン学科
准教授 岡崎エミ

ウィズコロナ生活も2年目の令和3年度、コロナウィルスに翻弄されながらも、オンライン活用が板についてきた1年だったように思う。高校生向けのオンラインプログラムの実施はもとより、オンラインでのジモト大学フォーラムの開催など、大人がオンラインに慣れ、普通に使いこなしている姿が印象に残っている。

物理的距離を超えていくオンラインの活用は、単なるコロナ対策の一環を超えて、新たな可能性を提示してくれている。マイプロジェクト伴走者など有志によって続けられている「探究寺子屋」は、毎週水曜夜にオンライン会議システムZoomを使って勉強会を開いている。県外の講師とつないだ対話の場だったり、地元を離れた大学生だったり、さらには現役高校生も登場し、探究とは何か、学びとは何か、大人は何をすべきなのかをまさに探究している。その過程では、大人の目からはウロコがハラハラと落ち、アンラーン（unlearn）、つまり古い価値観から新しい価値観への気づきに満ちている。

ジモト大学の使命は、単に地元を離れる子どもたちにジモトを知ってもらうことだけのプロジェクトではもはやない。次のフェーズでは、高校改革と地方創生の両方を動かしていくエンジンであり、プラットフォームになることが使命といえよう。高校は教育課程を社会に開き、学校内では得ることのできないリアルかつ真正な学びをデザインする。地域は高校生への学びの提供を通して、自らと自らの組織の有り様を振り返り、共に地域の未来をデザインしていくことにある。

何かを提供し続けることは、エネルギーの枯渇につながる。「高校生にしてあげている」という意識では早晩息絶えるだろう。だからこそ、高校生という未来を育てていく過程と育っていく姿からエネルギーを得て、自らに問いを立てて、未来に何が必要なのかを深く考え、自らをトランスフォーメーション（変態）させることが必要だ。

大人がプログラム提供や新しい学びに慣れてきた今、高校生の成長と大人と地域の変容の仕組みをデザインする時期がやってきたのかもしれない。

ジモト大学とともに

山形県立新庄北高等学校長 高橋剛文

今年で5年目となるジモト大学の活動は、新庄・最上の各高校の教育活動を力強く支援してくださっています。そのご支援を一番に享受しているのは本校であろうと考えております。本校で令和元年度に始まった文部科学省指定「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」が間もなく終了を迎えますが、この3年間、ジモト大学には事業推進に多大なご協力をいただき、その存在は本校にとって欠かすことのできないものでありました。この場をお借りして、ご協力いただきました最上総合支庁・最上8市町村・尾花沢市・東北芸術工科大学・関係企業及び団体各位へ深く感謝申し上げます。この事業終了と同時に、令和4年4月からは新学習指導要領による新教育課程がスタートします。この3年間の研究開発成果を生かした地域課題探究活動を継続していきますので、これからもご支援をお願いいたします。

新庄北高校と新庄南高校普通科を統合し、新庄新高校（仮称。以下、新高校）を令和8年度開校することが決まっており、現在その教育基本計画の策定が進んでいます。県教育委員会のホームページにはその検討経過が公開されており、教育基本計画（案）の「基本理念」には次のような記載があります。

◇ 豊かな心と郷土愛を基盤とした、可能性への挑戦

自己と他者の個性を尊重し、物事に誠実に向き合うとともに、地域の伝統と文化を継承し、社会の形成に参画するなど、自分の成長と地域社会の発展に向けて挑戦する姿勢を醸成する。

◇ 自己の実現を目指す、創造的な学び

幅広い分野での学びを通して、新たな見方や考え方を複合的に取り入れ、創造・実践の過程で考えを深める社会を生き抜く力を養成する。

◇ 地域社会との連携・協働による、持続可能な社会づくり

体験と実践を伴った協働的な学びを通して、社会の発展に貢献する力や態度を育み、地域社会の持続的な成長を支える人材を育成する。

この3項目と新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアムが掲げる目的には、親和性・類似性を見ることができると考えています。換言すれば、新高校とジモト大学は同じ方向を目指していると言えます。現代社会や本地域の現状と抱える課題を考えると、両者が共通の目標を持って生徒の成長を支援していけることを、大変心強く感じております。

新高校が開校する令和8年度には、ジモト大学も10年を迎えることになります。ジモト大学が今後も新高校を含む地区内の高校生に「旅立つ前に学ぶコト」を提供され、この地域の未来を担う人材の育成にご支援を継続していただけますよう、関係の皆様とともに祈念したいと思います。

昨秋、ジモト大学の近況を大正大学の月刊誌『地域人』の連載で紹介させていただいた。それは、高校と地域の協働に係る全国的な混乱や迷走に対し、期待されるモデル的な姿が、新庄・最上では既に具現化されているからだ。

その最たるは、山形県最上総合支庁という県の地域機関がガチッと関わることで、最上管内8市町村による共同歩調が実現している点だ。それにより、広域行政圏と高校生の通学圏との不一致が解消し、組織の安定性を確保。加えて、高校が個々の市町村と連携するより、多様性や効率性が格段に向上している。コロナ禍にあって活動が頓挫するどころか、オンライン化により高校生が自宅から継続的に参加する道が開ける等の進化を遂げた土台は、最上地域全体で進めてきたからである点は間違いない。こうした優位性を自覚し、もっともっと磨きをかけ、全国各地からの視察等にご対応いただきたい。

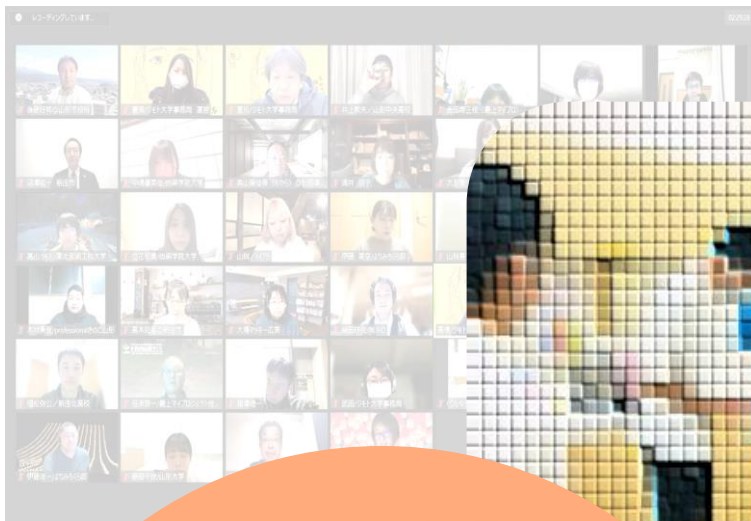
高校生のマイプロジェクトに関する実践が進み、高校生が「自分らしく社会に参加する」のを応援する重要性に対する理解が浸透してきたのも、この1年間の進展だろう。この動きを拡充することは、ジモト大学を始めた理由である「若手産業人材の確保」という観点から、非常に重要である。私が勤める大正大学地域創生学部にも高校生時代にマイプロジェクトを経験してきた学生が何人もいるのだが、異口同音に「自分の挑戦や成長を応援してくれた郷里の人たちは絶対に裏切れない。地元に戻って頑張る」と語っている。このように、マイプロジェクトを応援した成果は3年後には鮮明になるので、事業の持続性を高める上でも、検証の仕組みを今から確立し、運用を始めることが望ましいといえよう。

以上の実績をふまえ、新たに挑戦してほしいことが二つある。一つは「中学生への拡張」だ。新学習指導要領において、個に応じた学びは高校生段階では強調されているが、中学生段階では抑えめになっている。また、中学校では生徒も教員も伝統的に「一致団結」が好まれる傾向がある。それは「自分らしさ」「やりたいこと」を軽視した画一的な指導に陥りやすいことを意味する。そうした教育を受けてきた中学生が、高校入学後にいきなり「自分らしく」と言われても動けないのは当然。それをエネルギー源に学業に勤しむのが難しいとなれば、高校は教科指導を管理統制的に進めざるをえず、自走性の向上を促す探究とブレーキをかけあうことになる。じっくり時間をかけて自分の道を模索する上でも、高校が生徒の自走性に基づく教科学習を展開する上でも、中学時代からマイプロジェクトにとりくむのを促すことが期待されるのだ。今年度、北海道浦幌中学校、新潟県南魚沼市などにおける試行をみる限り、労力に対する効果は十分にあるといえる。

もう一つは、新庄北高校と新庄南高校の統合を見据えた準備だ。今日、高校教育界ではスクールミッションの策定や普通科改革の重要性が叫ばれている。これは、多様な専門家による対話を通して地域の未来を描き、そうした未来を創りだしていくのに必要な人材像を描き、そのために誰々がどのように役割を果たしあっていけばよいのかを明らかにし、その文脈で高校が地域で果たしていく使命を明確化し、それを具現化するための教育課程を編成する、というものだ。既にコンソーシアムが機能している点、二校が統合するタイミングにある点、いずれにおいても、最上地域で挑む意義は大きいものがあるといえる。ぜひ、検討をお願いしたい。

諸々、1年後にどんな報告を聞けるのか、今から楽しみでならない。

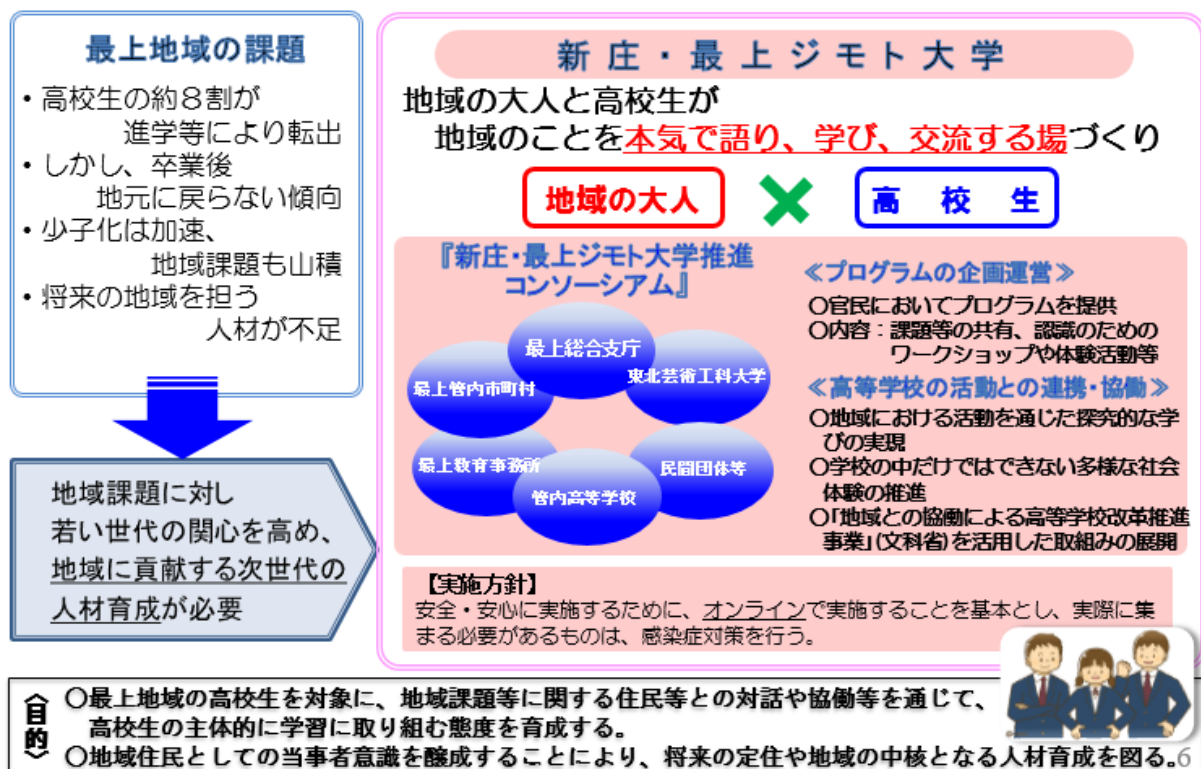
目的・体制



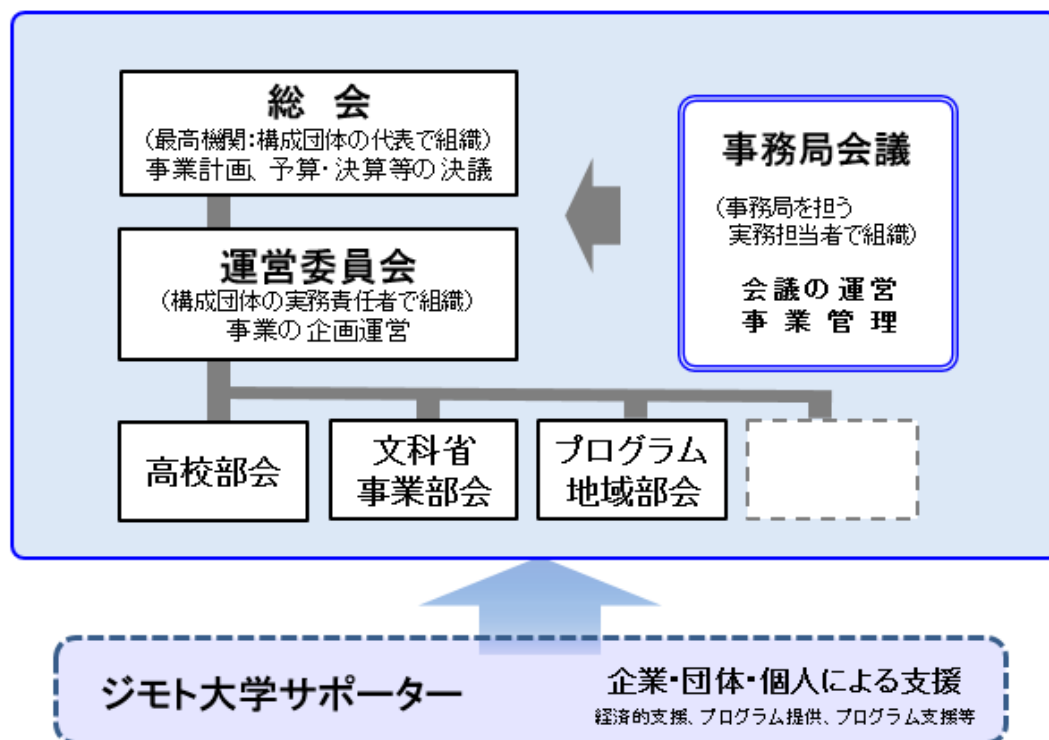
SHINJO-MOGAMI
JIMOTO
DAIGAKU



新庄・最上ジモト大学推進事業



新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム



令和3年度「尾花沢キャンパス」開設

新たに尾花沢市参加

新庄・最上ジモト大学総会

最上地域の高校生に学校生活とは違った学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム」(代表・加藤亮典最上

総合支庁長)の総会が13日、オンライン形式で開かれた。生徒たちが身近な大人と交流しながら地域課題の解決を目指す活動に賛同する尾花沢市が新たに参加。高校生の興味関心を引くプログラムの充実など2021年度運営方針を決めた。

同支庁と最上8市町村などをオンラインで結んで開催。21年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で30以上のプログラム、延べ720人以上の参加を目指すことにした。新たに尾花沢キャンパスを置くことになり、菅根光雄市長は「若者の地元定着は最重要課題。北村山高と連携し、尾花沢ならではのプログラムを検討したい」とあいさつした。

同コンソーシアムは17年度に始まった「ジモト大学」事業を発展させるため19年3月に最上地域の高校と8市町村、東北芸術工科大、各商工団体などで設立。19年度に31、20年度に32のプログラムを実施した。これまでに会員制交流サイト(SNS)を活用し古里の魅力を発信する取り組みや、新庄市立図書館の駐輪場壁面に幅広い世代が絵を描くイベントなどを通して、生徒たちが地域とのつながりを深めた。(佐々木亨)



オンライン形式で開かれた新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアムの総会
〓新庄市・県最上総合支庁

【尾花沢キャンパス】

- ・ 北村山高等学校
- ・ 尾花沢市
- ・ 村山総合支庁北村山地域振興局

私たちはどんな人材を育成しなければならないか？

地域の未来を切り開く高い志と能力を持った『人財』

(1) 「郷土愛を持ち、主体性と協調性を発揮する人材」

- ★郷土の歴史、文化、そこに生きる人々に興味を持ち、主体的に探究する能力
- ★地域や住民の課題に対して当事者意識をもって自ら積極的に行動し、仲間と協調しながら行動できる能力
- ★有用感、自己肯定感を持ち、ポジティブに向上心を持って学ぶ能力



(2) 「コミュニケーション力とリーダーシップを兼ね備えた人材」

- ★課題発見のための情報収集及び分析能力
- ★解決のためのデザイン思考、仲間とのコミュニケーションやチームビルディング能力
- ★困難に対してリーダーシップを発揮し、果敢にチャレンジする能力



(3) 「経済を支え、働く場を創れる人材」

- ★地域経済を知り、お金の循環等、経済的な視点から考えられる思考能力
- ★地域におけるICT等の活用など、多様な働き方を可能とする起業家精神と能力



平成30年5月14日第1回運営会議の中で実施したワークショップ「私たちはどんな人材を育成しなければならないか？」より

グランドルール/LOVEルール

大人と高校生の

グランドルール

(参加者が守るべき共有するルール！)

ジ

地元のことをよく知ろう！

モ

もっと自分から積極的に語ろう！

ト

ともに本気で学ぼう！

グランドルール LOVE のルール

①よく聞こう！
聴こう！！

②心を開こう！



Listen

Open

③声を出そう！

④楽しもう！



Voice

Enjoy

ジモト大学プログラム パンフレット

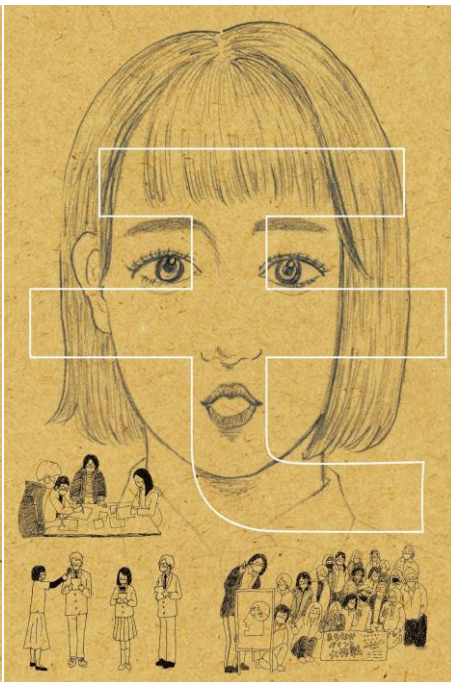


地元大学
JIMOTTO UNIVERSITY
JIMOTTO

高校生の
学びが
ぶつ飛ぶ
前に

学校では学べない、卒業前に
学んでおきたいヒトモノハコを
地域の大人と学ぶ講座が今年もスタート
2021.7~2022.2

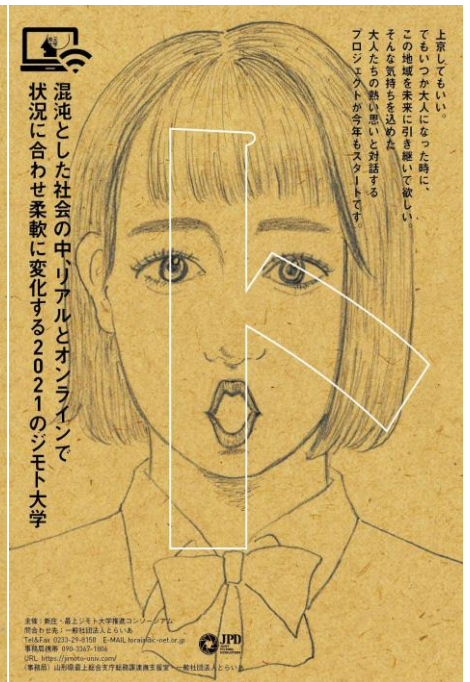
QRコード
Facebook



高校生の
学びが
ぶつ飛ぶ
前に

学校では学べない、卒業前に
学んでおきたいヒトモノハコを
地域の大人と学ぶ講座が今年もスタート
2021.7~2022.2

QRコード
Facebook



**混沌とした社会の中リアルとオンラインで
状況に合わせて柔軟に変化する2021のジモト大学**

上京してもいい
でもいつか大人になった時に
この地域を未来に引き継いで欲しい
そんな気持ちで
大人たちの熱い思いと対峙する
フロンティアが今年もスタートです

本学：東京・東上りト大学後援：JPD
所在地：〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-2345-1234 E-MAIL: jimotto@jimotto.ac.jp
代表者：山田太郎 学長 山田太郎 学長 山田太郎 学長
事務局：山田太郎 学長 山田太郎 学長 山田太郎 学長

混沌とした社会の中、リアルとオンラインで 状況に合わせて柔軟に変化する2021のジモト大学

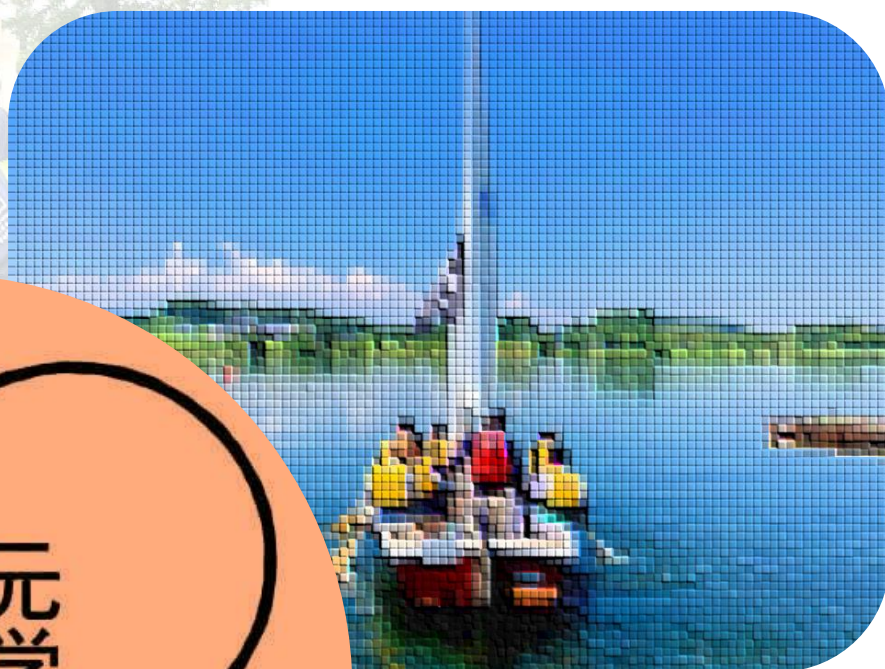
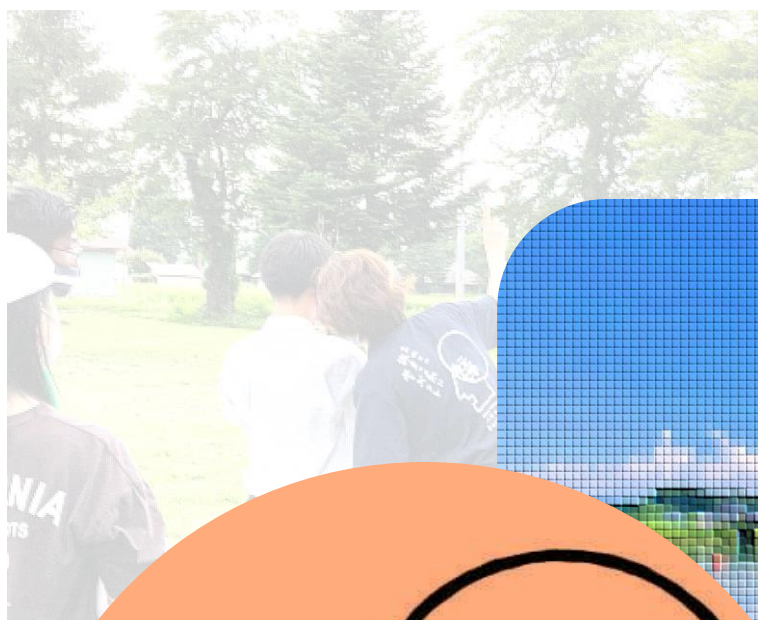
- 新型コロナウイルス感染症の流行により、プログラムが変更または中止になる場合があります。詳しくはQRコードを読み取り、確認もしくは問合せ先までご連絡ください。
- オンラインテレビ会議システム(ZOOM等)を利用することがあります。
操作方法がわからない場合は問合せ先までご相談ください。
- 新型コロナウイルス感染症予防のために下記をお読みになりご参加ください。
- 三密(密集(あきあき)、密接(がやがや)、密閉(むんむん))を避けましょう。
- マスク・手洗い・手指の消毒に心がけましょう。
- 風邪等の症状がある場合はプログラムへの参加をお控えください。
- 日ごろから健康管理をしましょう。

プログラム名	★	開催者
01- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
02- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
03- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
04- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
05- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
06- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
07- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
08- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
09- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
10- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
11- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
12- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
13- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
14- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
15- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
16- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
17- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
18- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
19- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
20- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
21- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
22- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
23- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
24- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
25- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
26- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
27- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
28- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
29- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
30- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
31- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
32- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
33- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
34- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
35- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課
36- シェアリング 〜自分らしい生き方〜	★	地元大学 地域経済課

13 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
14 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
15 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
16 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
17 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
18 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
19 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
20 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
21 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
22 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
23 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
24 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
25 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
26 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
27 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
28 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
29 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
30 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
31 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
32 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
33 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
34 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
35 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
36 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課

25 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
26 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
27 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
28 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
29 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
30 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
31 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
32 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
33 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
34 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
35 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課
36 何はなぜ やる(まじか)に? ★	地元大学 地域経済課

プログラム参加者統計一覧



SHINJO-MOGAMI
JIMOTO
DAIGAKU



令和3年度 新庄・最上ジモト大学 プログラム別参加実績 (高校別・延べ人数)

開催者	カテゴリ	プログラム名	開催日時	開催場所	定員	参加者数 合計	定員 充足率	新庄北	新庄北 最上校	新庄南	新庄南 金山校	神室産業	神室産業 真室川校	新庄東	北村山	その他
1	新庄市 総合政策課	体験・ フィールド ワーク	城下町・新庄 謎解 きウォークラリー	11月3日(水) 9:00~12:00	新庄市役所東 庁舎1階101・ 102会議室	8	17	213%	11				3	1	2	
2	新庄市 総合政策課	課題発 見・解決	自分の命と地域を災 害から守ろう!	10月2日(土) 10:00~12:00	ゆめりあ 会議室	15				新型コロナウイルス感染防止のため中止						
3	金山町 総合政策課	課題発 見・解決	高校生×SDGs カードゲーム	8月2日(月) 9:30~12:00	金山町 中央公民館	10	13	130%	4		8			1		
				9月1日(水) 15:45~16:15	新庄南高校 金山校	10				新型コロナウイルス感染防止のため中止						
4	最上町 地域おこし 協力隊	体験・ フィールド ワーク	日台地元PRプロ ジェクト~MOGAM Iから你好!~	7月15日(木) 16:00~18:15	最上町セミ ナーハウス	6	3	50%		3						
				9月16日(木) 16:30~18:00	最上町 中央公民館	6	2	33%		2						
				12月18日(土) 14:00~15:45	最上町 中央公民館	6	2	33%		2						
5	舟形町 まちづくり課	キャリア	あつまれ ミライの 公務員	8月3日(火) 9:00~15:00	舟形町役場	6	8	133%	5					3		
				8月4日(水) 9:00~15:00		6	8	133%	5					3		
6	真室川町 企画課	体験・ フィールド ワーク	【真室川deデコレー ションPJT】オリジ ナルのマスデで地域を 彩ろう!	7月24日(土) 13:30~16:30	真室川町 中央公民館	10	9	90%	5				4			
				8月11日(水) 14:00~16:30	真室川町役場	10	4	40%	1				3			
				10月16日(土) 13:00~16:00	ゆめりあ	10	5	50%	1				4			
7	大蔵村 総務課	体験・ フィールド ワーク	YouTube動画を本格的 な機材で制作!	9月22日(水) 13:00~17:00	四ヶ村の棚田	5	2	40%	2							
8	鮭川村 総務課	キャリア	Youはなぜ田舎(さけ がわ)に?	10月3日(日) 13:00~16:00	オンライン	10	6	60%	6							
9	戸沢村 まちづくり課	体験・ フィールド ワーク	とざわの伝統、未来 へ繋ごう	10月17日(日) 10:00~12:00	オンライン	10	7	70%	2					5		
				11月20日(土) 10:00~12:00		10	5	50%	2					3		
10	尾花沢市	体験・ フィールド ワーク	アクティビティを通 して歴史とイベント 運営を知る! - 歴 史ある湖には、ドラ マがある -	7月18日(日) 8:30~12:30	徳良湖(ヨッ ト倶楽部)	10	8	80%	3					1	3	1
11	尾花沢市	課題発 見・解決	こだわりのそば「原 種最上早生」を使っ て そばガールズと一緒 に商品開発!	7月10日(土) 9:00~12:00	Goose café	10	15	150%							15	
				7月22日(祝) 9:00~12:00	北村山高校	10	15	150%							15	
				10月30日(土) 9:00~12:00	北村山高校	10	18	180%							18	
12	最上総合支庁 保健企画課	キャリア	医療福祉座談会	8月2日(月) 13:45~16:00	新庄市民プラ ザ	50	59	118%	38		8		3	8	2	
13	最上総合支庁 保健企画課	キャリア	医療現場見学会	8月6日(金) 14:00~16:00	医療法人徳洲 会新庄徳洲会 病院	20	16	80%	5		2			3	6	
				8月10日(火) 14:00~16:00		20	18	90%	9		5		1	3		
14	最上総合支庁 地域産業経済 課	キャリア	しごとーーーク~若 手従業員のリアルな お話~	7月20日(火) 13:45~15:35	新庄南高等学 校金山校	45	42	93%			42					
15				7月28日(水) 9:30~11:25	新庄北高等学 校	154	138	90%	138							
16				9月24日(金) 16:00~17:30	新庄神室産業 高等学校	43	37	86%				37				
17				10月29日(金) 13:20~15:10	新庄東高等学 校	30	32	107%						32		
18				11月18日(木) 13:25~15:15	新庄南高等学 校	100	93	93%			93					
19				12月16日(木) 13:00~15:10	新庄北高等学 校最上校	20	37	185%		37						
20				1月20日(木) 9:30~11:20	新庄神室産業 高等学校真室 川校	20	23	115%					23			
21	最上総合支庁 建設総務課	キャリア	ふるさとをまもり未 来をつくる土木技術 者たちのはなし	11月4日(木) 10:00~12:20	新庄神室産業 高等学校	50	39	78%	1			34		4		
22	最上教育事務 所社会教育課	課題発 見・解決	みんなを元気にする 「てれ・ほら」プロ ジェクト	8月12日(木) 18:00~19:00	オンライン	20	3	15%			1			2		
				10月25日(月) 18:30~19:30	オンライン	20	3	15%			1			2		
				2月5日(土) 13:00~14:20	ゆめりあ	20				新型コロナウイルス感染防止のため中止						
23	最上小国川清 流未来振興機 構(最上総合 支庁連携支援 室)	体験・ フィールド ワーク	第3回最上小国川鮎 釣り甲子園大会~最 上小国川の文化に触 れる~	8月5日(木) 10:00~13:00	最上町おらだ の川公園付近	30				新型コロナウイルス感染防止のため中止						

開催者	カテゴリ	プログラム名	開催日時	開催場所	定員	参加者数 合計	定員 充足率	新庄北	新庄北 最上校	新庄南	新庄南 金山校	神室産業	神室産業 真室川校	新庄東	北村山	その他
24	M-Fluffy English-	キャリア	U-18オンラインフェス〜続き はWEBで！〜	オンライン	7月31日（土） 19:00～20:30	30	18	60%	15		1			1	1	
					8月22日（日） 20:00～21:00	30	11	37%	9		1				1	
					9月5日（日） 10:00～16:00	30	14	47%	12		1				1	
25	Agasuke House	キャリア	シン・ダイガクセイ カツ	オンライン	8月7日（土） 10:00～15:00	12	13	108%	7					6		
					8月9日（月） 10:00～15:00	12				内容変更のため中止						
26	市民活動団体 F e e l	体験・ フィールド ワーク	「初めて料理をして みた！」これから一 人暮らしをはじめる キミに捧げるYouTube 動画作成	新庄市民ブラ ザ	7月25日（日） 9:00～12:00	6	6	100%	2		1			3		
					12月11日（土） 9:30～12:00	6	5	83%	5							
27	ユニクロ 新庄店	体験・ フィールド ワーク	全身ユニクロコーデ スタイリングに挑 戦！	ユニクロ 新庄店	7月25日（日） 8:00～10:00	10	11	110%	5			4		2		
					8月1日（日） 8:00～10:00	10	10	100%	7						3	
28	グラッシーデ ザイン	体験・ フィールド ワーク	ESPORTS LEAGUE SHINJO 2021	オンライン	7月29日（木） 16:30～18:00	10	15	150%	2					8	5	
					8月30日（月） 16:00～18:00	10	12	120%	2					8	2	
					10月30日（土） 9:00～17:00	30	12	40%						8	4	
29	株式会社JPD	体験・ フィールド ワーク	カッコいいプロモ ーションビデオ・CMを 作ってみよう！	株式会社JPD	8月3日（火） 10:00～17:00	8	7	88%	5					2		
30	チームWATS	体験・ フィールド ワーク	高性能機材を活用し てライブ配信を体験 しよう！	スタイルハ ート	9月19日（日） 12:00～15:30	10	8	80%				5		3		
31	地域活動グ ループ より みちくら部	体験・ フィールド ワーク	自分だけの「ない 本」を考えよう！	新庄市民ブラ ザ	10月17日（日） 10:30～16:00	12	8	67%	3					5		
32	一般社団法人 とらいあ	課題発 見・解決	#まちとしょステ ーション〜ジンの知 りたい!!を知る場所づ くり〜	オンライン	8月28日（土） 14:00～16:30	10	4	40%		1				3		
					9月25日（土） 14:00～16:30	10				新型コロナウイルス感染防止のため中止						
					10月16日（土） 10:00～12:00	10	3	30%	1					2		
33	尚綱学院大学 ボランティア チームTASKI （宮城県名取 市）	課題発 見・解決	TASKI塾 ～大学生と 災害・防災について 考えよう～	オンライン	8月22日（日） 10:00～12:00	20	8	40%	5					3		
					9月19日（日） 10:00～12:00	20	3	15%	3							
34	Professional きのこ山形	課題発 見・解決	きのこ円食堂 ～キ ノコの捨てる部位だ け使って料理してみ た件～	オンライン	9月2日（木）	5				内容変更のため中止						
					9月11日（土） 10:00～13:00	5	3	60%	3							
					10月16日（土） 10:00～12:00	5	1	20%						1		
35	牛木 力（東 北芸術工科大 学コミュニ ティデザイン 学科）	課題発 見・解決	対話のファシリテ ーション講座	オンライン	11月20日（土） 13:00～15:30	20	20	100%	6		4			5	5	
					12月14日（火） 16:00～18:30	20	17	85%	2		3	2		5	5	
					12月4日（土） 13:00～16:00	20				内容変更のため中止						
36	認定NPO法人 IVY	課題発 見・解決	一緒に世界の貧困に ついて学び、学んだ ことを地域の小・中 学生にも伝えていこ う！！	雪の里情報館	12月18日（土） 14:00～16:00	20	12	60%	2					10		
合計					1211	908	75%	334	44	122	52	84	37	146	88	1

令和3年度 新庄・最上ジモト大学 プログラム別参加実績 (市町村別・延べ人数)

開催者	カテゴリ	プログラム名	開催日時	開催場所	定員	参加者数 合計	定員 充足率	新庄市	金山町	最上町	舟形町	真室川町	大蔵村	鮭川村	戸沢村	尾花沢市	その他
1 新庄市 総合政策課	体験・ フィールド ワーク	城下町・新庄 謎解 きウォークラリー	11月3日(水) 9:00~12:00	新庄市役所 会議室	8	17	213%	7		3		3	1	1	1	1	
2 新庄市 総合政策課	課題発 見・解決	自分の命と地域を災 害から守ろう！	10月2日(土) 10:00~12:00	ゆめりあ 会議室	15					新型コロナウイルス感染防止のため中止							
3 金山町 総合政策課	課題発 見・解決	高校生×SDGs カードゲーム	8月2日(月) 9:30~12:00 9月1日(水) 15:45~16:15	金山町 中央公民館 新庄南高校 金山校	10 10	13	130%	2	10			1					
4 最上町 地域おこし 協力隊	体験・ フィールド ワーク	日台地元PRプロ ジェクト~MOGA MIから你好！~	7月15日(木) 16:00~18:15 9月16日(木) 16:30~18:00 12月18日(土) 14:00~15:45	最上町セミ ナーハウス 最上町 中央公民館 最上町 中央公民館	6 6 6	3 2 2	50% 33% 33%			1 1 1			1			1 1 1	
5 舟形町 まちづくり課	キャリア	あつまれ ミライの 公務員	8月3日(火) 9:00~15:00 8月4日(水) 9:00~15:00	舟形町役場	6 6	8 8	133% 133%	3 3	2 2	1 1	1 1					1 1	
6 真室川町 企画課	体験・ フィールド ワーク	【真室川deデコレ ーションPJ】オリジ ナルのマスターで地域を 彩ろう！	7月24日(土) 13:30~16:30 8月11日(水) 14:00~16:30 10月16日(土) 13:00~16:00	真室川町 中央公民館 真室川町役場 ゆめりあ	10 10 10	9 4 5	90% 40% 50%					9 4 5					
7 大蔵村 総務課	体験・ フィールド ワーク	YouTube動画を本格的 な機材で制作！	9月22日(水) 13:00~17:00	四ヶ村の棚田	5	2	40%						2				
8 鮭川村 総務課	キャリア	Youはなぜ田舎(さけ がわ)に？	10月3日(日) 13:00~16:00	オンライン	10	6	60%	3		1				2			
9 戸沢村 まちづくり課	体験・ フィールド ワーク	とざわの伝統、未来 へ繋ごう	10月17日(日) 10:00~12:00 11月20日(土) 10:00~12:00	オンライン	10 10	7 5	70% 50%	1 1	2 1	2 1				1 1	1 1		
10 尾花沢市	体験・ フィールド ワーク	アクティビティを通 して歴史とイベント 運営を知る！ー 歴 史ある湖には、ドラ マがあるー	7月18日(日) 8:30~12:30	徳良湖(ヨッ ト倶楽部)	10	8	80%	4								4	
11 尾花沢市	課題発 見・解決	こだわりのそば「原 種最上早生」を使っ て そばガールズと一緒 に商品開発！	7月10日(土) 9:00~12:00 7月22日(祝) 9:00~12:00 10月30日(土) 9:00~12:00	Goose café 北村山高校 北村山高校	10 10 10	15 15 18	150% 150% 180%	2 2 2								5 5 7	8 8 8
12 最上総合支庁 保健企画課	キャリア	医療福祉座談会	8月2日(月) 13:45~16:00	新庄市民ブラ ザ	50	59	118%	36	1	5	5	3	1	4	3	1	
13 最上総合支庁 保健企画課	キャリア	医療現場見学会	8月6日(金) 14:00~16:00 8月10日(火) 14:00~16:00	医療法人徳洲 会新庄徳洲会 病院	20 20	16 18	80% 90%	5 9	1	2 1	1 4	1 1	1 1			3 1	2
14			7月20日(火) 13:45~15:35	新庄南高等学 校金山校	45	42	93%	12	25			3	1	1			
15			7月28日(水) 9:30~11:25	新庄北高等学 校	154	138	90%	68	9	11	11	6	5	7	7	8	6
16			9月24日(金) 16:00~17:30	新庄神室産業 高等学校	43	37	86%	25	2	3	3			1	3		
17 最上総合支庁 地域産業経済 課	キャリア	しごとーく~若 手従業員のリアルな お話~	10月29日(金) 13:20~15:10 11月18日(木) 13:25~15:15 12月16日(木) 13:00~15:10 1月20日(木) 9:30~11:20	新庄東高等学 校 新庄南高等学 校 新庄北高等学 校最上校 新庄神室産業 高等学校真室 川校	30 100 20 20	32 93 37 23	107% 93% 185% 115%	13 48 8 12	4 5 17	1 6 3	1 8 3	2 3 3	2 4 3	4 3 2	2 2 1	3 1 5	
21 最上総合支庁 建設総務課	キャリア	ふるさとをまもり未 来をつくる土木技術 者たちのはなし	11月4日(木) 10:00~12:20	新庄神室産業 高等学校	50	39	78%	21	1	5	2	1	4	3	2		
22 最上教育事務 所社会教育課	課題発 見・解決	みんなを元気にする 「てれ・ほら」プロ ジェクト	8月12日(木) 18:00~19:00 10月25日(月) 18:30~19:30 2月5日(土) 13:00~14:20	オンライン オンライン ゆめりあ	20 20 20	3 3	15% 15%	2 2									1 1
23 最上小国川清 流未来振興機 構(最上総合 支庁連携支援 室)	体験・ フィールド ワーク	第3回最上小国川鮎 り甲子園大会~最上 小国川の文化に触れ る~	8月5日(木) 10:00~13:00	最上町おらだ の川公園付近	30					新型コロナウイルス感染防止のため中止							

	開催者	カテゴリ	プログラム名	開催日時	開催場所	定員	参加者数 合計	定員 充足率	新庄市	金山町	最上町	舟形町	真室川町	大蔵村	鮭川村	戸沢村	尾花沢市	その他
24	M-Fluffy English-	キャリア	U-18オンラインフェス～続きはWEBで！～	7月31日（土） 19:00～20:30	オンライン	30	18	60%	11		1	2	1		1			2
				8月22日（日） 20:00～21:00		30	11	37%	9			1				1		
				9月5日（日） 10:00～16:00		30	14	47%	8		1		3			1	1	
25	Agasuke House	キャリア	シン・ダイガクセイ カツ	8月7日（土） 10:00～15:00	オンライン	12	13	108%	5	1	1	1	1	1			3	
				8月9日（月） 10:00～15:00		12			内容変更のため中止									
26	市民活動団体 Feel	体験・ フィールド ワーク	「初めて料理をして みた！」これから一 人暮らしをはじめる キミに捧げるYouTube 動画作成	7月25日（日） 9:00～12:00	新庄市民ブラ ザ	6	6	100%	3			2						1
				12月11日（土） 9:30～12:00		6	5	83%	1					2			2	
27	ユニクロ 新庄店	体験・ フィールド ワーク	全身ユニクロコーデ スタイリングに挑 戦！	7月25日（日） 8:00～10:00	ユニクロ 新庄店	10	11	110%	6	1	1	1	1	1				
				8月1日（日） 8:00～10:00		10	10	100%	5			1	1				3	
28	グラッシーデ ザイン	体験・ フィールド ワーク	ESPORTS LEAGUE SHINJO 2021	7月29日（木） 16:30～18:00	オンライン	10	15	150%	1	1		1	2		1	1	7	1
				8月30日（月） 16:00～18:00		10	12	120%	1	1		1	2		1	1	5	
				10月30日（土） 9:00～17:00		30	12	40%	1	1		1	1		1	1	5	1
29	株式会社JPD	体験・ フィールド ワーク	カッコいいプロモー ションビデオ・CMを 作ってみよう！	株式会社JPD	8月3日（火） 10:00～17:00	8	7	88%	5		1							1
30	チームWATS	体験・ フィールド ワーク	高機能機材を活用し てライブ配信を体験 しよう！	スタイルハ ート	9月19日（日） 12:00～15:30	10	8	80%	6	1		1						
31	地域活動グ ループより みくら部	体験・ フィールド ワーク	自分だけの「ない 本」を考えよう！	新庄市民ブラ ザ	10月17日（日） 10:30～16:00	12	8	67%	4	1	2		1					
32	一般社団法人 とらいあ	課題発 見・解決	#まちとしょステ ーション～ジプシの知 りたいたい！を知る場所づ くり～	8月28日（土） 14:00～16:30	オンライン	10	4	40%	2		1		1					
				9月25日（土） 14:00～16:30	ゆめりあ	10			新型コロナウイルス感染防止のため中止									
				10月16日（土） 10:00～12:00	ゆめりあ	10	3	30%	3									
33	尚絅学院大学 ボランティア チームTASK1 （宮城県名取 市）	課題発 見・解決	TASK1塾 ～大学生と 災害・防災について 考えよう～	8月22日（日） 10:00～12:00	オンライン	20	8	40%	5			1	1					1
				9月19日（日） 10:00～12:00		20	3	15%	2			1						
34	Professional きのこ山形	課題発 見・解決	きのこ0円食堂 ～キ ノコの捨てる部位だ け使って料理してみ た件～	9月2日（木）		5				内容変更のため中止								
				9月11日（土） 10:00～13:00	オンライン	5	3	60%	2								1	
				10月16日（土） 10:00～12:00	ゆめりあ	5	1	20%		1								
35	牛木 力（東 北芸術工科大 学コミュニ ティデザイン 学科）	課題発 見・解決	対話のファシリテ ーション講座	11月20日（土） 13:00～15:30	オンライン	20	20	100%	10			1	2			2	4	1
				12月14日（火） 16:00～18:30		20	17	85%	8	1			3			4	1	
				12月4日（土） 13:00～16:00		20			内容変更のため中止									
36	認定NPO法人 IVY	課題発 見・解決	一緒に世界の貧困に ついて学び、学んだ ことを地域の小・中 学生にも伝えていこ う！！	12月18日（土） 14:00～16:00	雪の里情報館	20	12	60%	8		2		1					1
合計						1211	908	75%	397	73	84	50	82	24	35	28	79	56

令和3年度新庄・最上ジモト大学プログラム 高校別参加生徒数(実人数)

	生徒数 (R3.5.1現在)				参加生徒数 (実人数)				参加率			
	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
新庄北高	1年	86	72	158	1年	38	58	96	1年	44.2%	80.6%	60.8%
	2年	81	73	154	2年	71	69	140	2年	87.7%	94.5%	90.9%
	3年	100	94	194	3年	5	18	23	3年	5.0%	19.1%	11.9%
	計	267	239	506	計	114	145	259	計	42.7%	60.7%	51.2%
新庄北高 (最上校)	1年	8	8	16	1年	6	6	12	1年	75.0%	75.0%	75.0%
	2年	12	7	19	2年	12	7	19	2年	100.0%	100.0%	100.0%
	3年	4	4	8	3年	3	4	7	3年	75.0%	100.0%	87.5%
	計	24	19	43	計	21	17	38	計	87.5%	89.5%	88.4%
新庄南高	1年	41	55	96	1年	41	52	93	1年	100.0%	94.5%	96.9%
	2年	35	62	97	2年	0	12	12	2年	0.0%	19.4%	12.4%
	3年	35	77	112	3年	0	7	7	3年	0.0%	9.1%	6.3%
	計	111	194	305	計	41	71	112	計	36.9%	36.6%	36.7%
新庄南高 (金山校)	1年	7	7	14	1年	7	7	14	1年	100.0%	100.0%	100.0%
	2年	7	11	18	2年	6	10	16	2年	85.7%	90.9%	88.9%
	3年	11	3	14	3年	10	3	13	3年	90.9%	100.0%	92.9%
	計	25	21	46	計	23	20	43	計	92.0%	95.2%	93.5%
新庄神室産業高	1年	56	30	86	1年	0	0	0	1年	0.0%	0.0%	0.0%
	2年	76	43	119	2年	29	39	68	2年	38.2%	90.7%	57.1%
	3年	76	32	108	3年	1	3	4	3年	1.3%	9.4%	3.7%
	計	208	105	313	計	30	42	72	計	14.4%	40.0%	23.0%
新庄神室産業高 (真室川校)	1年	5	5	10	1年	5	5	10	1年	100.0%	100.0%	100.0%
	2年	9	8	17	2年	8	7	15	2年	88.9%	87.5%	88.2%
	3年	7	1	8	3年	0	0	0	3年	0.0%	0.0%	0.0%
	計	21	14	35	計	13	12	25	計	61.9%	85.7%	71.4%
新庄東高	1年	64	53	117	1年	11	9	20	1年	17.2%	17.0%	17.1%
	2年	73	40	113	2年	35	20	55	2年	47.9%	50.0%	48.7%
	3年	67	36	103	3年	5	1	6	3年	7.5%	2.8%	5.8%
	計	204	129	333	計	51	30	81	計	25.0%	23.3%	24.3%
北村山高	1年	16	26	42	1年	0	0	0	1年	0.0%	0.0%	0.0%
	2年	17	31	48	2年	6	24	30	2年	35.3%	77.4%	62.5%
	3年	20	57	77	3年	0	11	11	3年	0.0%	19.3%	14.3%
	計	53	114	167	計	6	35	41	計	11.3%	30.7%	24.6%
合 計	1年	283	256	539	1年	108	137	245	1年	38.2%	53.5%	45.5%
	2年	310	275	585	2年	161	164	325	2年	51.9%	59.6%	55.6%
	3年	320	304	624	3年	24	36	60	3年	7.5%	11.8%	9.6%
	計	913	835	1,748	計	293	337	630	計	32.1%	40.4%	36.0%
その他	出典：山形県学校名鑑				学年	男	女	計				
					1年	0	0	0				
					2年	0		0				
					3年	1		1				
					計	1	0	1				

実施報告 ① プログラム



カテゴリ分類	体験、フィールドワーク	提供者	新庄市総合政策課
プログラム名	城下町・新庄 謎解きウォークラリー		
協力者			
日時	1 令和3年11月3日(水) 9:00~12:00	場所	新庄城址周辺
	2		新庄市役所101・102会議室
	3		
参加者(延べ)	高校生 17人	中学生	地域の大人
	大学生	関係者 4人	計 21人

地域課題・達成目標	新庄藩初代藩主・戸沢政盛公が新庄に城を築いてから400年を迎える中、地域の歴史的資源に対する認知度向上を図る。 ※シビックプライド（まちに対する誇りを持ち、自分自身が関わって地域を良くしていこうとする当事者意識）を醸成する足掛かりとする。									
プログラム内容	町名の由来等が記載された標柱をチェックポイントに、グループで、新庄の歴史に関するクイズを解きながら新庄城址周辺を回るウォークラリーを行った。ウォークラリー前には、新庄藩主戸沢家や藩主が行ったまちの整備が現在の町名に継承されていること等を伝えた。振り返りでは、体験から得られた気づきを言語化し、次の行動に促すため「やったこと」「気づいたこと」「今日知ったことを誰に伝えるか」をまとめた。									
実施に当たっての工夫	・新庄市の歴史について“楽しみながら”学ぶ機会とするため、クイズを解きながら新庄城址周辺を歩くウォークラリー形式とした。 ・グループでの活動となるため、最初にアイスブレイクの時間をとった。 ・ウォークラリー後の振り返りでは、個人ワーク後に班及び全体での発表を行い、参加者の気づきを全体で共有した。									
課題や目標に対する成果	アンケートによると「新庄の歴史に関する知識が深まった」の問いに対する回答は、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が100%であった。参加者からは「新庄には自分の知らない歴史や魅力があることを知った」「新庄市が城下町であったことを友達や家族に伝えたい」等の声が多数寄せられた。これらから、地域の歴史的資源に対する認知度向上を図ることができたと考える。									
所感・感想改善点	・参加した高校生からは「今まで関わったことのない高校の人と仲良くなれた」「自分の知らない相手とも協力して一つのことを達成する大切さを学んだ」などの感想があった。初対面の高校生と協力して活動できたことが、良い経験になったと捉える生徒も多くいた。 ・プログラムからの気づきを深めるために、対話の時間を長くできると良かった。 ・地域では地域活動や市民活動を行っている団体が複数ある。シモト大学を1つのきっかけとして、地域活動等に関心の高い生徒がその後も継続して活動できるよう、地域活動団体や市民活動団体と繋がりをつくるプログラム等も検討していきたい。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	1 充実し楽しかった	100%	2 大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容	友達と一緒に	場所が近い	

※アンケートの項目は「4: とても当てはまる」「3: 当てはまる」「2: あまり当てはまらない」「1: 当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子	新庄藩主・戸沢政盛公や城下のつくりについて学ぶ  新庄藩主・戸沢政盛公や城下のつくりについて学ぶ 標柱に書かれた旧町名の由来を読みながら、クイズを解く①  標柱に書かれた旧町名の由来を読みながら、クイズを解く②  新庄北、新庄神室産業真室川校、新庄東北村山の生徒が参加した 
-------	--

カテゴリ分類	課題発見解決等			提供者	金山町総合政策課					
プログラム名	高校生×SDGsカードゲーム									
協力者	地域振興サポート会社まよひが企画 佐藤恒平氏、地域おこし協力隊、新庄南高金山校									
日時	①令和3年8月2日(月) 9:30~12:00			場所	金山町中央公民館					
	②令和3年9月1日(水) 15:45~16:15				新庄南高校金山校(プログラム外で実施)					
	③									
参加者(延べ)	高校生	13人	中学生	地域の大人	6人	大学生	関係者	6人	計	25人

地域課題・達成目標	急速な人口減少など様々な社会情勢に対応しながら、「誰もが生涯活躍できる町」の実現にむけ、一人ひとりの個性や創造性を発揮できる環境づくりが必要。SDGsの学びを通して、自らの課題に対し解決していくために必要な生き抜く力を身につける。						
プログラム内容	第1回講座では、高校生の今だから発揮できる豊かな感性で、SDGsについて楽しく学んでもらうためカードゲームを実施。第2回講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、新庄南高金山校生に限定して振り返りを実施(他校生には書面対応)。「SDGs11.住み続けられるまちづくり」を中心に、高校生にもできるSDGs的な活動について考える機会とした。						
実施に当たっての工夫	SDGsのカードゲームをして終わりではなく、ジモト大学のコンセプトに基づき、住み続けられるまちづくりや高校生にもできるSDGs的な活動を考えてもらうことで、より身近に感じながら学んでもらうことができた。新型コロナウイルス感染症対策として、検温や会場の換気、消毒をこまめに実施し、参加者の距離感にも配慮した。また、地域おこし協力隊や高校の先生にも参加してもらい、大人との交流も図った。						
課題や目標に対する成果	周りの状況や自分の置かれている立場を考えながら行動する姿が見受けられ、地域課題・達成目標にもある「自らの課題に対し、解決していくために必要な生き抜く力を身につける」きっかけに繋がったと思われる。また、何より参加者が楽しみながら学ぶことができ、目標は達成したと思われる。						
所感・感想改善点	世界の状況として「経済」「環境」「社会」のバロメーターを意識しながら、SDGsカードゲームにチャレンジしていただいた。周囲の状況や自分の置かれている立場を考えながらゲームを進めたり、住み続けられるまちづくりや高校生にもできるSDGs的な活動を考えてもらうことで、より身近に感じながら学んでもらうことができたと思う。地域との関わりの中で、自分や地域の課題を見つけ、SDGsを意識しながら自分自身の行動を考えるきっかけづくりになればと思う。また、定員よりも多くの方に参加してもらうことができた。高校生には、就職や進学で一度は町を離れる場合でも、「将来の暮らしの場」として金山を選択できるように、今後も地元への愛着と誇りを持ってもらえるような機会を作っていきたい。						
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容 場所が近い 友達と一緒に

※アンケートの項目は「4: とても当てはまる」「3: 当てはまる」「2: あまり当てはまらない」「1: 当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
 ※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

経済・環境・社会を意識した交渉の様子。時間とお金が足りず、プロジェクト達成に苦戦する場面も。



集合写真



プロジェクト達成



カテゴリ分類	体験、フィールドワーク	提供者	最上町地域おこし協力隊
プログラム名	日台地元PRプロジェクト～MOGAMIから你好！～		
協力者	最上町、最上町地域おこし協力隊、高登日本語学校、最上総合支庁連携支援室		
日時	①令和3年7月15日（木）16:00～18:15	場所	最上町セミナーハウス 食堂
	②令和3年9月16日（木）16:30～18:00		中央公民館 調理実習室
	③令和3年12月18日（土）14:00～15:45		中央公民館 みどりホール
参加者(延べ)	高校生 7人	中学生	地域の大人
		大学生	関係者 12人
			計 19人

地域課題・達成目標	コロナ禍の情勢の中で交流の場や体験する機会が減少している。身近になったオンラインでのコミュニケーションを活用し地元の魅力を海外にPR・交流する場を創出することで、郷土愛を醸成すると共に、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を育成する。		
プログラム内容	最上町地域おこし協力隊の張隊員（台湾出身）と「台湾から日本へ旅行に来たら、どこを一番紹介したいか」をテーマに実施。1回目はワークショップを行い、動画作成のテーマを決めた。2回目は、各々持ち寄った動画の編集作業と、自己紹介を中国語でできるように練習した。3回目は台湾の高登日本語学校の生徒の方と相互にPR動画等で地域の魅力を紹介、内容についての感想や質疑など交流を行った。		
実施に当たっての工夫	プログラムに際し、LINEグループを作り、作業の進捗や連絡などをしやすい環境を整えた。日程などは参加高校生の都合になるべく合わせる形で参加しやすいよう配慮した。		
課題や目標に対する成果	参加している高校生の一人は、プログラム当初自ら言葉を発することが少ない印象であったが、最後の台湾との交流時には、自分のプレゼン内容を堂々と説明できており、数ヶ月で成長がみられた。また、アンケートではオンラインでの参加に難しさはあったものの、充実し楽しかったとの感想だったことで、目標は達成し、成果が得られたものとする。		
所感・感想改善点	プログラムの実施にあたっては、地域おこし協力隊の張隊員を中心に行い、参加高校生からは、楽しかったとの感想をいただき、大変良かったと思う。また、回を増すごとに成長を感じる高校生もあり、そのような姿をシモト大学を通じて見ていただき、プログラム提供側として良かったと感じた。 一方、当初参加高校生は3名であったが、1名辞退することになってしまったことは、残念であった。今年は、高校に出向きプログラムの説明やPR動画の作成を行ったが、高校生にとって、本プログラムが「難しいもの」「したことがないから、参加しづらいもの」という印象からか、申込自体も少なかった。毎年の検討事項ではあるが、どう高校生に参加を促すような取り組みができるか、改めて検討していく必要性を実感するとともに、学校側と連携を図れるようにしていきたい。		
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%
		②大人の情熱が感じられた	100%
	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容	関係者からの勧め

※アンケートの項目は「4:とても当てはまる」「3:当てはまる」「2:あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

【第1回目】ワークショップでテーマを決定



【第2回目】動画の編集の仕方を選び、実際に編集作業を行う



【第3回目】地元の魅力を台湾にPR



交流プログラムを終え、参加者全員で記念撮影



カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）			提供者	舟形町まちづくり課						
プログラム名	あつまれ ミライの公務員										
協力者											
日時	①令和3年8月3日（火）9：00～15：00				場所	舟形町役場					
	②令和3年8月4日（水）9：00～15：00					同上					
	③										
参加者(延べ)	高校生	16人	中学生	地域の大人	9人	大学生	2人	関係者	4人	計	31人

地域課題・達成目標	町総合発展計画『住んでいる人が誇れるまちづくり「わくわく未来ふながた」』の実現に向け、優秀な人材の育成と確保が町の課題である。公務員の仕事ややりがいを理解し、公務員やまちづくりに興味を持つ高校生を増やしたい。								
プログラム内容	座学だけでなく、より具体的に仕事の内容を知ってもらうために、1日目は役場の若手職員に密着し、仕事振りを観察する「ジョブシャドウイング」を行った。観察した職場の様子を報告しあい、課により、業務内容は様々であることをみんなで共有した。2日目は、まちづくりシミュレーションゲーム「SIMふながた2030」を行い、町では定めた計画に基づき、限られた財源の中で事業を行っていることをゲームを通して体感した。								
実施に当たっての工夫	高校生と接する職員については、話しやすい環境となるように、より年齢の近い若手職員にお願いした。職員にとっても、自身の仕事を高校生へしっかりと伝えるために、あらためて振り返る良い機会となった。								
課題や目標に対する成果	振り返りの中で「上下関係があり、かたい仕事というイメージだったが、みんなで協力しながら仕事をしていて印象が変わった。」「コミュニケーションがとても大事だとわかった。」との感想があった。これからの学校生活で何を学ぶべきか、また社会に出て働くまでにどんなことを身につけるべきか、それぞれ感じ取ってもらえたと思う。								
所感・感想改善点	公務員になりたいと思っている、または、周りが公務員を勧めるが、具体的な仕事内容がわからないため、このプログラムに参加したという生徒がほとんどだった。 2日間ではごく一部しか伝えきれなかったが、まちづくりのために、それぞれの業務に責任を持って取り組む、我々職員の熱意は伝わったのではないかなと思う。 高校生が、シモト大学の様々なプログラムに参加し、この地域に興味関心を持って活動することが、地域の活力となり、まちづくりにつながる。公務員の仕事に興味を持ってもらうことはもちろん、今回の参加をきっかけに自分の住む地域にも目を向け、まちづくりに興味を持ってくれたらと期待している。								
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容		

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子	デスクワークの様子を間近で観察  酪農家の牛舎へ行く職員に同行し、仕事は事務だけではなく職員に同行し、  プログラムの参加して意欲がどう変わったかをふり振り返り、一人ひとり発表  限りある財源の中、事業の取捨選択について議論が白熱 
-------	--

カテゴリ分類	体験、フィールドワーク	提供者	真室川町企画課
プログラム名	【真室川deデコレーションPJT】オリジナルのマステで地域を彩ろう！		
協力者	真室川町企画課職員、地域のデザイナー		
日時	①令和3年 7月24日(土) 13:00~16:30	場所	真室川町中央公民館ほか町内
	②令和3年 8月11日(水) 14:00~16:30		真室川町役場
	③令和3年10月16日(土) 13:00~16:00		ゆめりあ
参加者(延べ)	高校生 18人	中学生	地域の大人 6人
		大学生	関係者 6人
			計 30人

地域課題・達成目標	地域の魅力・真室川らしさとは何かを発見・言語化し、他者に伝える。								
プログラム内容	真室川をPRするマスキングテープを作成する。①町の魅力探訪（町歴史民俗資料館、一級河川真室川、最上伝承野菜圃場）、マスキングテープ購入ターゲットを考えるワークショップ②コンセプトの確認、デザイン案の突合せ（②と③の間～LINEでの打合せ・デザイン確定・商品完成～）③販売会の実施と振り返り								
実施に当たっての工夫	実際にデザインする前に、伝えたい価値は何か・マスキングテープで何を表現するのか・使ってくれる人は誰か、という視点を重視し、地域の魅力を深掘りする作業を重点的に実施した。								
課題や目標に対する成果	マスキングテープを使用することが多い女性に向けて方言の面白さや魅力を伝えようというコンセプトを固め、商品化を実現することができた。								
所感・感想改善点	単にイラストを描くのではない形としたため、参加者は誰に何を伝え、どう表現するのかに大いに悩んでいる様子だった。地元の魅力を発見してもらう当初の目標を達成したことに加え、商品を生む過程（の大変さ）や、自分が作ったものが売れた時の喜びなど、日常外の体験を提供できたのではないかなと思う。								
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	80%	②大人の情熱が感じられた	90%	2.プログラムの選択理由	場所が近い	魅力的な内容	友達と一緒に

※アンケートの項目は「4:とても当てはまる」「3:当てはまる」「2:あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

町の魅力さがしに歴史民俗資料館へ

ゆめりあでの販売会。熱心に商品説明

大人たちと商品コンセプトを練る。つづ

完成したマステの一部。方言を話す熊の親子が真室川の四季をたどる。

カテゴリ分類	体験、フィールドワーク			提供者		大蔵村総務課				
プログラム名	YouTube動画を本格的な機材で制作！									
協力者	大蔵村棚田生産販売組合、農家のお母さん、映像クリエイター									
日時	①令和3年9月22日（水）13：00～17：00			場所	四ヶ村の棚田					
	②									
	③									
参加者(延べ)	高校生	2人	中学生	地域の大人	3人	大学生	関係者	3人	計	8人
地域課題・達成目標	四ヶ村の棚田では棚田の維持が難しくなっている現状がある。近年、村では棚田米のブランド化を推し進め、PRしている。棚田を維持する農業という職業を知ること。また、映像クリエイターに触れることで、地域での職業選択の幅を広げる。									
プログラム内容	映像クリエイターの本格的なカメラやドローンで棚田を撮影。棚田米の生産者に農家を継いだ理由や棚田米の魅力、棚田米生産販売組合で取り組んでいることなどをインタビュー。農家のお母さんにできたての新米でおにぎりを握ってもらい、それを撮影。高校生が実食を行い、棚田米の特徴を味わい、動画で伝える。撮影した映像の編集の仕方についてレクチャーを受ける。動画は村の公式YouTubeチャンネルで配信。									
実施に当たっての工夫	全国棚田（千枚田）サミットが大蔵村で開催される予定だった本年。棚田をテーマに講座を開講した。棚田での農業に触れることはもちろんのこと、棚田をPRすることに取り組んでもらった。映像クリエイターとして地域で活躍している方に指導してもらうことで、本格的な映像制作に触れ、地域でのつながりを生むことができた。また、撮影した動画を村公式でアップすることで、実現性を感じてもらうように工夫した。									
課題や目標に対する成果	YouTubeを見る側だった高校生に、動画を作る側を体験してもらうことができた。地域では職業選択の幅が狭くなりがちだが、農家や映像クリエイターと接することで、それらの仕事を地域でできる仕事だと知ってもらえた。									
所感・感想改善点	棚田だけの学びではなく、動画制作についての学びを提供することができた。高校生からは「インタビューから、棚田で米づくりを行う耕作者の想いや大変さを知れた」という感想があった。また、映像制作については、「いつもは何気なく見ているYouTube動画の制作を知れた」という感想があった。棚田の耕作が大変だということだけでなく、棚田での新たな取り組みや映像の制作を学んだことで、「自分たちにできることを考えてみたい」と地域を自分ごととして考える高校生がいた。地域の方との会話やインタビューが単調になってしまった部分があったので、より学びが深まるよう、会話のキャッチボールについてのレクチャーなどに課題があったが、クリエイティブな仕事をする大人と高校生が繋がるきっかけになるプログラムにできてよかった。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容	友達と一緒に		

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

機材の使い方や撮影のレクチャーを受ける。



棚田米のブランド化を目指す棚田米生産販売組合長にインタビュー。



撮影。手元アップで湯気も映す工夫も。



新米のおにぎりを実食し、視聴者に味を伝える高校生。



カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）			提供者	鮭川村総務課					
プログラム名	Youはなぜ田舎（さけがわ）に？									
協力者	最上総合支庁連携支援室、鮭川村地域おこし協力隊 角田歩、秀林寺住職 遠田旭有									
日時	①令和3年10月3日（日） 13:00～16:00			場所	オンライン					
	②									
	③									
参加者(延べ)	高校生	6人	中学生	地域の大人	2人	大学生	関係者	3人	計	11人

地域課題・達成目標	高校生になると地元について学ぶ時間が確保しにくくなり、長年住んでいる地元の魅力に気付きにくくなっていると思われることから、移住者目線から地元の魅力を発見するヒントを得て、地元に対する興味・関心を持ってもらう。								
プログラム内容	田舎の状況について鮭川村を例にデータで見える化して紹介したうえで、鮭川村に移住してきた人の話を聞いてもらった。高校生には移住者の話を聞いての感想やプログラム実施前後での田舎（地元）に対するイメージの変化等について発表してもらい、田舎のもつ良さや魅力を発見してもらいつつ、会話を通して地元の大人と交流した。								
実施に当たっての工夫	1）高校生には事前に発表してもらう内容を周知しつつも、鮭川村に係る情報の予習等をしないようにお願いし、質問時点での率直な意見・イメージを聞くことができたようにした。 2）地元の大人について、移住者かつ取り組み内容が多岐に渡る方を選定して話をさせていただき、学びのヒントが多くなるようにした。								
課題や目標に対する成果	普段生活していると当たり前になっている地元のモノ（特産品、観光スポット、文化等）について、他との比較によりどのように魅力的（単純に比較しての「良い・悪い」ではなく）かを再認識してもらうことができた。 また、自分の地元が抱える課題について考えてもらうきっかけづくりになり、これからの学習に活かす材料の提供ができたと思われる。								
所感・感想改善点	高校の授業という受験勉強向けの授業が多くなりがちだが、自分の地元の魅力を考える・見つけることを高校生になってからすることで、意外と気付かない地元（いわゆる「田舎」全般的なことも含めて）の魅力に気付く高校生が多く、地元に対する考え方が変わったという意見が多く聞かれた。 プログラムの運営について、大人の参加者はコンセプトに合わせて選定することができ、高校生とも積極的に交流してもらえたのでよかった。一方、参加者の一部欠席に伴う確認作業で開始時間が少し遅れたため、後半の意見交換の時間がその分減ってしまったので、他の部分で調整して時間を確保できればなおよかった。								
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	80%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	参加しやすい日程	魅力的な内容	

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子	地域おこし協力隊から現在の取り組みについて語ってもらう 	スライドを使って説明 
	鮭川村に移住した方の経験談に参加者全員が耳を傾ける 	鮭川村について紹介 

カテゴリ分類	体験、フィールドワーク		提供者	戸沢村まちづくり課						
プログラム名	とざわの伝統、未来へ繋ごう									
協力者	戸沢村まちづくり課、角川地区語り部、角川雪回廊物語実行委員会									
日時	①令和3年10月17日（日）10:00～12:00			場所	オンライン					
	②令和3年11月20日（土）10:00～12:00				オンライン					
	③									
参加者(延べ)	高校生	12人	中学生	地域の大人	11人	大学生	関係者	4人	計	27人

地域課題・達成目標	地元の歴史に触れる機会、地域のイベントに参加する若者が年々減少している現状にある。地域の魅力に対する気付きや、地域の大人の声を聞くことにより、自分達の進路選択の幅を広げるきっかけにしたい。				
プログラム内容	地域の語り部の方より、地元の昔話をしてもらい、印象に残ったシーンを絵に起こしてもらおう。作品は、毎年2月に開催している、「角川雪回廊物語」に出展する。プログラムの中で、地元の実行委員会の方に活動紹介や地域課題等についてお話してもらい、伝統文化を学ぶと共に、自分にできることは何かについても考えるきっかけを作る。				
実施に当たっての工夫	対面で出来れば良かったが、コロナウイルス関連で安全を考慮し、オンラインという形で実施した。一方的なプログラムにならないように、アイスブレイクを取り入れながら行った。当日は、画像や動画を流し参加者に分かりやすいように、またスムーズに進められるように事前準備が重要と考え、進めた。				
課題や目標に対する成果	地域の伝統文化や、地域を盛り上げようと活動している大人たちの話を聞いて、様々な仕事や地元について考えてもらうきっかけになったと感じている。卒業後、どのような進路を選択しても、今回のプログラムやイベント参加を通して多様な形で地元に関わることができるということを学んでもらえたと思っている。				
所感・感想改善点	今年は、完全オンラインで実施した。最初は、参加者を集めることに苦戦していたが、直接高校の先生を通して、生徒に声掛けしてもらった。少人数ではあったが、高校生と大人を巻き込んで、地元について知り、考えるきっかけになったのではないと思う。来年度は、対面でプログラム提供できればと思う。				
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%
	2. プログラムの選択理由	先生の勧め	友達と一緒に		

※アンケートの項目は「4:とても当てはまる」「3:当てはまる」「2:あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

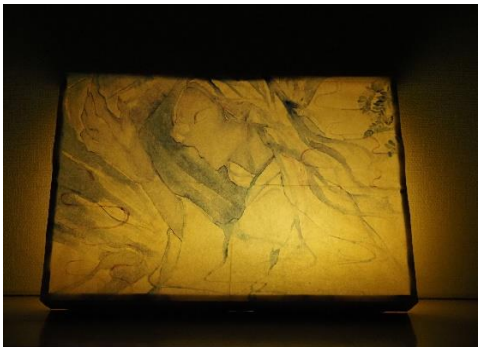
※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

地域の語り部による昔話



昔話から想像するワンシーン



オンラインでの実施



参加者



26

カテゴリ分類	体験、フィールドワーク			提供者	尾花沢市定住応援課							
プログラム名	アクティビティを通して歴史とイベント運営を知る！ー 歴史ある湖には、ドラマがある ー											
協力者	徳良湖ヨット倶楽部											
日時	①令和3年7月18日(日)8：30～12：30			場所	尾花沢市徳良湖畔							
	②											
	③											
参加者(延べ)	高校生	8人	小学生	4人	地域の大人	9人	大学生		関係者	9人	計	30人

地域課題・達成目標	花笠音頭が生まれた徳良湖の歴史を知り、遊びを通して徳良湖の魅力を発見していく。										
プログラム内容	①築堤100年を迎える徳良湖のはじまりと歴史について、徳良湖ヨット倶楽部の皆さんに学ぶ。②現在、徳良湖の歴史保存と活性化への取り組みを実施している徳良湖ヨット倶楽部の活動について聞き、実際にヨットやカヌーを体験しながら、体験教室の目的と役割についてレクチャーを受ける。◎参加者の受付 ◎ライフジャケット貸出 ◎徳良湖ヨット倶楽部会員及び県セーリング連盟指導員のスタッフと一緒に安全確保活動 ◎昼食準備										
実施に当たっての工夫	①地域活動団体の目的や活動内容を重点的に話をしてもらい、運営側としての意識付けを行った。②安全確保のため湖面活動の前に陸地にて指導を受け、体験教室の補助、さらに湖面の維持管理にも携わった。										
課題や目標に対する成果	①徳良湖に初めて訪れた学生もあり、「行ってみたい」から「実際に体験する」までプログラムを通して経験できた②徳良湖という地域資源を活用し、カヌーやヨットなどのアクティビティを初めて体験した生徒も多く、このような場所が尾花沢にあることが幸せだと感じる生徒や、面白い大人たちと話げできたこと、貴重な体験に対する高評価が多かった。以上のことからある一定の成果が認められる。										
所感・感想改善点	実施するにあたり計画の段階から地域団体の協力が有り、円滑な事業運営ができた。徳良湖ヨット倶楽部の皆さんには、半日の中で高校生を運営の一員として役割を与えてもらい、また次に自分が何をすべきか主体性を促すような取り組みをしていただいた。大人側のアンケートでは、「大人が高校生のために何が出来るかではなく、高校生が何を望んでいるかが重要であり、自分が挑戦したいと思うことが大切」といただいたように、高校生のやりたいと行政側のゴールを擦り合わせながら計画していかなければジモトのヒト、モノ、コトの良さは伝えられないと感じた。										
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容	友達と一緒に	参加しやすい日程		

※アンケートの項目は「4:とても当てはまる」「3:当てはまる」「2:あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子	開講式  カヌー体験し、安全確保のレクチャーを受ける 			徳良湖ヨット倶楽部の活動や目的について講義を受ける  全員でヨットに乗船 		
-------	---	--	--	---	--	--

カテゴリ分類	課題発見解決等				提供者	尾花沢市定住応援課					
プログラム名	こだわりのそば「原種最上早生」を使ってそばガールズと一緒に商品開発！										
協力者	北村山高等学校 そばガールズ										
日時	①令和3年7月10日(土)9:00~12:00				場所	GOOSE CAFE					
	②令和3年7月22日(祝)9:00~12:00					北村山高等学校					
	③令和3年10月30日(土)9:00~12:00					北村山高等学校					
参加者(延べ)	高校生	48人	小学生	人	地域の大人	4人	大学生	関係者	11人	計	63人
地域課題・達成目標	尾花沢には「原種最上早生」にこだわり原種保存育成とそば振興に取り組む職人たちがいるが、若年層の認知度が低く後継者不足など問題も抱えている。そば職人の熱い思いと取り組みを知ってもらい、さらに高校生がメニューを考案することでそばの振興に繋げていく。										
プログラム内容	①地域おこし協力隊がオープンさせた徳良湖GooseCafeでそば職人の方から「原種最上早生」の継承と保存、さらにそば振興への取り組みを聞き、デスカッションを行う。そばガールズと一緒にメニュー考案。②そばガールズの皆さんにアドバイスをもらいながら試作品を作る③試作品のプレゼンを実施する。										
実施に当たっての工夫	①感染症対策のため北村山高等学校で実施②メニュー考案から製作までは、高校の協力で考究授業の時間やそばガールズの活動時間を使い完成に導いた③そば粉の特性を職人の方から話をしていただきカフェ運営を行っている地域おこし協力隊の方からそば粉を使用した菓子の試食品を何種類か提供していただいた④審査の際は、市内菓子店の料理人やそばの生産者、そば職人による審査と様々な目線によるアドバイスをいただいた										
課題や目標に対する成果	原種最上早生の取り組みとそば粉の特性を学び、実際にプロの菓子を食してみるなどインプットに重点を置き、さらにアウトプットの成果にはパティシエ、そば職人、生産者等が食しアドバイスや感想をもらうなど、事業の完成度が高かった。ただ、北村山高校の全面的協力によって成り立った事業であり、学校側の負担は大きかったと感じている。今後もそばガールズの皆さんとの事業を計画しており、継続可能な取り組みとしたい。										
所感・感想改善点	開講式から北村山高校のそばガールズの皆さんが運営し、さらにはメニュー開発、試作品の製作、プレゼンの実施まで積極的に取り組んでいただいた。3回コースであったが、実際は、考究授業や放課後、クラブ活動時間も自主的に費やし、完成したメニューのレシピ本を作成し市内店舗へ配布するなど、こちらの想定するもの以上の成果があり素晴らしい事業となった。次年度に向け、そばガールズが主体となり講師として活動できるようなプログラムを学校、生徒の皆さんと相談しながら企画していきたい。ゼロから創り出すことは非常に難しいことだが、高校生がアイデアを出し合いながらメニュー開発することで、ジモトのそば粉最上早生の可能性を今後も応援してもらいたい。										
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容	先生の勧め			

※アンケートの項目は「4: とても当てはまる」「3: 当てはまる」「2: あまり当てはまらない」「1: 当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子	開講式の様子  試作品づくりの様子 	こだわりのそば「原種最上早生」のブランド化に取り組むそば職人トークショー  出来上がった菓子。本当に美味しかった!! 
-------	--	---

カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	最上総合支庁保健企画課
プログラム名	医療福祉座談会		
協力者	県立新庄病院、新庄徳洲会病院、(株)メディカ ほし薬局、最上総合支庁保健企画課等		
日時	令和3年8月2日（月） 13:45～16:00	場所	新庄市民プラザ（第4研修室） 新庄市民プラザ（第5、6研修室） 新庄市民プラザ（小ホール）
参加者（延べ）	高校生 59人 中学生 人 地域の大人 6人 大学生 人 関係者 12人 計 77人		

地域課題・達成目標	最上地域は医師をはじめとした医療・介護従事者が他の地域に比べ不足している。将来を担う若者に医療・介護職への関心を深めてもらい、将来的に最上地域で就業する医療・介護従事者の確保に結び付けることが目標。									
プログラム内容	参加者は「医師・薬剤師」「理学療法士・臨床検査技師」「看護師・介護福祉士」の3コースに分かれ、希望する職種のコースで、仕事内容や、やりがいなどについて講師から話をお聞きした。最上地域で勤務する医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師・理学療法士・介護福祉士の方々に講師をお願いし、参加者からの質問に答えていただきながら懇談を進めた。									
実施に当たっての工夫	参加者がリラックスして参加できるように、以下の点を工夫しながら行った。 ・講話の際の参加人数はできる限り少ない人数で行った。 ・講師の先生方には、心理テストやクイズ、体操などを講話の中で交えていただいた。 ・事前に質問を募集した。									
課題や目標に対する成果	事業実施後のアンケートでは「講師の先生方の実体験などを聞くことができて職業に対してのイメージをより強く持てました」「高1、高2の時からこの座談会に参加しているけれど、毎回話を聞いたたびに医療の仕事への興味が大きくなります」などの感想が寄せられ、仕事への興味関心や、医療・介護従事者への志望意欲を高めてもらうことができた。									
所感・感想改善点	昨年度は、参加者全員が全ての職種（6職種）の講師の話を書くプログラムとしたため、講師1人当たりの時間が15分程度であった。そのため、昨年度は「1人あたりの時間が短かった」「興味のある職種をもっと長く聞きたかった」との感想があった。 今年度は、昨年度の感想を踏まえ、2職種に絞った内容（2職種×40分）とし、アンケートでは「今回の進め方で良い」との回答が8割超のため概ね良かった。 新型コロナの影響により、昨年度より定員を減らして開催せざるを得なかったことは残念だった。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容	先生の勤め		

※アンケートの項目は「4: とても当てはまる」「3: 当てはまる」「2: あまり当てはまらない」「1: 当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子	医師と薬剤師の講話 	理学療法士の講話 
	臨床検査技師の講話 	介護福祉士の講話 

カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	最上総合支庁保健企画課
プログラム名	医療現場見学会		
協力者	最上総合支庁保健企画課、新庄徳洲会病院		
日時	①令和3年8月6日（金）14:00～16:00 ②令和3年8月10日（火）14:00～16:00	場所	①新庄徳洲会病院 ②新庄徳洲会病院
参加者（延べ）	高校生 34人 中学生 人 地域の大人 15人	大学生 人	関係者 8人 計 57人

地域課題・達成目標	最上地域は医師をはじめとした医療従事者が他の地域に比べ不足している。将来を担う若者に医療職への関心を深めてもらい、将来的に最上地域で就業する医療従事者の確保に結び付けることが目標。									
プログラム内容	両日とも同じプログラム内容で実施。①新型コロナウイルス感染症に留意しながら、見学場所に配慮して院内を見学（リハビリテーション、救急外来など）。各日4班に分かれ、新庄徳洲会病院の職員の方々から説明を受けながら、院内を回った。②その後、医療従事者の方々（看護師、薬剤師、技師、リハビリ職など）との懇談を行い、参加者からの質問に対し、様々な職種の視点から回答していただいた。									
実施に当たっての工夫	参加者から、「志望職種」「質問事項」を事前に提出していただき、講師の先生にお伝えすることで、あらかじめ講師の先生が回答を準備することができ、スムーズに懇談を進めることができた。									
課題や目標に対する成果	事業実施後のアンケートでは「自分が将来の仕事を考えるうえで、不安に思っていたことを教えてもらい、不安が取り除けた。」や「たくさんの職種の方がいて、実際に質問などができたということとは、とても貴重な経験になりました。今までよりもさらに夢をかなえたいという気持ちが大きくなりました。」などの感想が寄せられており、医療従事者への志望意欲をさらに高めてもらうことができた。									
所感・感想改善点	参加者から事前に「志望職種」を提出していただくことで、その志望職種に合わせて懇談に対応いただく医療従事者の方々を手配いただき、大変良かった。自分が志望する職種の方に直接質問することができて、参加者にとって貴重な機会となったと思う。また、新型コロナの影響で見学場所は限られたものの、事業に引き続き協力をいただくことができて良かった。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容	友達と一緒に	先生の勧め	

※アンケートの項目は「4:とても当てはまる」「3:当てはまる」「2:あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子	見学の様子①救急外来  見学の様子②リハビリテーション室 
	見学の様子③透析室  先輩との懇談 

カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	最上総合支庁地域産業経済課
プログラム名	しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～		
協力者	最上総合支庁地域産業経済課、(株)さくらプランニング、最上管内企業等で働く若手社員		
日時	①令和3年7月20日（火）13:45～15:35 ② ③	場所	新庄南高等学校金山校
参加者（延べ）	高校生 42人 中学生 地域の大人 3人 大学生 関係者 4人 計 49人		

地域課題・達成目標	様々な職場で働く若手社員から、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらうことで、地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらうとともに、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等の促進につなげる。									
プログラム内容	学年ごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。これを3回繰り返す。最後にふりかえりとして、代表生徒から感想を発表してもらい、ゲストから応援メッセージをいただく。									
実施に当たっての工夫	・学校の授業の一環として実施。当日の進め方や希望職種などについて学校と調整しながら進めた。検温・消毒等の新型コロナの感染防止対策を講じたうえで開催した。 ・ゲストの方には、仕事内容ややりがい等をスケッチブックに紙芝居形式でまとめてもらい、当日はそれを使ってお話いただいた。 ・各グループの進行については、学校の先生にご対応いただいた。									
課題や目標に対する成果	・アンケート結果では、「どの先輩も目標や支えがあり、楽しく仕事していると感じた。地元就職のイメージが変わった。」「自分を見つめ直して将来に向けて頑張りたい。」といった声が聞かれ、進路や将来を考える契機になったと思われる。 ・地元就職の良さを感じた生徒も多く、実際にこの地域で生き活きと暮らしている大人との対話を通して、地元企業の魅力やここでの暮らしの良さなどがしっかりと伝わったものと思われる。									
所感・感想改善点	・1回目のグループトークでは、ゲストの説明が長くなってしまい、質疑応答の時間があまり取れないところもあったが、2回目以降は上手く調整してお話くださり、概ね時間通りに進めることができた。 ・アンケート結果を見ると、ほとんどの生徒が「充実し、楽しかった」と回答しており、「自分の将来に向けてとてもいい勉強になった。」「学んだことを高校生活に活かしていきたい。」といった前向きな感想が多く見られた。 ・コロナ対策を講じながらの開催のため、表情の見えづらさや声の聞き取りにくさは多少あったものの、支障なく交流することができた。 ・終了後、ゲストからは「参加して良かった。」との声をいただき、学校からは「生徒にとって良い学びになった。」と評価いただいた。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	98%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	—	—	—	—

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子			
オリエンテーションの様子		グループトークの様子	
紙芝居を使って仕事のやりがい等、わかりやすく説明くださいました。		最後に、代表生徒から感想発表と御礼の言葉をいただきました。	

カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）		提供者	最上総合支庁地域産業経済課		
プログラム名	しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～					
協力者	最上総合支庁地域産業経済課、(株)さくらプランニング、最上管内企業等で働く若手社員					
日時	①令和3年7月28日（水）9:30～11:25			場所	新庄北高等学校	
	②					
	③					
参加者(延べ)	高校生	138人	中学生	地域の大人	8人	大学生
						関係者
					8人	計
						154人

地域課題・達成目標	様々な職場で働く若手社員から、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらうことで、地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらうとともに、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等の促進につなげる。								
プログラム内容	グループに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。これを3回繰り返す。最後にふりかえりとして、代表生徒から感想を発表してもらい、ゲストから応援メッセージをいただく。								
実施に当たっての工夫	・学校の授業の一環として実施。進め方等については学校と調整。各グループの進行については、学校の先生にご対応いただいた。 ・階を跨いだ複数会場での実施だったため、移動時間を十分確保することで時間調整を図れるようにした。 ・ゲストの方には、仕事内容ややりがい等をスケッチブックに紙芝居形式でまとめてもらい、当日はそれを使ってお話いただいた。								
課題や目標に対する成果	・アンケート結果では、「地元企業の話はとても参考になり、自分の進路とより向き合うことができた。」といった声が聞かれ、進路や将来を考える契機になったと思われる。 ・地元就職の良さを感じた生徒も多く、実際にこの地域で生き活きと暮らしている大人との対話を通して、地元企業の魅力やここでの暮らしの良さなどがしっかりと伝わったものと思われる。								
所感・感想改善点	・ゲスト全員卒業生で、部活など共有できる話題があったこともあり、終始和やかな雰囲気での交流が行われた。 ・1回目のグループトークでは、ゲストのプレゼン時間が長くなり、質疑応答の時間があまり取れないグループもあったが、2回目以降は上手く調整していただき、概ね時間通り進めることができた。 ・移動時間を十分取ったことにより、全体進行もスムーズだった。 ・グループの人数が多く、マスク着用ということもあり、多少声の聞き取りにくさ等があった。 ・アンケート結果では、参加者の満足度も高く、「高校生活で培ったことが将来も役立つことがわかった。目標を持ち積極的に行動できる人になりたい。」、「地元の大人の人たちが皆自分の仕事に誇りを持っていることに心を動かされた。」といった前向きな感想が多く見られた。								
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	99%	②大人の情熱が感じられた	99%	2. プログラムの選択理由	—	—	—

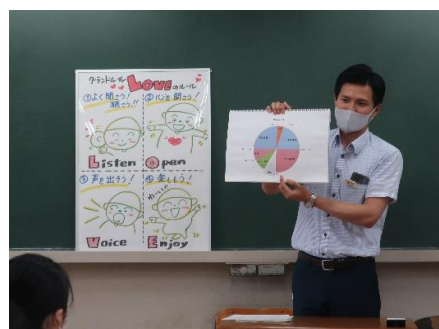
※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
 ※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

グループトークの様子



ゲストの皆さん、紙芝居を使って丁寧にわかりやすくお話くださいました。



生徒からの質問にも丁寧に答えいただきました。



最後に代表生徒から、感想発表とお礼の言葉をいただきました。



カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	最上総合支庁地域産業経済課
プログラム名	しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～		
協力者	最上総合支庁地域産業経済課、(株)さくらプランニング、最上管内企業等で働く若手社員		
日時	①令和3年9月24日（金）16:00～17:30	場所	新庄神室産業高等学校
	②		
	③		
参加者(延べ)	高校生 37人	中学生	地域の大人 5人
		大学生	関係者 3人
			計 45人

地域課題・達成目標	様々な職場で働く若手社員から、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらうことで、地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらうとともに、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等の促進につなげる。								
プログラム内容	グループに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。これを3回繰り返す。最後にふりかえりとして、代表生徒から感想を発表してもらい、ゲストから応援メッセージをいただく。								
実施に当たっての工夫	・学校の希望により、女子生徒を対象に実施。当日の進め方や希望職種などについて学校と調整しながら進めた。検温・消毒等の新型コロナの感染防止対策を講じたうえで開催した。 ・ゲストの方には、仕事内容ややりがい等をスケッチブックに紙芝居形式でまとめてもらい、当日はそれを使ってお話いただいた。 ・会場のセッティングや各グループの進行については、学校の先生方にご協力いただいた。								
課題や目標に対する成果	・アンケート結果では、「地元で働くメリットは多いと感じた。」、「仕事内容はもちろん、様々な人の考え方を知ることができ、職業選択の幅が広がった。」といった声が聞かれ、進路や将来を考える契機になったと思われる。 ・地元就職の良さを感じた生徒も多く、実際にこの地域で活き活きと暮らしている大人との対話を通して、地元企業の魅力やここでの暮らしの良さなどがしっかりと伝わったものと思われる。								
所感・感想改善点	・女子生徒を対象とし、ゲストも女性社員ということで、笑い声が響きながらの楽しい時間となった。 ・ゲストは仕事内容だけでなく、地元就職を選んだ理由や、実際の生活などについても丁寧にお話くださり、質疑も活発に行われた。 ・アンケートでは生徒の満足度も高く、「就職を考えるにあたり気になっていたリアルな金銭面や休日などを知ることができて良かった。」、「自分の将来を深く考えることができた。地元で働こうと強く思えた。」といった前向きな感想が多く見られた。 ・ゲストからも「楽しかった。」、「元気をもらえた。」との声を多くいただいた。								
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	—	—	—

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
 ※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

ご協力いただいた女性社員の皆さん



皆さん、工夫を凝らした紙芝居を準備してくださいました。



仕事はもちろん、休日の過ごし方まで赤裸々に語ってくださいました。



終始笑い声が響きながらの楽しい時間となりました。



カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	最上総合支庁地域産業経済課
プログラム名	しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～		
協力者	最上総合支庁地域産業経済課、(株)さくらプランニング、最上管内企業等で働く若手社員		
日時	①令和3年10月29日（金）13:20～15:10 ② ③	場所	新庄東高等学校
参加者（延べ）	高校生 32人 中学生 地域の大人 5人 大学生 関係者 3人 計 40人		

地域課題・達成目標	様々な職場で働く若手社員から、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらうことで、地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらおうとともに、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等の促進につなげる。									
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。これを3回繰り返す。最後にふりかえりとして、代表生徒から感想を発表してもらい、ゲストから応援メッセージをいただく。									
実施に当たっての工夫	・学校の授業の一環として実施。当日の進め方や希望職種などについて学校と調整しながら進めた。検温・消毒等の新型コロナの感染防止対策を講じたうえで開催した。 ・ゲストの方には、仕事内容ややりがい等をスケッチブックに紙芝居形式でまとめてもらい、当日はそれを使ってお話いただいた。 ・各グループの進行については、学校の先生にご対応いただいた。									
課題や目標に対する成果	・アンケート結果では、「先輩方の生の話を通して、仕事の大変さや楽しさを知ることができた。」、「仕事内容はもちろん、将来において大切なことを学ぶことができた。」といった声が聞かれ、進路や将来を考える契機になったと思われる。 ・地元就職の良さを感じた生徒も多く、実際にこの地域で生き活きと暮らしている大人との対話を通して、地元企業の魅力やここでの暮らしの良さなどがしっかりと伝わったものと思われる。									
所感・感想改善点	・ゲスト5名中4名が新庄東の卒業生で、全員20代の若手社員ということもあり、質問しやすい雰囲気があり、活発に意見交換が行われた。 ・1つの会場（体育館）で実施したので、他のグループの様子がわかり、全体進行もしやすかった。また、ふりかえりも全体で行うことができて良かった。 ・アンケートでは、「仕事の実際の様子や、先輩の思っていること、経験したことをたくさん知ることができて良かった。」、「自分の芯を大事に、やりたいことを見つけたい。」といった前向きな感想が多く見られた。 ・ゲストからは、「就職、進学前にこうした機会があるのは良いと思う。」「楽しかった。」との声をいただいた。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	97%	2. プログラムの選択理由	—	—	—	—

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

グループトークの様子



終始和やかな雰囲気での交流が行われました。



代表生徒から、感想発表とお礼の言葉をいただきました。



一人一人の先輩から温かい応援メッセージをいただきました。



カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	最上総合支庁地域産業経済課
プログラム名	しごとトーク ～まちのひと図鑑～		
協力者	最上総合支庁地域産業経済課、(株)さくらプランニング、最上地域に所縁のある大人		
日時	①令和3年11月18日（木）13:25～15:15	場所	新庄南高等学校
	②		
	③		
参加者(延べ)	高校生 93人	中学生	地域の大人 7人
		大学生	関係者 3人
			計 103人

地域課題・達成目標	様々な職場で働きながら、もう一つの「やりたいこと」をパラレルに実践している大人から、自身の経験に基づく仕事と「やりたいこと」について語ってもらうことで、多様な働き方・生き方のイメージ喚起を図り、ひいては地元事業所への就職等の促進につなげる。								
プログラム内容	グループごとに分かれ、ゲストから仕事やこれまでの生き方について紹介してもらい、その後意見交換を行う。これを3回繰り返す。最後にふりかえりとして、代表生徒から感想を発表してもらい、ゲストから応援メッセージをいただく。								
実施に当たっての工夫	・学校の授業の一環として実施。内容やゲストの選定などは学校に主体的に進めていただいた。 ・検温・消毒等の新型コロナの感染防止対策を講じたうえで開催した。 ・ゲストの方には、ライフストーリーチャートを作成いただき、それに基づいてお話しいただいた。 ・遠方のゲストには、オンラインで参加いただいた。 ・各グループの進行については、学校の先生にご対応いただいた。								
課題や目標に対する成果	・アンケート結果では、「チャレンジ精神を持ち、行動することが大事だと感じた。」「様々な方面で活躍している人を通して新庄の魅力を知ることができた。」といった声が聞かれ、進路や将来の仕事を含め、自分らしい生き方を考える契機になったと思われる。								
所感・感想改善点	・ゲストの方は、ご自身の人生を振り返る「ストーリーチャート」を使い、高校時代に好きだったことや、今の仕事、仕事以外に夢中になっていること等について、ユーモアを交えながら楽しくお話しください、終始和やかな雰囲気でき意見交換を進めることができた。 ・多様な職業経験があったり、仕事以外にも様々な活動をしているゲストの方のお話は、大変魅力的であり、その行動力やチャレンジ精神は生徒にとって大きな刺激になったと思われる。 ・グループトークの設定時間が短いと感じたところもあり、じっくりと意見交換できる時間設定としても良かったと思われる。 ・また、質問は出るものの、どうしてもゲスト側が話す時間が長くなってしまうため、もっと双方向で意見交換できるよう工夫が必要と感じた。								
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	98%	2. プログラムの選択理由	—	—	—

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子			
グループトークの様子		ライフストーリーチャートを基に様々なエピソードを語ってくださいました。	
遠方のゲストにはオンラインで参加いただきました。		多様な働き方や生き方に触れたことは生徒にとって大きな刺激になったようです。	

カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	最上総合支庁地域産業経済課
プログラム名	しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～		
協力者	最上総合支庁地域産業経済課、(株)さくらプランニング、最上管内企業等で働く若手社員		
日時	①令和3年12月16日（木）13:00～15:10 ② ③	場所	新庄北高等学校最上校
参加者(延べ)	高校生 37人 中学生	地域の大人 4人 大学生	関係者 3人 計 44人

地域課題・達成目標	様々な職場で働く若手社員から、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらうことで、地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらおうとともに、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等の促進につなげる。								
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。これを4回繰り返す。最後にふりかえりとして、代表生徒から感想を発表してもらい、ゲストから応援メッセージをいただく。								
実施に当たっての工夫	・学校の授業の一環として実施。当日の進め方や希望職種などについて学校と調整しながら進めた。検温・消毒等の新型コロナの感染防止対策を講じたうえで開催した。 ・ゲストの方には、仕事内容ややりがい等をスケッチブックに紙芝居形式でまとめてもらい、当日はそれを使ってお話いただいた。 ・各グループの進行については、学校の先生にご対応いただいた。								
課題や目標に対する成果	・アンケート結果では、「様々な仕事や働き方があると知った。自分のやりたいことを見つけられるよう努力したい。」、「地元で働く先輩の話聞いて地元の良さに気づけた。」といった声が聞かれ、進路や将来を考える契機になったと思われる。 ・地元就職の良さを感じた生徒も多く、実際にこの地域で生き活きと暮らしている大人との対話を通して、地元企業の魅力やここでの暮らしの良さなどがしっかりと伝わったものと思われる。								
所感・感想改善点	・卒業生2名の他、町の身近な企業の方がゲストということもあり、親近感を持って参加いただけたのではないと思う。卒業生の方には、高校時代こういった活動をしていたか、今のうちどんなことをやっておいた方が良かったかという質問が出るなど、自分と重ね合わせながら将来に向けたイメージをしている生徒が多かった。 ・仕事で使う道具などを持参してくださったゲストの方もおり、丁寧にわかりやすく仕事のやりがいなどお話ししてくださった。 ・アンケート結果を見ると、生徒の満足度も高く、進路や就職に向けて前向きな気持ちになった生徒が多かった。								
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	97%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	—	—	—

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子			
グループトークの様子		質問にも丁寧に答えていただきました。	
参加者から、たくさんの質問&感想が出されました。		最後に、代表生徒から感想を発表いただきました。	

カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	最上総合支庁地域産業経済課
プログラム名	しごとトーク ～若手従業員のリアルなお話～		
協力者	最上総合支庁地域産業経済課、(株)さくらプランニング、最上管内企業等で働く若手社員		
日時	①令和4年1月20日（木）9:30～11:20 ② ③	場所	新庄神室産業高等学校真室川校
参加者(延べ)	高校生 23人 中学生 地域の大人 4人 大学生 関係者 3人	計	30人

地域課題・達成目標	様々な職場で働く若手社員から、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらうことで、地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらうとともに、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等の促進につなげる。								
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。これを3回繰り返す。最後にふりかえりとして、代表生徒から感想を発表してもらい、ゲストから応援メッセージをいただく。								
実施に当たっての工夫	・学校の授業の一環として実施。当日の進め方や希望職種などについて学校と調整しながら進めた。検温・消毒等の新型コロナの感染防止対策を講じたうえで開催した。 ・ゲストの方には、仕事内容ややりがい等をスケッチブックに紙芝居形式でまとめてもらい、当日はそれを使ってお話いただいた。 ・各グループの進行については、学校の先生にもご協力いただいた。								
課題や目標に対する成果	・アンケート結果では、「コミュニケーションを大切にしながら、自分の好きなことを見つけていきたい。」、「これから自分がどう生きたいか考える機会になった。」といった声が聞かれ、進路や将来を考える契機になったと思われる。 ・地元就職の良さを感じた生徒も多く、実際にこの地域で生き活きと暮らしている大人との対話を通して、地元企業の魅力やここでの暮らしの良さなどがしっかりと伝わったものと思われる。								
所感・感想改善点	・オリエンテーションの時間をしっかり設けたので、プログラムの目的・目標や、進め方など、全体で共有したうえで進めることができた。ふりかえりについても全体で行ったため、感想や気づきなどを共有することができた。 ・アンケートでは、概ね生徒の満足度も高く、「働くうえで大切なことをたくさん学ぶことができた。」、「型にとらわれずに好きなことにチャレンジしてみることが大事だと思った。」といった前向きな感想が多く見られた。								
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	96%	②大人の情熱が感じられた	95%	2.プログラムの選択理由	—	—	—

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子
全体オリエンテーションの様子  先輩のお話へ、生徒の皆さんは真剣に耳を傾けていました。  最後に、代表生徒から感想を発表いただきました。  ゲストの皆さん、工夫を凝らした紙芝居を準備してくださいました。 

カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	最上総合支庁建設総務課
プログラム名	ふるさとをまもり未来をつくる土木技術者たちのはなし		
協力者	最上総合支庁建設部、山形県建設業協会最上支部		
日時	①令和3年11月4日（木）10:00～12:20 ② ③	場所	山形県立新庄神室産業高等学校
参加者（延べ）	高校生 39人	中学生	地域の大人 19人
	大学生	関係者 9人	計 67人

地域課題・達成目標	人口減少、高齢化が顕著に進む中、我々の社会基盤を支える建設業の担い手の確保が喫緊の課題。地域の仕事の魅力を次代の若者に伝えとともに、建設業界の理解を深め、ふるさとで活躍する意識を持つ生徒を増やす。		
プログラム内容	①地域の建設業に従事する若手技術者4名から、仕事の充実感、やりがい、夢などをパネルディスカッション形式で紹介。 ②意見交換会で、5～7人のグループ毎に、建設業に従事する若手技術者達から仕事をする上で必要なもの、プライベートのことなど、リアルな話をもらった。		
実施に当たっての工夫	①パネルディスカッションでは、パネラーへの事前アンケートを行い、1日のスケジュールや写真等についてスクリーンに投影し、イメージしやすい説明に努め、コーディネーターも情報共有しておくことでスムーズな進行ができた。 ②参加生徒に事前アンケートを行い、アンケート結果を意見交換時の話題とするなど、活発な意見交換が行われる環境づくりに努めた。		
課題や目標に対する成果	高校生への事前アンケートでは、就職するときに不安に思うことについて、「上司や先輩との人間関係」と「私生活とのバランス」が上位であったが、先輩から色々と話を聞き出したことにより、それらの不安が軽くなったとの意見が多くあった。また、「建設業」と聞くと、体力的にきついとか危険な仕事というイメージが先行していたようだが、働きやすい環境が整っていること等の話を聞いて、考え方が変わったという声が聞かれた。		
所感・感想改善点	パネルディスカッションの盛り上げがもう少しあっていいように感じた。『仕事の魅力』の伝え方について工夫が必要。 来年度（案）⇒「高校生に伝えたい私の仕事の魅力とそれにまつわる物語」をテーマにパネリストに事前アンケートを実施。それを基にプレゼンテーション用パワポを作成する。【構成例】①自己紹介、②仕事の内容（1日のスケジュール）、③私の学生時代、④今の仕事との出会い、きっかけ、⑤仕事で印象に残っているエピソード、⑥この仕事で大事にしている思い・こだわり・やりがい、⑦休日の過ごし方、⑧高校生へメッセージ パネリストは普段の仕事が忙しいので、どこまでお願いできるかわからないが、プログラムを充実させるため可能な限り対応したい。		
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	97%
		②大人の情熱が感じられた	100%
	2. プログラムの選択理由	先生の勧め	魅力的な内容

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

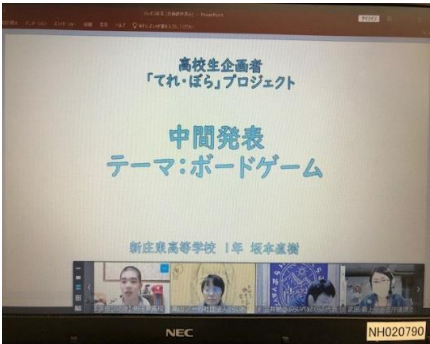
活動の様子	先輩の話に聞き入る高校生  意見交換会の様子 	パネルディスカッション  意見交換会の結果を発表する高校生 
-------	---	--

カテゴリ分類	課題発見解決等	提供者	最上教育事務所社会教育課
プログラム名	みんなを元気にする「てれ・ぼら」プロジェクト		
協力者	青年ファシリテーター、最上総合支庁連携支援室、一般財団法人とらいあ、ボランティア活動アドバイザー		
日時	①令和3年8月12日(木) 18:00~19:00 ②令和3年10月25日(月) 18:30~19:30 ③令和4年2月5日(土) ※中止	場所	①オンライン ②オンライン ③ゆめりあ
参加者(延べ)	高校生 6人 中学生	地域の大人 4人 大学生 1人 関係者 10人	計 21人

地域課題・達成目標	地域の課題をつかみ、地域活動を実践することにより、地域の良さに気づく。さらに、活動によりつながった地域の大人や仲間とともに、今後も地域活動に携わる。									
プログラム内容	①プログラム説明会（プログラムの概要、活動スケジュール、手順等の説明、企画書作成と支援体制の説明、情報モラルの学習 等） ②中間報告会（高校生企画者が立案、実施した地域活動等の紹介、青年ファシリテーター等の支援者からのアドバイス、これまでの活動の振り返り） ③成果発表会（高校生企画者の活動報告、ボランティアサークルで活動する高校生との交流等）→中止									
実施に当たっての工夫	(1) 青年ファシリテーター等の助言のもと、高校生企画者が、「今の自分にできること」「やってみたいと思う活動」を企画し、実施できるようにするといった、高校生の主体性を重視したプログラムとした。 (2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて様々な活動が制限されているため、LINEやZOOMを活用しながら、高校生企画者の活動をサポートしたり、意見交換したりした。									
課題や目標に対する成果	1) 高校生企画者は、自身が興味のある分野に関して企画を考えた。地域の魅力を再発見する機会となったり、一緒に活動する仲間を募ったりして、楽しみながら活動することができた。 (2) 青年ファシリテーターや、地域づくり活動を行っている団体と、高校生が繋がりながら活動を進めることができた。									
所感・感想改善点	・ すべてオンライン上でのやり取りとなり、直接交流をすることができなかった。オンラインでも繋がることはできるが、少しでも顔を合わせて話す場や、一緒に活動する機会が必要であったと思う。 ・ ボランティアサークルの交流会の場で、同じ高校生に向けて発表することを計画していたが、コロナの急激な感染拡大により、中止せざるを得なくなった。せっかくの活動を発信できなかったことは残念だった。 ・ 高校生たちが、自ら地域の大人たちに協力を求めながら活動を進めていた。行動力のある高校生企画者たちなので、今後も引き続き様々な活動に取り組んで欲しいと思う。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	—	②大人の情熱が感じられた	—	2. プログラムの選択理由	—	—	—	—

※アンケートの項目は「4:とても当てはまる」「3:当てはまる」「2:あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子			
青年ファシリテーターの会議で、高校生にどのようなアドバイスができるかを話し合いました。		高校生の企画書作成にむけて、情報交換を行いました。	
中間報告会。活動の取り組み状況を紹介しました。		実際に新庄の商店街で活動した様子です。	

カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	M-Fluffy English-
--------	--------------	-----	-------------------

プログラム名	U-18オンラインフェス～続きはWEBで↓～										
協力者											
日時	①令和3年7月31日（土）19:00～20:30 ②令和3年8月22日（日）20:00～21:00 ③令和3年9月5日（日）10:00～16:00					場所	オンライン オンライン オンライン				
参加者(延べ)	高校生	43人	中学生	地域の大人	大学生	4人	関係者		計	47人	

地域課題・達成目標	頑張っていることを魅せる場所がない！と我慢している高校生！そんな高校生をサポートして企画運営をやってみよう！みんなで協力してオンラインフェスを作り上げよう！									
プログラム内容	高校生による高校生のためのオンライン上での文化祭。サポーターの山形大学の4名と協力して全て子供たちだけで作り上げよう！									
実施に当たっての工夫	大人が全てのやり取りに参加をしないことで子供たちの自由度を高め、自分たちで考えて協力することで作り上げる楽しさを知ってもらう。									
課題や目標に対する成果	やりたいと思ったことをみんなで共有し、それぞれで話し合うというコミュニケーションをしっかりと取りながら、さまざまなコーナーを運営して、大人が作るオンラインフェスと遜色ない素晴らしいものを作り上げることができた。									
所感・感想改善点	子供たちの可能性は無限大であると実感しました。大人は安全な道をどうしても取りたがるため、これはやめた方がいいとかこっちの方がいいとか、子供たちに制限をかけるような声かけをしてしまいがち。それを、担当ごとのグループラインや打ち合わせのzoomなど全ての場所に立ち会わないことで自分たちのやりたいことを全うできる場所を作ったことが今回の成功につながったと思っています。もちろん、必要であればヘルプできる環境も作っていましたが一度もヘルプが来ることはありませんでした。それくらいに子供たちは自分たちでやれる力を持っているということが証明できたと思います。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	95%	②大人の情熱が感じられた	84%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容	友達と一緒に		

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

一大イベント 有志企画

MV作成までできちゃった！

dtm（打ち込み）すごい技術！でも実はスマホでやってるんです！

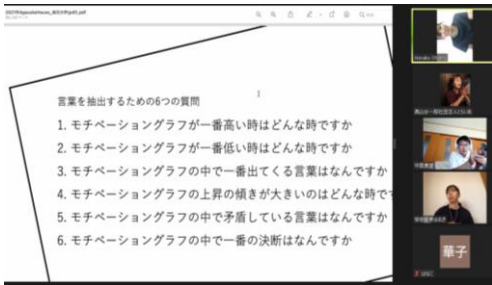
開会式の写真、すっごくいい笑顔！

カテゴリ分類	キャリア（職業、起業等）	提供者	Agasuke House
プログラム名	シン・ダイガクセイカツ		
協力者	Agasuke House関係のOB・OG		
日時	①令和3年8月7日（土） 10:00～15:00 ② ③	場所	オンライン
参加者（延べ）	高校生 13人 中学生	地域の大ノ 4人 大学生 6人 関係者 2人	計 25人

地域課題・達成目標	新庄・最上地域には大学がなく、歳が近い社会人ではない層との交流の場がない。同年代のロールモデルを想像しにくい。									
プログラム内容	①現役大学生と高校生がグループを組み、実際に自分が考えていることや感じたことを話す共有タイム。②年齢を重ねても変わらない「自分の選択の軸」を考えるワークショップ③自分を表現するワークショップ									
実施に当たっての工夫	「私ってどんな子?」「将来ってなんだろう?」悩める気持ちはみんな一緒。現役大学生があなたに寄り添いミライづくりをお手伝い。高校卒業後の自分が待ち遠しくなる1日を考える。									
課題や目標に対する成果	募集を上回る参加があった。大学生活が待ち遠しくなるプログラムについては、概ねその目標は達成したかと感じた。また、Agasukeメンバー関係のOB・OGの応援参加があり、大学生を中心に年齢的に近い世代との交流や対話が多く出来た。									
所感・感想改善点	募集を上回る高校生の参加があり大変うれしかった。オンライン探究寺子屋でのプログラム説明会や相談等を経ての実施が、プログラムの質の充実に繋がったと考える。また、Agasukeメンバー関係のOB・OGの方々が参加協力してくれ、心強さを大いに感じた。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	91%	2.プログラムの選択理由	魅力的な内容	先生の勤め	参加しやすい日程	

※アンケートの項目は「4:とても当てはまる」「3:当てはまる」「2:あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

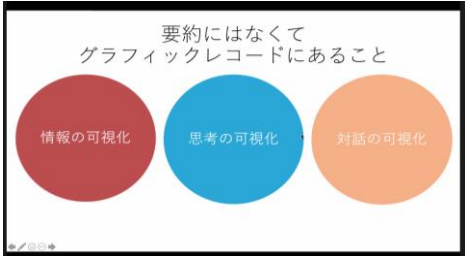
言葉を生む6つの質問



グラフィックレコーディング



可視化について...



本日の締めめに記念撮影



カテゴリ分類		体験、フィールドワーク		提供者		市民活動団体Feel					
プログラム名		「初めて料理をしてみた！」これから一人暮らしをはじめるキミに捧げるYouTube動画作成									
協力者											
日時		①令和3年7月25日（日）9:00～12:00			場所	新庄市民プラザ調理室					
		②令和3年12月11日（土）9:30～12:00				同上					
		③									
参加者(延べ)		高校生	11人	中学生	地域の大人	12人	大学生	関係者	1人	計	24人
地域課題・達成目標		当地の子供たちの多くが高校卒業後、家を離れ一人暮らしを始める。何事も自分でやらなければならない生活の中で、食生活が一番疎かになりがちなことから、自炊への敷居が低くなるような簡単な料理体験を通じて、1つでも自分のレパートリーを手に入れてもらう									
プログラム内容		ミニホットプレートを使った6つのメニューを、参加者たちが一品ずつ料理体験。参加できなかった人達にも疑似体験できるようにYou-Tube動画配信も行う									
実施に当たっての工夫		一人暮らしのキッチンとはとても狭く道具も広げられず、洗い物が多いと自炊は敬遠されることから、ミニホットプレートを使用。まな板や包丁などの道具もできるだけ使わないで、短時間で作れるメニューをFeelメンバーとキッズキッチンインストラクターが考案。ホットプレートは新庄市でも安く購入できるものを使用した（ニトリ/約1000円）									
課題や目標に対する成果		ホットプレート1つで肉料理・ご飯もの・パン・パスタなど、いろいろなものが作れることや、包丁の代わりにキッチンばさみを使う（＝まな板不要で場所もとらない）などの工夫で自炊を身近に感じてくれたのではないかなと思う。「ちゃんと料理できそうだった」「道具がそろってなくてもおいしいご飯ができる」「一人暮らしに向け家でも料理してみる」などの声があった。									
所感・感想改善点		今回の料理は学校の調理実習で習う手法にこだわらず、当団体の主な事業である幼児対象「食体験教室キッズキッチン」でこれまでに得たノウハウを活かした実践的なメニューです。ホットプレートを使ったこれらの料理は若者だけでなく、実は高齢者にもおすすめできるスタイルではないかと気づき、我々もよい勉強になりました。また、キッズキッチン体験者との再会もあり、健やかに成長している様子を知り自分たちの励みにもなりました。動画については高校生編集予定でしたが、スタッフ関係者の協力を得ての編集となりました。忙しい高校生の一年の中で実施時期など難しいものがありましたが、何かあれば都度、事務局の皆さんが相談にのっていただけたので動きやすかったです。小さな団体が長く続けるには会場費などの資金援助も必要かと思います。									
高校生アンケート		1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2.プログラムの選択理由	魅力的な内容	関係者からの勧め	友達と一緒に	その他

※アンケートの項目は「4: とても当てはまる」「3: 当てはまる」「2: あまり当てはまらない」「1: 当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子			
数来者を見据えて3年生の参加が多		イントラの声掛けもあり、スムーズに	
後始末も自分たちで。道具も少ないのであっという間に終了		栄養満点のキムチご飯。新庄の子供には懐かしい給食の味。	

カテゴリ分類	体験、フィールドワーク			提供者	エコー 新庄店					
プログラム名	全身エコーコーデスタイルサロに挑戦！									
協力者										
日時	①令和3年7月25日（日）8:00～10:00			場所	エコー新庄店					
	②令和3年8月1日（日）8:00～10:00				同上					
	③									
参加者(延べ)	高校生	21人	中学生	地域の大人	3人	大学生	関係者	4人	計	28人
地域課題・達成目標	今後人口減少が予想されている新庄最上地域の高校生の皆様へグローバルに展開する企業として世界を大きく見る事や地域とともに成長していく事の両軸を大切にしているエコーという企業を知っていただき将来のキャリア形成に繋げる。									
プログラム内容	エコーの会社説明や店長、地域正社員の方のキャリア説明、会社が行う社会貢献活動の紹介等を実施。自分が好きなコト、モノは何なのか自分ってどういう人なのか自分自身を深く知って頂き将来のキャリア形成に繋げられるようセッションを実施。 その後参加高校生たちが販売員として互いにニーズを引き出しながらその方にあった全身エコーのコーディネートを提案。									
実施に当たっての工夫	PPTを使用しながら参加者の皆様にも積極的に発言して頂く機会を作った。 スタッフや地域の大人の方等高校生が普段触れ合わない外部の大人の皆様と多く話せる機会を作った。									
課題や目標に対する成果	アンケートからも「将来の仕事を考えるきっかけを頂いた。」や「自分の事を更に知る良い機会だった。自分の好きなことを仕事にすることの大切さを知った。」などのお声を沢山頂く事ができ新庄最上地域でグローバルに展開している企業は少ない中、企業として大切にしている事を伝える事ができた。									
所感・感想改善点	私たち実施する側としても今後新庄でエコーを経営していく中で地域のお客様はなくてはならない存在です。その中で企業として地域の若者や高齢者の方に向けて何ができるか考えているときにお声をかけて頂き今回のプログラム実現に至りました。 実施する側が一方向的に与えるだけのプログラムではなく双方向に考え行動できるプログラムにできた事は非常に良かった点だと思うので今後も継続していきたい。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2.プログラムの選択理由	魅力的な内容	友達と一緒に	場所が近い	

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

店長のキャリアやユニクロが取り組むSDGsについて



地域の大人を高校生がコーデ！



その人の好みなどコミュニケーションをとりながら



どんな生地がいいのか。形はどういうのが似合うのかな



カテゴリ分類	体験、フィールドワーク	提供者	グラッシーデザイン
--------	-------------	-----	-----------

プログラム名	ESPORTS LEAGUE SHINJO 2021											
協力者	新庄東高等学校 eスポーツ部、山形eスポーツ協会											
日時	①令和3年7月29日（木） 16:30-18:00					場所	こらっせ新庄					
	②令和3年8月30日（月） 16:00-18:00						オンライン					
	③令和3年10月30日（土） 9:00-17:00						新庄市民プラザ					
参加者(延べ)	高校生	39人	中学生		地域の大人	6人	大学生		関係者	8人	計	53人

地域課題・達成目標	最上地域が新しい事に挑戦する若者を応援する地域であり、その実態の把握と土壌の更なる醸成を目指す。新庄東高校は全国にも先駆け学校としてeスポーツを推進している環境である事を発信し、興味を持ってくれる地域の大人や賛同者を増やす事を目標とする。								
プログラム内容	新庄東高校eスポーツ部の協力のもと、eスポーツのローカルリーグを新庄で開催。企画メンバーは、事前に2度集まりイベントの内容、インタビュー企画、タイトル、表彰に至る全企画を一緒に行った。当日は、公認プレイヤー(小清水光 選手)を招待し、セッションを通して交流。競技大会では、AMONG USで盛り上がり、白熱した競技会とすることができた。一般参加者も一部交えて楽しいイベントにすることができた。								
実施に当たっての工夫	最初の企画段階からプロモーションの計画も入れて動いたこと。インタビューなどの企画も事前に担当を決め当日までにやることを網羅した。シモト大学のプラットフォームだけでなく、自社で広告類を作成し事務局の方にも協力いただいて周知を行った。また、専門知識を借りるためeスポーツ協会の方々にアドバイスをいただいたり、プロ選手とつないでもらったこと。当日のイベントに厚みを持たせられたと思う。								
課題や目標に対する成果	イベントそのものやインタビュー企画を通して高校生が自分たちの意見を発信し、それを受け入れてくれる大人がいるということを実感してもらえた。また、その様子を動画として発信したことによって、周囲の大人たちが少しでも新しいことに挑戦する若者への関心を持ってもらうきっかけを作れたのではないかと。結果として協会の方や外部の方に当日見学に来ていただくなど、反響を得られたので次に繋げていきたい。								
所感・感想改善点	当日のイベントさえ無事に終われば成功と思っていたが、プロモーションの段取りや当日の参加者数など反省点は多い。また、高校生に対してファシリテーションが上手くできていなかったため、自発的にたくさんの意見を引き出すことがとても難しかった。イベントの内容や開催趣旨には満足している。プロのプレイヤーさんも実際に会場で盛り上げてくれるなど楽しい雰囲気イベントができただけに、なおのこと参加申込者が少なかったことがもったいなかったな、と感じている。コロナなどの影響もあり、学校側のテストや部活のスケジュールが読めず、運営側のメンバーである生徒も当日欠席せざるを得ないケースがあった。企画2回、イベント1回という3回構成も参加側にとっては負担となっているように感じられたため開催方法についても見直したいと思った。								
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容	先生の勧め	関係者からの勧め

※アンケートの項目は「4:とても当てはまる」「3:当てはまる」「2:あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
 ※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子	企画会議の様子 			校長先生へのインタビュー 		
	プロプレイヤー(小清水光選手)によるセッションの様子 			真剣にプレイする高校生たち 		

カテゴリ分類	体験、フィールドワーク			提供者	株式会社JPD							
プログラム名	かっこいいプロモーションビデオ・CMを作ってみよう！											
協力者	株式会社JPD											
日時	①令和3年8月3日（火）10:00～17:00				場所	株式会社JPD事務所内						
	②											
	③											
参加者(延べ)	高校生	7人	中学生	人	地域の大人	人	大学生	人	関係者	5人	計	12人

地域課題・達成目標	動画の制作に興味がある！動画を使ってプロモーションをしてみたい！でも、やり方がわからない…。動画制作を生業とする大人たちと一緒に、素敵なプロモーション動画・CMを作る体験会を実施します！								
プログラム内容	1. 企画（グループに分かれる） 2. 企画に沿った動画を制作 ・動画撮影 → 動画編集 → 制作物の公開、発表 3. グループワーク ・ジモトでも輝けるPV・CM企画を考える。								
実施に当たっての工夫	実際にお仕事を受けて納品するまでの流れをそのままプログラムに組み込みました。 仮想のクライアントを設定することにより、より実践的な動画制作を体験できたと思います。								
課題や目標に対する成果	参加者の皆さんに広告・PV・動画ビジネスについて改めて考える機会になったと思います。								
所感・感想改善点	楽しみながら映像制作のお仕事についてより深く学んでいただけたと思います。								
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容		

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
 ※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

本プログラムは選抜の活動は、生徒が主体的に学習主体として行われていく。

活動の様子

企画している様子

撮影している様子

編集している様子

発表している様子

カテゴリ分類	体験、フィールドワーク			提供者	チームWATS					
プログラム名	高機能機材を活用してライブ配信を体験しよう！									
協力者										
日時	①令和3年9月19日（日）12:00～15:30			場所	スタイルハート					
	②									
	③									
参加者(延べ)	高校生	8人	中学生	地域の大人	2人	大学生	関係者	3人	計	13人

地域課題・達成目標	退廃していく地域の情報をリアルタイムに発信し、退廃速度を緩やかにし、地域寿命を伸ばしていく。				
プログラム内容	高校生地域活動チームのメンバーを中心に、機材の役割や使用の仕方などを学び、実際にライブ配信を実施する。				
実施に当たっての工夫	スマホで動画撮影は気軽に出来るようになったが、ライブ配信になるとまだまだ敷居が高い。ライブ配信のメリット・デメリットを理解し、手軽に配信出来ることを経験してもらえるように実施した。				
課題や目標に対する成果	参加した高校生が少しは情報発信に興味を持てたのではないかと思います。今後は自分で発信できるようなチャレンジをして欲しいと思います。				
所感・感想改善点	高校生の手による配信だけに機材トラブルなども発生したが、配信しながら解決させ、最後まで配信する事が出来た。もう少し、台本などの打合せから参加できた方が良かったかなあと思います。				
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%
				2. プログラムの選択理由	魅力的な内容
					関係者からの勧め

※アンケートの項目は「4:とても当てはまる」「3:当てはまる」「2:あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

放送中



一日がんばりました！



YouTubeみてね！



本格的な配信機材



カテゴリ分類	体験、フィールドワーク	提供者	地域活動グループ よりみちくら部
--------	-------------	-----	------------------

プログラム名	自分だけの「ない本」を考えよう！											
協力者												
日時	①令和3年10月17日（日）10：30～16：00					場所	新庄市民プラザ 2階ギャラリー1					
	②											
	③											
参加者(延べ)	高校生	8人	中学生		地域の大人	4人	大学生	2人	関係者	3人	計	17人

地域課題・達成目標	世代を超えた関わり（特に高校生世代と青年層） 創造性や自己表現力を養うきっかけを作り、新たな視点を獲得すること。									
プログラム内容	1枚の写真から創造を膨らませてオリジナルの題名とあらすじを考え、同世代の人と妄想をシェアして、視野を広げた。									
実施に当たっての工夫	普段は出しにくい自分の一面を、初めて会う人にも披露できるように、最初のアイスブレイクに力を入れた。 自分一人の世界にならないように、同じ画像を見た他のグループメンバーの考えた題名でのあらすじも考えた。									
課題や目標に対する成果	関わりの部分では、最初のアイスブレイクの段階で大成功だった。 進め方を工夫したため、良い意味で自分と他者の違いを感じてくれていたようだった。また、安心安全な雰囲気を作ることができたため、自己表現力においても臆することなく発揮できていたようだった。									
所感・感想改善点	・各学校において生徒が申し込む時期から実際の開催日が遠かったため、参加意欲が薄れてしまう可能性を感じた。・コロナ禍においても、対面でできたことは意義があった。 ・生徒への直接の周知について、取り扱いに差異があったように思う。できる限り機会は公平に与えられるべきと感じた。・地域部会の位置づけが理解できなかった。なにかを決めることができるのかできないのか、単にプログラム提供者の情報共有の場なのか。うちは緩いので気にしないが、場合によってはプログラム提供者の参加意欲に関わってくるような気が…。・シモト大学は、高校生が地域と関わるきっかけづくりとしては非常に有用だと思うので、その先を考えることができれば、より高校生のためになると思った。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	魅力的な内容	参加しやすい日程		

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子	カードゲームでアイスブレイク 		一つの写真から物語をつくっていきま 
	カードを並べると・・・♡ 	最高に楽しかったね 	

カテゴリ分類	課題発見解決等			提供者	一般社団法人とらいあ							
プログラム名	#まちとしょステーション〜ジブンの知りたいを知る場所づくり〜											
協力者	新庄北高校地域探究部・芸工大牛木教授・最上マイプロジェクト推進運営委員会											
日時	①令和3年8月28日（土）14:00～16:30			場所	オンライン							
	②令和3年9月25日（土）（中止）				中止							
	③令和3年10月16日（土）10:00～12:00				最上広域交流センターゆめりあ							
参加者(延べ)	高校生	7人	中学生	7人	地域の大人	37人	大学生	5人	関係者	61人	計	117人

地域課題・達成目標	高校生の地域活動や探究をする地域の相談窓口や具体的なサポートする場所が新庄最上地域がない。高校生が居場所としてのゆめりあの活用についてアイディアを出し、それを形にしますはやりたいことを実施する。ゆめりあを活動できる場所として定着させ、あらたなゆめりあの魅力につなげる。											
プログラム内容	①回目 オンラインワークショップ「自分の思い想像ワークショップを創造しよう」ゆめりあについて自分の思いを発見しさらに膨らませていく。②回目 「ゆめりあ探索フィールドワーク」実際にフィールドワークを行い新たな刺激を受け、形にする準備をする(コロナ禍のため中止) ③回目 思いを形にし、ゆめりあをフィールドに実行してみる(高校生のやりたいことを可視化ヤタイを活用して行なった)											
実施に当たっての工夫	オンラインワークショップでは、大学生にファシリテーターをもらい、フラットな場づくりをオンライン上でおこない、地域の大人が入っても楽しく盛り上がった。2回目は残念ながら中止となり、3回目ができるかどうか不安であったが、新庄北高校地域探究部の部活動との連携や、地域団体とのつながりの中で安心安全にリアル開催できた。高校生ばかりでなく、中学生、大学生、多世代の地域住民とのコミュニティが生まれた。											
課題や目標に対する成果	ふだん何気なく利用しているゆめりあの活用について再発見し、何ができるのか高校生の視点で考えることができた。大学生との交流や、学校を超えた高校生同士のつながりも築けた。地域の交流拠点として、ゆめりあとして高校生ばかりでなく地域住民にも周知できた。実際に参加高校生からは、ゆめりあの今の状況や、歴史について知ることが出来た。自分の好きなことを施設の利用にも生かせるということを学んだとの意見があった。											
所感・感想改善点	地域の課題(ゆめりあの活性化、活用を考える)を大学生がファシリテートして、高校生がアイディアを出しやすいうような場づくりを行えたことは、ジモト大学の今までの積み重ねがあったからと思う。また、高校生が安心安全に活動できる地域は、大人の伴走者(最上マイプロジェクト運営委員会)の学びの土壌が耕されたからと深く感謝している。まずはモニターの的に実行したが、今後拠点としてのゆめりあ活用について、継続的に発信していくことが、プログラムからの地域課題解決かと思う。引き続き、ゆめりあ活用を高校生と一緒に考え、定着できるようなしくみ作りを推進していきたい。											
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	先生の勧め	魅力的な内容	関係者からの勧め			

※アンケートの項目は「4: とても当てはまる」「3: 当てはまる」「2: あまり当てはまらない」「1: 当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

高校生とアイデア出し。可視化ヤ
「哲学カフェ」

高校生のやりたいこと
(可視化ヤタイで地域の方とー)

高校生のやりたいこと
「哲学カフェ」

みんなで記念撮影(＃まちとしょ
ステーション)

カテゴリ分類	課題発見解決等	提供者	尚絅学院大学ボランティアチームTASKI
--------	---------	-----	----------------------

プログラム名	TASKI塾～大学生と災害・防災について考えよう～											
協力者	尚絅学院大学ボランティアチームTASKIメンバー											
日時	①令和3年8月22日（日）10:00～12:00					場所	オンライン					
	②令和3年9月19日（日）10:00～12:00						オンライン					
	③											
参加者(延べ)	高校生	11人	中学生	人	地域の大人	大学生	9人	関係者		計	20人	

地域課題・達成目標	大きな災害が少ないため、防災について考える機会がない。最上地域には大学がなく、高校生と大学生が交流することがあまりない。自立した考えを持って生活してほしい・災害について自身で考えながら相手に伝える力を養うことを達成目標とした。									
プログラム内容	大学生から東日本大震災当時の状況について、一人暮らしの防災についての説明を行い、防災に関するクイズを全体で行った。グループワークを通していくつかのお題で話してもいい、全体で意見交換を行った。									
実施に当たっての工夫	大学生だけでなく地域の大人とも高校生が話せるようにグループワークのメンバーを編成した。休憩時間を挟み、無理なくオンラインで参加できるようにした。大学生の説明だけにならないように、クイズを取り入れてプログラムを楽しんでもらえるようにした。									
課題や目標に対する成果	地震などの被害も少ない最上地域では、小中学校では災害について考える道徳などの時間が設けられているが、高校生にはなかなかその時間がないと感じた。いざというときにどのように行動すればいいのかなど自分・家族の身を守る防災について考えるきっかけになったと思う。									
所感・感想改善点	ZOOMでのオンライン開催でうまくいくか不安なこともあったが、グループワークやクイズを通してオンラインの良さを活かしたプログラムになったと感じた。ブレイクアウトルームで分かれて話し合いを行うことで、高校生一人ひとりの意見をじっくり聞くことができ、大学生にとっても学びの場となった。今後は、最上地域の高校生だけでなく、宮城県や他県の高校生にも同じような活動を通して東日本大震災について考えるきっかけを作っていきたいと考えた。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	関係者からの勧め	魅力的な内容	参加しやすい日程	

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

大学生からの説明

東日本大震災当時の様子



記念撮影

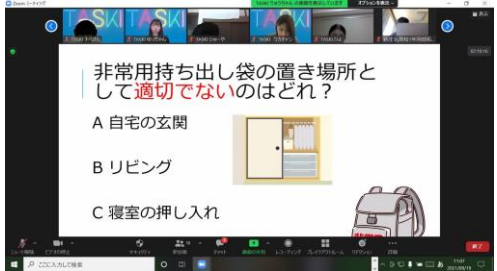


活動の様子

TASKIについての紹介



防災クイズ



49

カテゴリ分類	課題発見解決等	提供者	Professionalきのこ山形
プログラム名	きのこ0円食堂 ～キノコの捨てる部位だけ使って料理してみた件～		
協力者	一般社団法人とらいあ（STEP3にて）		
日時	①9月2日（木） ②9月11日（土）10:00～13:00 ③10月16日（土）10:00～12:00	場所	各自 オンライン ゆめりあ 花と緑の交流広場
参加者（延べ）	高校生 4人 中学生 地域の人 18人 大学生 関係者 7人 計 29人		

地域課題・達成目標	地域のきのこ産業を将来に渡って持続可能な、魅力的な産業にしていくためには、地域の住民に親しまれ消費して頂くことが大切です。流通が難しく、多くが廃棄となっている出荷不適部位の活用の仕方を考えることで、地域需要を高めることを目的とします。		
プログラム内容	【STEP1】各きのこの端材部位を参加者に配布し、家庭で食べて頂きます。そのレシピを各自レシピにまとめて頂きます。（9/2）【STEP2】地域で栽培されている「きのこ」の種類を学び、どのような廃棄部位があるのか学びます。0円食材を活用したレシピを考案するミーティングを行います。（9/11）【STEP3】考えたレシピとともにきのこ端材部位を販売し、地域へ課題と魅力を発信します。（10/16）		
実施に当たっての工夫	●STEP1～2については、当初は調理体験を予定していたが、感染防止への観点から自宅ワーク・WEB開催に移行した。結果として活発な意見交換がなされた。高校生も好奇心をもって真剣＆楽しく取り組んでいたのが見えた。 ●STEP3はシモト大学事業との連携により開催した。STEP1～2の集大成となった。実際に販売することにより、提案の仕方で顧客に価値を感じて頂けることが分かった。		
課題や目標に対する成果	●運営としても、企画しながら今まで気づいていなかった「端材部位」の可能性について考える初めての機会となった。提案の仕方で、顧客に価値を感じて頂けることが分かった。 ●高校生・参加者により15件のレシピが考案された。 ●実際に販売まで至ることで、端材販売におけるお客さんの反応が分かった。 ●今後端材部位やレシピを販売活動にも活かしていくことができる。		
所感・感想改善点	事務局さん、高校生の協力のおかげでSTEP3まで満了することができました。私たちとしても初めて「端材部位」の可能性と課題への向き合いでしたが、提案の仕方で、顧客に価値を感じて頂けることが分かりました。 驚いたのは高校生のポテンシャルです。9/2に端材部位を各高校に配って回りましたが、提供いただいたレシピは想像を超える完成度でした。好奇心や関心をもって取り組んで頂いたのが良く分かりました。オンライン開催でも、現物を交えた自宅ワークと並行することで、事業の質が上がるということが分かったのは良い学びになりました。 10/16については、部活動などで参加高校生が少なかったのは残念でした。開催日程や部活動より優先頂けるくらい魅力的な設計をするなど工夫が必要だと思いました。		
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった 100%	②大人の情熱が感じられた 100%

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。

※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子	きのこ0円食堂プレゼン資料  STEP3 端材部位の販売 高校生レシピとともに  STEP1、2で高校生に配布した各きのこの端材部位  STEP3 きのこ産業とプレゼン 		
-------	--	--	--

カテゴリ分類	課題発見解決等	提供者	牛木カ（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科）
--------	---------	-----	---------------------------

プログラム名	対話のファシリテーション講座											
協力者												
日時	①令和3年11月20日（土）13：00～15：30					場所	オンライン					
	②令和3年12月14日（火）16：00～18：30						オンライン					
	③											
参加者(延べ)	高校生	37人	中学生		地域の大人	7人	大学生	1人	関係者	1人	計	46人

地域課題・達成目標	安心できる対話の場をつくる時に大切なことを知ろう ジモト大学フォーラムの対話の時間づくりに参画しよう									
プログラム内容	第一回：対話を楽しみながら、安心できる対話の場について考えよう（トークフォークダンス体験 / 安心できる対話に必要なことは/ジモト大学フォーラムについて） 第二回：楽しくて、思わず考えたくなる対話の話題（問い）について考えよう（対話での「問い」の重要性/対話の問い/考えた問いで対話）									
実施に当たっての工夫	今回は完全オンラインで、かつ、多数の高校生が参加するファシリテーション講座を企画する必要があった。こうした中で、ふせんやふせんアプリを使用したテーブルファシリテーションは実施が難しいため、ツールを用いなくてもファシリテーションの本質理解につながるシンプルなテーマと設計を心がけた。									
課題や目標に対する成果	フォーラムと連動した講座であったため、フォーラムについての呼びかけなどもこの講座内で行ったが、講座終了後、事例発表やフォーラムの進行に参加者が関わってくれることになった。また、トークフォークダンスによって対話の楽しさを実感し、対話におけるファシリテーションで意識すべき点を身につけてもらうことができた。									
所感・感想改善点	・オンラインでの実施であり、かつ、アプリケーションの使用も極力行わない方法での実施となったが、テーブルファシリへのニーズもあることがわかったので、ジモト大学講座内になるか外になるかは未定ではあるが、今後検討していきたい。・オンラインでの対話は、はじめ慣れない参加者もいたが、徐々に感覚が掴めて、その多くが楽しめている印象であった。・フォーラム当日では、トークフォークダンスの進行を3名の高校生が行ってくれ、その場の流れに合わせて柔軟に、上手に対処してくれた。リハーサルの時間や、進行のふりかえりを行う時間を持たなかった。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2. プログラムの選択理由	先生の勧め	魅力的な内容	友達と一緒に	

※アンケートの項目は「4：とても当てはまる」「3：当てはまる」「2：あまり当てはまらない」「1：当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

対話のファシリテーション

対話の種類について

意識したいポイントを各自チェック

トークフォークダンスの際のポイント

カテゴリ分類	課題発見解決等			提供者		認定NPO法人 IVY				
プログラム名	一緒に世界の貧困について学び、学んだことを地域の小・中学生にも伝えていこう!!									
協力者	新庄東、新庄北の高校生、IVYyouthメンバー									
日時	①令和3年12月18日(土) 14:00~16:00				場所	雪の里情報館				
	②									
	③									
参加者(延べ)	高校生	12人	中学生	地域の大人	10人	大学生	関係者	2人	計	24人
地域課題・達成目標	最上の高校生にとって、世界で起きていることは遠い世界の出来事かもしれない。しかし、コロナ禍で露呈したように、日本も最上も世界との繋がりがなしには成り立たない。社会に出て働き出した際の何らかの指針となるよう、世界の現状を知る機会を提供する。									
プログラム内容	ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」(開発教育協会作成)を実施。世界の人口の推移、大陸ごとの人口、二酸化炭素排出量、世界の言葉、非識字率、富の分配を行なった後、ワークショップに参加して自分が感じたこと、思ったことを付箋に書き出しホワイトボードに貼って共有。最後に、高校生3人から、参加者へ向けて、特に貧困についてのメッセージを発表してもらった。									
実施に当たっての工夫	このワークショップは、本来は自らが動いて体感するものだが、コロナ禍を考慮し視覚的に把握できるように工夫した。 また、阿部だけが行うのではなく、高校生の実施側への参加を促すため、アイスブレイキング、メッセージの伝達を高校生にお願いした。									
課題や目標に対する成果	当初の目標は、昨年参加した高校生が貧困について勉強会を重ねることで、シモト大学で自分たちがワークショップを実施し、その後小中学生にも広げていきたいというものだった。しかし、コロナの影響で、対面での勉強会が出来ず、事前にワークショップの実践も出来なかったことから、ワークショップは阿部が行うこととなった。コロナでなければ、高校生がワークショップを行うことは可能だったのではないかと思います残念だった。									
所感・感想改善点	高校生は忙しく、特にシモト大学に参加する方達は、様々なことへの関心も高い。そのことが、逆に一つのことを作り上げていく時間を捻出できないことにつながる。高校生の主体性を重視することと、講座自体の完成度をどこまで求めるか、シモト大学の今後の方向性とも関連してくると思う。高校生のメッセージは素晴らしいものだった。「・高校に入学した時は世界にあまり関心なかったが、国際協力NGOの活動を知ったり、貧困について学ぶことで、自分で調べてみようと思うようになった。そういう行動が世界を変えることにつながると思う。・自分で困っている人たちを見つけ出すことが大事なんだと気がついた。・SDGsがどこか他人事だったが、貧困について学ぶことで、身近なこととして考えるようになった。」とらいあの皆さんの継続的な関わり、当日のご協力には感謝しかありません。									
高校生アンケート	1. プログラムについて	①充実し楽しかった	100%	②大人の情熱が感じられた	100%	2.プログラムの選択理由	魅力的な内容	先生の勧め	参加しやすい日程	

※アンケートの項目は「4:とても当てはまる」「3:当てはまる」「2:あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の4段階で評価しています。満足度として4、3の割合を表しています。
 ※プログラム選択の理由は、生徒が選んだ理由上位3つまで表示しています。

活動の様子

てIVYのイラク・シリア支援について説明している



大陸ごとの人口の場面。紐の中に何枚の紙があるか?



高校生からの参加者へ向けたメッセージ



富の分配で、ビスケットを配っている



実施報告②

新庄・最上ジモト大学説明会

プログラム勉強会

プログラム地域部会

高校生とともにある地域・未来フォーラム

新庄・最上ジモト大学オープンキャンパス



新庄・最上ジモト大学 説明会

6月14日（月）新庄北高校 1 年生／6月21日（月）新庄南高校 1 年生希望者（1 回目）／6月22日（火）新庄神室産業高校 1 年生・北村山高校 2 年生／6月23日（水）新庄北高校最上校全校／6月24日（木）新庄東高校 1 年生／6月25日（金）新庄神室産業高校真室川校 1 年生／7月8日（木）新庄南高校（2 回目）1 年生 計 7 校 8 回

* 目的 *

- ・新庄・最上ジモト大学の取り組み等を高校生に周知
- ・WEB サイトへの登録、申込方法の説明
- ・プログラム提供者及び内容紹介



I ジモト大学ってナンダ？

II プログラムの紹介

III ユーザー登録の準備

IV パンフレットの説明と申込



高校生活で学ぶことって？

ホイヘンズの原理
部分分数分解 $pV=nRT$
解と係数の関係
 $v=f\lambda$
人間万事室室が馬 $\sin(x)=\cos(x)$
素数解離曲線 人口ピラミッド

助動詞の判別

高校を出たその先で...

課題を見つけ出し
ジブンゴトにして
自分らしく社会に参加する

ジモト大学で伝えたいこと

進路決定は人生をデザインすること
・こんな人になりたい、こんな社会にしたい！！

自分のなりたて姿

どんな知識経験が必要なのか？

ジモト大学をぜひ利用してください(♡)★

ジモト大学は知ること

地域に生きる大人を知る
地域の文化や歴史を知る
地域で働く仕事を知る

地域で暮らす、暮らせる生の情報

ジモト大学の教科

ジャンル	プログラムの概要
キャリア (職業)	仕事を体験したプログラム、就職したい職業を中心に、仕事の内容ややりがい、その職業に就く方法を学ぶ
体験	最上地域の歴史や文化、自然や食を体験できるプログラム
課題発見 解決型	地域の課題やそれに対して自分の関わり方、解決方法などを考えるプログラム

自分だけの
「ない本」を
考えよう！



自分だけの「ない本」を考えよう！



1枚の写真からオリジナルの通称とあらすしを考え、ありそうでない、世界にたった一つの「ない本」を生み出そう！
(作家 ない本@nonbook)氏
～当日の流れ～
①開校趣意と流れの説明
②グループワーク
③個人ワーク
④共有
⑤振り返り

やりたいを **軸** に
人生を考えられるようになるう！！

生きていくための **強み** を
たくさん持てる大人に！！

いつか必ず役に立つ!!
進学、就職、そして人生に!!(^^)!

同世代の人と
妄想をシェアして
視野を広げてみませんか？

主催者：地域活動グループよりみくら部

10月17日(日)10:00～16:00
場所：新庄市内公共施設
定員：12人以内
オンライン予約は
ジモト大学QRコードから！



地域活動グループ「よりみくら部」

とは……？

本活動はグループ「よりみくら部」が、地域の未来を担う子どもたちを支援するために、「地域を輝かせる人」として活動しています。その活動の中心となるのが「地域活動グループ」です。

活動はグループ内で、ゲームや工作や読書に関する企画、メンバーの興味のある体験活動など、自分たちが楽しめる企画を中心に開催しています。



新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム プログラム勉強会

- ★日 時：令和3年8月31日（火）13:00～15:00
- ★開催方法：オンライン
- ★講 師：東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科
専任講師 牛木 力 氏
- ★参 加 者：プログラム提供者等 20 名



★講 義：「学びづくりのためのふりかえり」

※「ふりかえり」とは…

平たく言えば文字通り、これまで来た道を振り返ること。
ふりかえりでは、経験や実践を思い返したり、見つめ直したりすることで、気持ちや思考を整理していきます。
個人で行うこともあれば、組織やチームで行うこともあり、多くの場合、ふりかえりから得られた気づきや学びを今後の実践に活かしていくことが想定されます。
今回の勉強会では、ジモト大学プログラムをより良くしていくためのふりかえりの観点やツールの他、参加する高校生にも大切な、自分を見つめ直ししながら、成長していくためのふりかえり方法を実践や対話を交えながら学びました。

- ①導入（目的の共有、アイスブレイク）
- ②行為や行動に着目したふりかえり手法（KPT 法、YWT 法）
- ③自己の内面を見つめ、経験を学びに変えるふりかえり
- ④内面のリフレクション フレームワークの記入、ワークの共有
- ⑤まとめ



提供したプログラムの
“ふりかえり”や参加高校生との
プログラムで学んだこと、
経験したことの”ふりかえり”など、
勉強会を通し、いろんな場面で
使えるふりかえりの方法を学ぶ
ことができました！

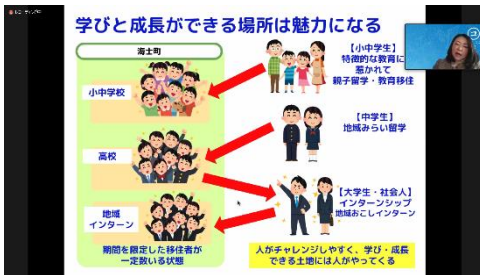
新庄・最上ジモト大学

「高校生とともにある地域・未来フォーラム」

★日 時：令和4年1月23日（日）13:30～16:00

★開催方法：オンライン（Web 会議システム（Zoom ミーティング））

★対 象：新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム構成団体、市町村・県の職員、
最上管内高等学校及び北村山高等学校教員、高校生、プログラム提供者等
※定員 80 名、参加者数：72 名（うち高校生 36 名、地域の大人 36 名）



★内 容

第1部

講話「高校改革と地方創生～ジモト大学が つむぐ相乗効果～」

講師：東北芸術工科大学 デザイン工学部

コミュニティデザイン学科 准教授 岡崎エミ氏

説明 「令和3年度ジモト大学の概要について」

第2部 高校生と地域の大人とのトークフォークダンス

高校生の進行により、次の4つのお題でトークフォークダンスを行った。

※トークフォークダンス：1対1で、示されたお題について、数分間での対話を繰り返す（お題ごとにペアが変わる）。

（お題）

- ・前世の記憶を持ったまま生まれ変わるとしたらどうしますか？
- ・身に付けたい能力は何ですか？
- ・二人で食事に行き、会計が 4,980 円だった場合、どのように払いますか？
- ・ジモト大学や新庄・最上でやってみたいことはなんですか？

第3部 ジモト大学プログラムや高校生の地域での

活動の事例紹介等

分科会形式で、次の A～J の 10 の活動事例について高校生及び大学生からの事例紹介ののち、感想共有等を行った。

★感想等

（高校生）・自分たちが自ら地域と関わり行動に移すことがより良い未来を作るサイクルへと繋がるのがわかった。・発表をするのも聞くのも良い刺激になった。・今自分がやっている活動に自信を持つことができた。・色々な方と話すことによって視野を広げることができ、今後の学校生活に活かしていける場面が多くあった。

（地域の大人）・高校生とフラットに話をできる時間が非常に有意義。・高校生の活動を大人も知りつつ、高校生同士も知ることがお互いの刺激になるし、今後の活動が広がっていくのかなと思う。・高校生と大人がかかわる場所もあまりなかったと思うのでいい機会だったと思う。

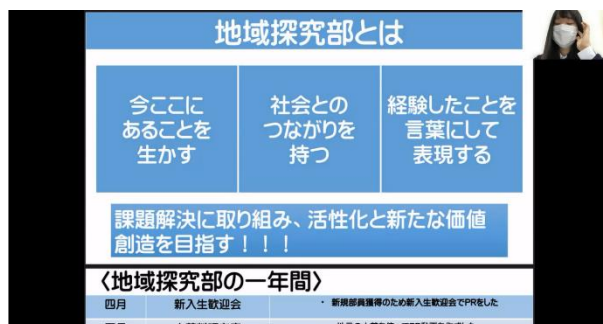
★フォーラム第3部 事例紹介

A 新庄北高校地域探究部の1年

- ・高校の部活動、地域探究部が1年間に地域で行った、「地産地消弁当メニュー考案」等の探究活動や個人研究等を紹介してくれました。

～事例紹介者への応援メッセージ～

- ・課題を自分たちで見つけてその解決に向けて活動している事が尊敬です。これからも頑張ってください。



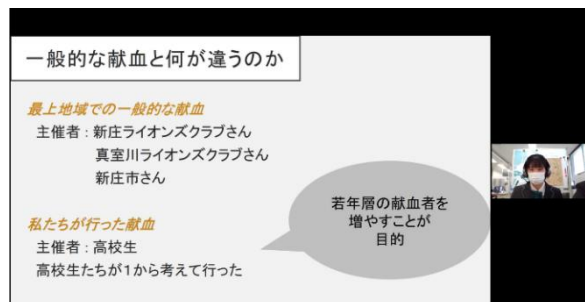
B 最上地域の若者への献血の啓発活動

（新庄東高校）

- ・高校の授業、総合的な探究の時間として若者への献血の啓発活動に取り組み、献血を主催したこと等を紹介してくれました。

～事例紹介者への応援メッセージ～

- ・高校生が地域医療に興味を持つのは大事なことです。高校生の力で、病院の方とか地域の方とかを繋げて大きな力にしてください。



C 新庄神室産業高校3年課題研究

本合海小学校での伝承豆交流学习活動

- ・高校の課題研究として行った本合海小学校3、4年生への出前授業、苗から育て、脱穀までを行った伝承豆の継承活動を紹介してくれました。

～事例紹介者への応援メッセージ～

- ・大人が伝えるより間違いなく高校生が伝えてくれた方が小学生も抵抗なくいろいろ学べるはずだと思います。ぜひ今後も継承して欲しいです！

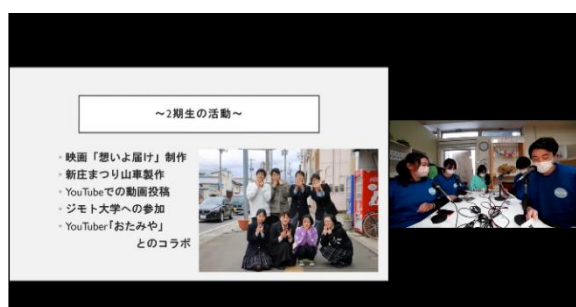


D WATS（2期生）の活動

- ・最上地域に通う高校生でつくる地域活動チームの2期生が活動紹介してくれました。1期生はパフェ開発等、2期生は映画作成や新庄まつり山車製作等に取り組みました。

～事例紹介者への応援メッセージ～

- ・たいへんだけれど面白い、苦しいけれど楽しい、WATS のみなさんの活動をみているとそんな感じがします。すごく大切な思い出になっていくのではないのでしょうか。



E 尚絅学院大学ボランティアチーム TASKI

高橋楓さんの活動

- ・最上地域出身の大学生が所属する大学サークルが今年度初めて取り組んだ、防災について学ぶジモト大学プログラムの提供等について紹介してくれました。

～事例紹介者への応援メッセージ～

- ・TASKI のメンバーそれぞれが力を持ち寄って課題解決に取り組んでいることがわかりました。こうした先輩方の姿はきっと地元の高校生にも伝わっていることと思います。



★フォーラム第3部 事例紹介 つづき

活動内容

中高生に地元の魅力を発信する冊子の制作

- ・活動開始 令和2年12月～
- ・試作品制作
- ・取材
- ・冊子の制作
- ・公民館、駅、学校に置く



F 最上で活躍している人を紹介する冊子の作成（新庄東高校）

- ・高校の授業、総合的な探究の時間として行った、地元最上町の魅力を発信する冊子作りの活動を紹介してくれました。冊子では地域で働く人を手書きのイラスト入りで紹介しました。

～事例紹介者への応援メッセージ～

- ・自分の好きなことを生かして地域に還元したいという姿勢が素晴らしいと思います。

G 北村山高校家庭クラブそばガールズの活動

- ・特産品「そば」を知り、広める、高校のクラブそばガールズの活動を紹介してくれました。そば弁当考案やそば染め小物作り、ジモト大学プログラムに参加しスイーツ開発等を行いました。

～事例紹介者への応援メッセージ～

- ・地域の人と交流・連携しながら活動すると、いろんな人から助けてもらえ、活動の幅がすごく広がります。大いに楽しんでください！



H よりみちくら部の活動

- ・主に新庄市で、世代を超えて高校生の「楽しい」を実践する地域サークルが活動を紹介してくれました。市立図書館でのぬいぐるみお泊り会や協力して作ったかまくらでお汁粉を食べる等を行いました。

～事例紹介者への応援メッセージ～

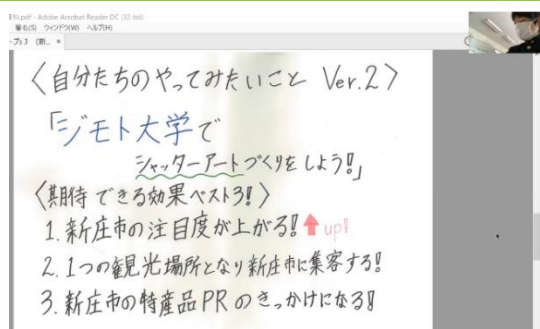
- ・地域で活動するのが、息抜きになったり新しいつながりになったりと自分の理想とするあり方そのものです。じんわりゆっくり広がっていくといいですね！

I 新庄南高校金山校地域探究サークルの活動

- ・高校のサークルとして、興味あることのなかから挑戦した、地元食材を使ったピザづくりや、地域の方とのモルックでの交流等の活動を紹介してくれました。

～事例紹介者への応援メッセージ～

- ・自ら地域に出て地域のために活動している姿が素敵です。探究活動を通して感じた町の良さを町外の方へ発信してほしいと思います。



J 新庄北高校1年生の地域探究活動

- ・高校の授業、総合的な探究の時間で出たアイデア、商店街活性化のための「ジモト大学でシャッターアートづくり」を紹介してくれました。

～事例紹介者への応援メッセージ～

- ・シャッターを活用するアイデアが面白いなと思いました。期間や時間帯まで考えていて、実現しやすい内容なのかなと思いました。

新庄・最上ジモト大学 「オープンキャンパス2022」 ～高校生が旅立つ前に学ぶコト～展

- ★日時：令和4年1月21日（金）～2月3日（木）
- ★場所：最上広域交流センターゆめりあ内 花と緑の交流広場
- ★内容：新庄・最上ジモト大学の紹介展示
- ★対象：新庄駅ゆめりあを利用する地域の大人及び高校生等
- ★主催：新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム



* 目的 *

- ・新庄・最上ジモト大学の取り組み等を高校生や地域住民に広く周知する。
- ・オンラインで開催するジモト大学フォーラムには定員があり、参加者に限りがあるため、取り組み等の参加者以外への周知を補完する。
- ・メッセージノート等の設置により、展示内容等に対する感想等を集め、今後の取り組みの参考とする。



* 展示内容等 *

- ・ジモト大学の紹介（平成29年度より ポスター&パンフレット掲示）
- ・今年度のプログラムの様子（写真とコメントでの紹介）
- ・高校生の地域活動及び、地域の活動事例などの紹介
- ・「高校生とともにある地域・未来フォーラム」分科会の事例発表資料
- ・メッセージボード（掲示板）やオンラインメッセージ送信用QRコードの設置（作り上げよう、最上のこれから。～あなたの意見が最上を育てる光となる～への掲示にコメント貼付 写真参照）

【応援メッセージ等】（オンラインアンケート1件 メッセージコメント19件）

・各プログラムの内容が、文字情報が多すぎず、どんなことを行ったかが何となく分かるので見やすかった。多くの方に知ってもらうには、あまり情報量多くないほうが良い。高校生が頑張ってる、しんじょう・レインボープロジェクトやワッツ、ウインタープロジェクト、地域の大人のみなさんが取り組んでいる最上マイプロジェクト推進運営委員会なども活動の見える化が大切なので良かった。

・ほくも来年参加してみたいです／最上で自分の夢をかなえたい／イベントがめっちゃ楽しかったです！また参加します／旅立つ日がきてもまた最上に帰ってきてほしい／絆／“楽しい”から将来のやりたいを見つけてほしい／幸せの循環を！／ジモト大学のチャレンジが未来の地域のチャレンジを生む／希望の木をいっぱい作ろう♪／心のよりどころ、みんなの居場所／子どもがジモト大学なら、大人の市民大学／旅立った先でも、心&体元気で！そのためにも今を大切にね！／学びと人の繋がりは相乗効果！／自分と地域の可能性を知り、未来を考える場、機会

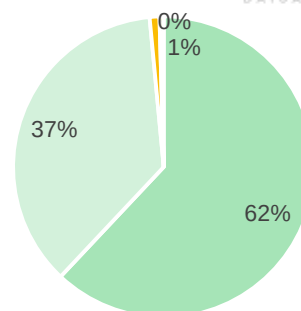
プログラム参加者アンケート



令和3年度 新庄・最上ジモト大学 高校生アンケート結果

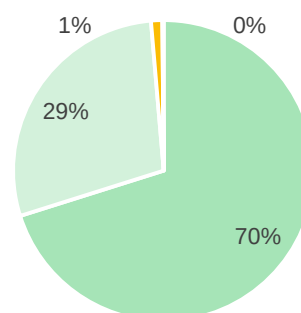
問1 プログラムは、充実し、楽しいものだった。

■ とても当てはまる	413
■ 当てはまる	243
■ あまり当てはまらない	7
■ 当てはまらない	3



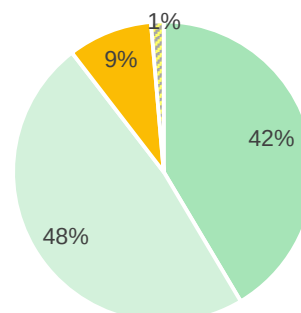
問2 プログラム準備や対応に、地域の大人の情熱が感じられた。

■ とても当てはまる	465
■ 当てはまる	189
■ あまり当てはまらない	8
■ 当てはまらない	1



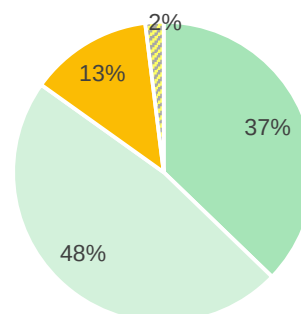
問3 プログラムを通じて、地域の資源や課題について、さらに聞いたり、調べたり、学びたいと思った。

■ とても当てはまる	274
■ 当てはまる	318
■ あまり当てはまらない	60
■ 当てはまらない	9



問4 将来、自分の住んでいる地域のために、役に立ちたいという気持ちが湧いた。

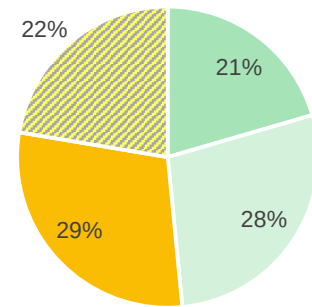
■ とても当てはまる	246
■ 当てはまる	315
■ あまり当てはまらない	87
■ 当てはまらない	13



令和3年度 新庄・最上ジモト大学 高校生アンケート結果

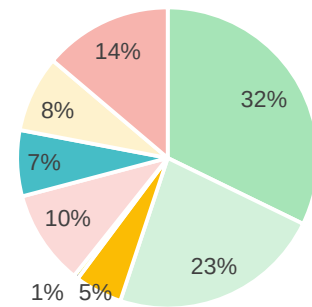
【オンラインの場合のみ回答】問5 オンラインプログラムの参加について難しかった。

■ とても当てはまる	33
■ 当てはまる	45
■ あまり当てはまらない	47
■ 当てはまらない	36



問6 このプログラムを選択した理由を選んでください。（複数回答可）

■ 魅力的な内容と思った	259
■ 先生から勧められた	184
■ その他、関係する人から勧められた	41
■ 先輩等の口コミ	4
■ 友達と一緒にいくから	82
■ 開催場所が近かったから	57
■ 参加しやすい日程だった	66
■ その他	111



【自由記載1】プログラムを通じて、学んだこと

大人の方の仕事
に対する熱意を
学んだ

自分から積極的に参加し
て、いろんな経験をして
いって自分の視野を広げ
ることが大切なんだなと
思いました

様々なアイデアを出し合っ
て共作することのおもしろさを
体験することが出来た。
また、映像制作の多様性や
色々な表現の仕方を学ぶこと
が出来た

コロナ禍でも自分
達に出来ることを
進んで行動したい
という気持ちをも
つこと

課題を「課題」としてつ
まらないものとして捉え
るのではなく、楽しくや
ることが結果的に地域に
とってもいいことだとわ
かった

コミュニケーション
能力が大切とい
うことを学んだ

チャレンジ精神が大
切で、キッカケはど
こにでも転がってい
るということ

みんなと共有するこ
との楽しさ

地域を本気で良くしよ
うとしている大人がい
るんだなと具体的な例
を知ることができた

人との会話する時
のコツのようなも
のを掴めました

地元のよさについて
改めて知ることがで
きた

地域には思ったよりも魅
力的で楽しそうな仕事がある
ということ。都市圏などの
都会にも負けないほどの長
所が地域には隠れていると
いうこと

今、私たちに何がで
きるのか など考えてみ
たいなと改めて思った

企画し、それを実行する
ことの楽しさ・苦難を知
りました。とても楽し
かったです

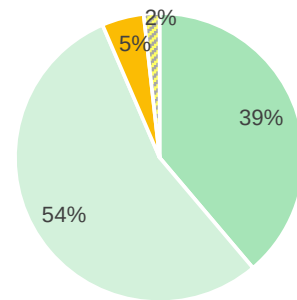
このような講座を受けるた
びに思うがやっぱり山形最上は
自分の知らないいいところが
たくさんあるし自分が好きだ
と思っていなかった新庄最上
を好きと思っていて地元に貢
献したいと思い活動する大人
は本当にすごいと思ったし将
来そうなりたと思った

自ら行動することの大
切さ

自分の進路は自分で決め
るべきだと感じた

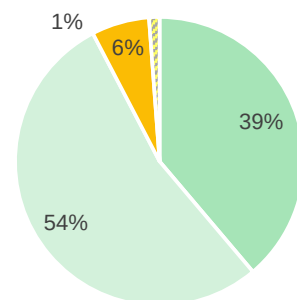
問1 高校生との対話を通して、日常では気が付かない新たな発見があった。

■ とても当てはまる	66
■ 当てはまる	93
■ あまり当てはまらない	8
■ 当てはまらない	3



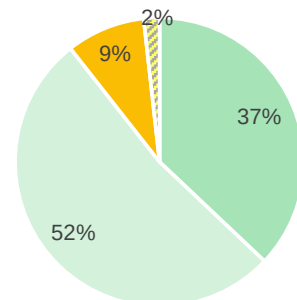
問2 プログラムを通して、高校生の変化や成長を感じることができた。

■ とても当てはまる	66
■ 当てはまる	91
■ あまり当てはまらない	11
■ 当てはまらない	2



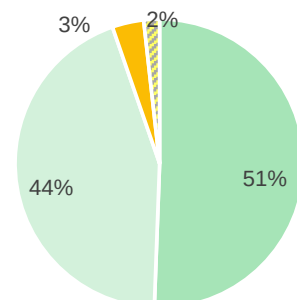
問3 プログラムを通して、自分自身の変化や成長を感じることができた。

■ とても当てはまる	63
■ 当てはまる	89
■ あまり当てはまらない	15
■ 当てはまらない	3



問4 高校生の想いを受け止め、共に地域を作っていきたいと思った。

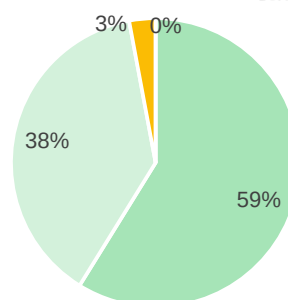
■ とても当てはまる	86
■ 当てはまる	75
■ あまり当てはまらない	6
■ 当てはまらない	3



令和3年度 新庄・最上ジモト大学 大人アンケート結果

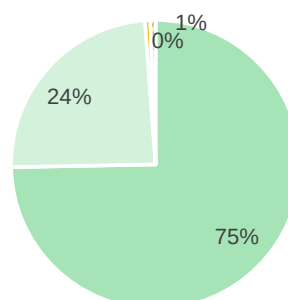
問5 プログラムは、充実し楽しいものだった。

■ とても当てはまる	100
■ 当てはまる	65
■ あまり当てはまらない	5
■ 当てはまらない	0



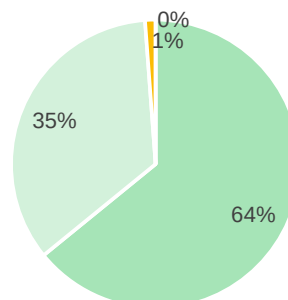
問6 このような異世代の対話の場は必要と思う。

■ とても当てはまる	127
■ 当てはまる	41
■ あまり当てはまらない	1
■ 当てはまらない	1



問7 これからもこのような機会があれば協力したい。

■ とても当てはまる	109
■ 当てはまる	59
■ あまり当てはまらない	2
■ 当てはまらない	0



問8 大人は高校生のために何ができると思いますか。

伝えること、ともに学ぶ

挑戦できる場所の提供

好奇心を育てること。チャレンジする機会の提供

もっと多世代の人とお話や協力できる場を増やしていければいいのではと感じた

安心する人がいるということ。相談できる存在がいるということ。手本になる人！

耳を傾け、背中を押す

地元のよさ仕事の楽しさを伝えることができる

一緒に悩み、考える

視野を狭めないこと可能性を潰さないこと

見聞を広めるお手伝い

社会の情報提供・地元の情報提供

参加しやすいプログラムの提供

自分の知識や経験を伝えること

高校生のやってみたいを実現するお手伝いをする

自由な選択肢を与えること
地元愛を育てること

自らの経験を伝えることで、高校生の未来を助けることにつながると私は考えています

仕事の現実を伝えて入社したときや社会人になった時のギャップをできるだけ少なくすること

社会に出て働く上での不安要素を取り除いてあげる

記事スクラップ



最上地域の高校生に学校生活とは違った学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム」(代表・加藤亮典最上総合支庁長の総会が13日、オンライン形式で開かれた。生徒たちが身近な大人

オンライン形式で開かれた
新庄・最上シモト大学推進
コンソーシアムの総会
〓新庄市・最上市総合文化センター



花沢市参加

エジモト大学総会

ムー（代表・加藤亮真最上総合支庁長）の総会が13日、オンライン形式で開かれた。生徒たちが身近な大人と交流しながら地域課題の解決を目指す活動に賛同する尾花沢市が新たにエジモト大学の充実など、2021年度運営方針を決めた。

同支庁と最上8市町村などをオンラインで結んで開催。21年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で30以上のプログラム、延べ7200人以上の参加を目指すことにした。新たに尾花沢キャンパスを置くことにになり、菅根光雄市長は「若者の地元定着は最重要課題。北村山高と連携し、尾花沢ならではのプログラムを検討したい」とあいさつした。

同コンソーシアムは17年度に始まったエジモト大学事業を発展させるため19年3月に最上地域の高校と8市町村、東北芸術工科大、各商工団体などで設立。19年度に31、20年度に32のプログラムを実施した。これまでに会員交流ネットワーク（SNS）を活用し古里の魅力を発信する取り組みや、新庄市立図書館の駐輪場壁面に幅広い世代が絵を描くイベントなどを通じて生徒たちが地域とのつながりを深めた。（佐々木亨）

高校生に学校とは違つた学びの場を提供する本年度の「新生」最上プロジェクトが、10日、尾沢市のプラザを皮切りに始まつた。同市の北村山高天・内野眞喜校長の生徒が身延大と交流しながら地元庫は粉を使ったクイズ開発に取り組むべく、初回は学生主軸のアドバイスを参考に、生徒たちがメニュー作りを続けた。

[illegible]

「プロラムの前に尾花キャンパス開講式が行われ、菅原元雄市長が「熱い思いでもつくりに取り組みたい」と話した。今後、む大人と交流し、学生に生かしてほしい」と、高校生にエールを送った。本年度は、地域合わせのプログラムの組まれている。(佐々木)

社説

「上京してもいい。でもいつか大人になった時に、この地域を未来に引き継いで欲しい」。5年目を迎えた「新庄・最上ジモト大学」のパンフレットの表紙に、こう記されている。主催するコンソーシアムの大人たちが、参加する高校生に寄せる思いだ。「オール最上」による若者定着・人材確保の取り組みの柱であるこの事業は本年度、広がりを見せ、成果につながる動きが始めている。

全国の大都市は若者の流出が止まらない。最上地域は県内でも、その傾向が顕著だ。「ジモト大学」はこの危機感を背景に2017年度に始まった。地域内の高校、市町村、県最上総合支庁、東北芸術工科大などが推進コンソーシアムを組織。行政や企業、市民グループに大学生といった多様な団体が講座を設ける。高校生は輝いている地元の大人と出会

5年目のジモト大学

若者定着の成果 徐々に

型コロナウイルス感染対策としてリアルとオンラインを織り交ぜながら、延べ720人以上の参加を目指す。

本年度のトピックは尾花沢市の参画だ。顕著な若者流出という最上地域と同じ課題を抱え、その打開策の一つとしてコンソーシアムに加わった。市内から最上地域の高校に通う生徒が一定数おり、

アイデアを出し合った。その様子を見ながら菅根光雄市長は「まずは地元に関心を持ち、魅力を認識してもらおう。それが定着や回帰につながるはずだ」と語った。関係者全てが共有する思いだろう。

ジモト大学を含む官民による取り組みの成果として、関係者は高校生の就職状況の変化を挙げる。最上地域の県内就職

い、一緒に地域課題の解決策を考える。12講座に延べ244人が参加した初年度から、着実に規模は拡大している。講座数は昨年度、32に増え、延べ587人の高校生が参加。本年度は36講座が用意された。テーマは地元の歴史や国際交流、医療にeスポーツと多彩だ。企画、運営に高校生が携わるプログラムもある。新

商業圏が重なるなど互いの強い結び付きも理由の一つという。

本年度の講座は、その尾花沢市でのプログラムを皮切りに10日スタートした。同市の北村山高の生徒が地元産そば粉を使ったスイーツ開発に取り組み。市内のそば店主や徳良湖畔でカフェを運営する地域おこし協力隊員のこだわりに触れ、

率は今春、82・2%となり、県全体（81・2%）を上回った。過去10年では初めてで、前年から約10%上昇した。ただ、コロナ禍の影響が大きく、山形労働局は「全体的に生徒や保護者が県外就職に抵抗感を持った」との見方を示す。さらに実数を見ると、最上地域の県内就職者数は125人で、県全体の6%程度だ。来年度以降の数値を見定める必要がある。

むしろ変化の兆しは別にある。ジモト大学は、県とともに一般社団法人とらいあ（新庄市）が事務局を担い、高校生や各講座の主催者と向き合いながら、丁寧に事業を進めている。担当者によると、「卒業生」が短大を出て最上地域の役所に就職したり、宮城県に大学に進学し、サークルのメンバーとして本年度の講座の開催者となったたりする事例も出ている。まだ「点」にすぎないが、こうしたケースが増え、事業の成果が面的に広がることを期待したい。

2021年7月19日



令和3年9月25日 山形新聞（大蔵村）

大蔵村PR、ボクらの挑戦

住民協力 高校生2人が動画制作

9/25
山形



新庄北高生が四ヶ村の棚田で動画撮影に挑戦した
＝大蔵村

大蔵村出身の高校生2人が22日、村内の四ヶ村の棚田でPR動画制作に挑戦した。村職員や村民など身近な大人が協力。映像制作の専門家の機材を使って美しい田園風景や生産者、棚田米のおにぎりなどを撮影した。

和彦さん40にカメラの扱い方、見栄えのする撮影法などを教わった。2人は黄金色に染まった稲穂を前に「映える」撮影ポイントを探し、熱心にカメラを向けていた。稲村さんは「きれいな棚田の魅力が伝わるような映像にしたい」と意欲的に語った。

県最上総合支庁が中心となり、官民が連携し、地元の高校生に学校とは違った学びの場を提供する「新庄・最上シモト大学」事業の一環。この日は同村が企画した「YouTube動画」を本格的な機材で制作！が開かれ、内容に興味を持った新庄北高1年の稲村大和さん(15)、伊藤倭河さん(15)が参加した。

(佐々木亨)

同村出身の2人はこの日、村職員らと収穫期を迎えた四ヶ村の棚田を訪問。肘折温泉で商店を営みながら映像制作も手掛ける須藤

令和3年10月6日 山形新聞（鮭川村）

Youはなぜ 鮭川に？

新庄北高生 移住者から村の魅力聞く

10/6
山形



地元高校生が地域で活躍する移住者の話に耳を傾けた
＝鮭川村役場

鮭川村に移住した人を講師に迎えた高校生向け講村役場を起点に開かれ、新座「Youはなぜ田舎(さ)庄北高生6人がオンライン

で参加した。「古里には何も無い」と感じていた生徒たちは受講後に「田舎だからこそ都会にはない無限の可能性がある」などの新たな気付きを得ていた。

この日は村地域おこし協力隊の角田歩さん(43)＝茨城県つくば市出身＝と同村の秀林寺住職の遺田旭有さん(43)＝酒田市出身＝の2人が講師を務めた。角田さんからは「スキーなど都会ではなかなかできない趣味が身近になった」、遺田さんは「村

(土屋隆)

元学
地太

SHINJO-MOGAMI
JIMOTO
DAIGAKU

北村山高生 助言受け商品開発へ

尾花沢 高校生に学校とは違った学びの場を提供する本年度の「新庄・最上ジモト大学」が10日、尾花沢市のプログラムを皮切りに始まった。同市の北村山高（大内町嘉良校長）の生徒が身近な大人と交流しながら地元産そば粉を使ったスイーツ開発に取り組み企画で、初回はそば店主らのアドバイスを参考に、生徒たちがメニュー作りを話し合った。

同市の良助オートキヤ
ン・場管理棟内の「Goo
se Cafe」を会場に、
約60名の女子生徒15人を含む
約30人が参加。市では
店番を高橋晃浩さん(89
がたわりの「説明員」草
生について説明した後、
同Cafeでそらは扱った
菓子を販売する。久保
田さん(89)が「この粉は
バターとの相性がいい。参
考にして」と話した。

生徒たちは、グループに
分かれてアイチを出し合
った。同校では「ルズの
メンバー佐藤さん(102)
まで」にそら粉を使ったケ
ーキやハンバーグを作
つてとある。今回はあ
んなに驚くような商品思
え、生徒は口にしたた
え、試作に励み、地元菓
子店との協力、助産をも
ういながら商品化につ
なげたい。

県産上総会友会(理事8
市町)、管内の企業、団体
が取り組むジメ、団体
は年度で5年目。高校生

尾沢摩也(89)が「新商
品の開発を担って」配
北村山高の(89)が「
尾花村、良助オートキ
ヤン・場管理棟内



が大人と接点を持ちながら地域課題と一緒に考えるのが目的で、活動に賛同した尾花沢市が今回、新たに加入している。(佐々木亨)

わつた。

プログラムの前に尾花浜
キャンパス開講式が行われ、菅根光雄市長が「熱い
思いでまちづくりに取り組
む大人と交流し、今後の人
生に生かしてほしい」と高
校生にエールを送った。本
年度は行政、地域合わせて
36のプログラムが組まれて
いる。（佐々木亨）

心理戦にドキドキ
eスポーツ楽しむ
高校生向けイベント

新庄

を競う「eスポーツ」に親しんでもらう高校生向けのイベント「ESPORTS LEAGUE SHINJO」が先月30日、新庄市民プラザで開かれ、参加者が熱戦を繰り広げた。

新庄市の新庄東高eスポ

地元高校生らがeスポーツに
親しんだイベント

11 新庄市民プラザ



ーツ部と尾花沢市の北村山
高から計12人が参加した。
この日の種目となったのは、
複数人の宇宙飛行士(クルー)
が宇宙船の中に集ま

り、その中にいる裏切り者（インポスター）を探し出すゲーム「アマングアス」。ゲーム内では参加者による会議も開かれ、8人の中に交じった2人のインポスターを見つけ出すための心理戦が繰り広げられた。

自治体や企業・団体が高校生に学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学」の一環として新庄市のデザイン事務所グレースィーデザイン（内藤秀一代表）が企画した。

(土屋隆)

紙面編集・柴崎 愛



昔話から着想の絵灯籠

「ジモト大学」 戸沢の高校生が紹介



高校生が「角川雪回廊物語」のために作った絵灯籠を紹介した＝戸沢村農村環境改善センター（画像の一部を加工しています）

高校生に学校とは違った学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学」の戸沢村プログラム最終回が20日オンラインで開かれた。同村角川地区のイベント「角川雪回廊物語」を学んだ生徒が、イベント用に作った絵灯籠について紹介した。

「雪回廊物語」は、雪壁に絵灯籠を設置して明かりをとす冬の恒例行事。この日は、村農村環境改善センターと生徒の自宅などをインターネットで実施。完成品の写真を



画面共有し、高校生が「楽しさを広めることが大切。つばがいい気分になって帰りたい」と思っていた。作品に込めた思いや学んだことを発表していた。

（高橋正樹）

高校生ら地域考え行動

「新庄・最上ジモト大学」フォーラム

高校生と住民が交流し、地域の課題解決に向けた活動を繰り広げる「新庄・最上ジモト大学」のオンラインフォーラムが23日、新庄市の県最上総合支庁を主会場に開かれた。生徒、大人合わせて約80人が参加。一対一の対話や活動報告などを通して刺激し合った。

ジモト大学は、自治体や企業・団体が高校生の主体的な学びの場を提供し、応援する事業。県最上総合支庁が事務局を担い、5年目の本年度は昨年12月末までに34のプログラムを実施し、延べ900人近い生徒が参加した。

この日は「高校生とともにある地域・未来フォーラム」と題し、ジモト大学の各種事業に取り組んだ生徒や自治体職員、ボランティアのほか、各校の部活動やサークルで地域活動に励む

対話や発表、刺激に

「松つ」との声もあり、場を和ませた。最後にプログラムや地域活動の事例をグループで紹介。地元食料品を使った商品開発や同世代に献血を呼び掛ける活動など多彩な取り組みが報告された。同市のゆめりあでは、ジモト大学のプログラム内容をまとめた展示企画「オーブンキャンパス」が来月3日まで開かれている。

（佐々木亨）



オンラインで開催した「地域・未来フォーラム」に参加する高校生



ジモト大学のプログラムを紹介する展示

EDITORIAL COLUMN

社説

本県の高校生が地域で意欲的に学び、課題解決に挑んでいる。「誰かの役に立つ」との経験を得ることは重要な。さらなる活発化と、彼ら自身が地域の担い手になれる―と意欲を高められるよう、大人の側には適切な後押しを期待したい。

高校生が地域に関わる事例は数多い。昨年からは今年にかけて本紙に掲載された記事でも、その多様さが分かる。

谷地高（河北町）の生徒は、産学官連携で地域活性化や新たな産業創出などを目指す「かほく探求実践プロジェクト」に取り組んでいる。町内のべに花温泉ひなの湯について誘客策を話し合い、昨年12月に子育て世代向けの催しを開いた。

さらに新型コロナウイルス禍で苦境の町内酒蔵などの力になろうと、同校創立100周年記念の日本酒造りに携わり、先月には生徒が酒蔵で仕込み作業を行っ

地域課題に挑む高校生

2/7 山形

定住、回帰の効果に期待

地域課題に向き合う力の育成を掲げる。2020年度は県立高校の8割以上で、生徒が地域に関するテーマの探究活動を行ったという。取り組みは着実に広がっているようだ。

最上地域では高校生が大人と交流しながら地域を学び実践する「新庄・最上ジモト大学」が5年目の活動を実施。本年

た。町民や卒業生向けのPRも担う。

米沢興譲館高生は、観光振興へ新たな魅力を加えようと、アートとアウトドアのイベントを企業や団体と連携し先月に市内で開いた。紅花染めやガラスを使った作品を作り、たき火を囲み交流。感性を生かした企画と言えるだろう。

県教育委員会は探究型学習を推進し、

が酒田駅前交流拠点施設「ミライニ」の一部の管理・運営を担当。生徒は同施設でマルシェも開き、昨年末にはにぎわいの拡大を目指し商店街でも開催した。生徒の意欲的な姿勢が、施設の利用促進やまちづくりに一役買っている。

地域での学びと活動は高校生にとって将来への大きな糧になる。鍵となるのは

度は尾花沢市も参画し、キノコ廃棄部位の料理活用など計34のプログラムに、延べ900人の高校生が参加した。生徒がプログラム提供に回る事例もあり、今後の発展に期待を抱かせる。先月にはオンラインで活動報告などを行った。

酒田光陵高生の取り組みも興味深い。生徒らでつくる一般社団法人SKIE'S

主体性だ。自ら課題を見つけ解決を目指すことで得られる経験は増える。谷地高の教諭は、より生徒から積極性を引き出したいとする。新庄・最上ジモト大学の関係者は、大人が教えるのではなく、一緒に考え取り組む関係性を求めているという。大人には高校生を地域の担い手として尊重し、力を引き出しながら伴走する包容力が必要だろう。

一方で地方からの若者流出は変わらぬ悩みだ。昨年3月の県内高校卒業生で大学などへの進学者は4355人で、このうち72・1%が県外に出た。就職者は2561人のうち20%が県外を選んだ。彼らのただけが古里に戻るだろうか。

地域課題解決を目指す取り組みは地元への理解と愛着を深める効果が期待でき、定住や古里回帰の動機にもなり得る。教育的な観点に限らず、人口減少対策や地域振興を担当する行政部局を巻き込んだ展開がより重要になるだろう。

2022年2月7日



令和3年8月号（広報ふながた）

ワークショップ「S I Mふながた2030」(120分)

S I Mとは、シミュレーションの略で、各テーブルを1つの架空の町として、2030年までの10年間に迫りくる少子高齢化などの課題に対して、「健康福祉・教育文化・産業経済・まちづくり・防災安全・生活環境」の課題となり、対話をしながら町の将来像を描くまちづくりゲームです。

各課長に任命され、架空の町の担当課の現在の予算状況や事業についての確認を行いました。

50億円

各課から出された案のメリットとデメリットを話し合い、よりよい予算配分について議論が白熱。

架空の町の10年後を見据えて事業の優先や課題の判断をしました。また、新年度案についても考えました。

先陣とのフリートーク(90分)

グループに分かれて、職員とゲーム形式の自己紹介で親睦を深めた後、先陣に仕事やプライベートの過ごし方について質問をしました。

Q.こんな質問がありました
Q. 住民対応の上で大切なことはなんですか？
A. 相手の立場になって説明することが大切です。行政用語を使わず、相手に分かりやすい言葉で心がけています。
Q. 仕事にやりがいを感じるとはいつですか？
A. 町民に感謝されたり、大きな事業が完了したときです。

ふりかえり(60分)

2日間の日程のふりかえりを、K P法を用いて行いました。参加者からは「コミュニケーション能力の大切さを学ぶことができた」「上下関係が厳しく堅いイメージがあったが、みんなで地域をよくしようと協力しながら仕事をしていた。」などの声がありました。

～K P法とは～
・紙芝居(K)プレゼンテーション(P)の略
・紙芝居のように、自ら用紙にマジックで要点を記入し、それを言い渡す方法
・伝えたい情報を簡潔に伝えられる

プロジェクト

11/9(火) 9/30(木) 随時受付中

ふながたWAKUWAKUWORK
中学生を対象に地域の企業・団体に所属する企業家を案内します。この機会に、地域のみなさんともぜひ学ばせていただきます。

お問い合わせ
市町まちづくり課地域支援係
TEL 010-4

新庄・最上 ジモト大学が開催されました

8月31日の一泊二日の研修が完了しました。最上地域の高校生が参加し、1日間の研修で、最上地域の高校生に寄り添って働き方を学ぶことができました。研修の振り返りや、今後の活動について話し合いました。

座学:町の概要について(45分)

まちづくり課長より、町が進める「まちづくり」についての講話がありました。

オリエンテーション(30分)

参加者の自己紹介と、二日間のプログラムの確認が行われました。

ジモト大学 3つのルール

① 地元のことをよく知ろう！
② もっと自分から積極的に語ろう！
③ ともに本気で学ぼう！

ジモト大学って何？

～ジモト大学とは～
実際の職場で特定の職員に影(シャドウ)のように密着し、仕事の内容、仕事への姿勢、働き方、職場環境、やりがい、人間性などを観察や質問をしながら学ぶ手法のこと。

最上地域では、若者の流出に伴う人口減少が進んでおり、とりわけ大学進学等で最上地域外に転出、卒業後の地元へ帰郷が少ないことが大きな課題となっています。最上地域の高校生が在学中に、地域の企業・団体の社員と、対話や「シャドウ」を通じて、働き方と生活の両面から、最上地域に魅了されたい姿を見つめ、その一助として、将来的に地元へ帰郷し、地域の中核を担う人材の育成を目標として、最上地域全体で取り組んでいる事業です。

令和3年9月号（広報かねやま）

▲参加したみんなで話しながら楽しく学習した



新庄・最上ジモト大学 高校生がSDGsカードゲームを体験

8月2日、新庄・最上ジモト大学の金山プログラムで高校生がSDGsを学びました。カードに書かれたミッションを「経済」「環境」「社会」のバロメーターを意識しながらクリアしていくカードゲームを体験。毎日の暮らしの中で選ぶ行動の大切さを学びました。地域との関わりの中で自分や地域の課題を見つけSDGsを意識しながら、自分自身の行動を考えるきっかけになればと思います。



令和3年11月号（広報おおくら）



▲こちらから動画を見ることができます。



1_高校生が撮影したYouTube動画「四ヶ村の棚田」 2_映像クリエイターの須藤さんにカメラの操作方法を教わる高校生 3_インタビューの様子 4_小型ドローンを操作する高校生

新庄・もがみジモト大学—大蔵村講座— 高校生が「四ヶ村の棚田」を撮影

9/22(水)、ジモト大学の大蔵村講座「YouTube(YouTube)動画を本格的な機材で制作!」が開催されました。ジモト大学は高校生に進学や就職をする前に地域のことを学んでほしいと各市町村と企業で取り組んでいる事業です。大蔵村では四ヶ村の棚田の魅力と動画制作を学ぶプログラムで、大蔵村の2名の高校生が本格的な機材を使った動画撮影にチャレンジしました。

高校生は映像クリエイターの須藤和彦さん(肘折)に教えてもらいながら、デジタル一眼レフカメラやドローンなどの機材を使って棚田の風景やインタビュー映像を撮影しました。棚田米のブランド化に取り組む四ヶ村棚田米生産販売組合の須藤敏彦さん(平林)に棚田での米づくりの苦労や棚田米の販売方法などをインタビューしました。高校生は「動画撮影の仕方や棚田を耕作する方の想いを知ることができた。自分たちが棚田のために何ができるのか考えたい」と感想を話してくれました。

収録した映像は村公式YouTubeチャンネルで公開しています。動画は左上のQRコードのほか、村ホームページからもご覧いただけます。

令和3年11月号（広報まむろがわ）

ジモト大学

高校生を対象に、最上8市町村の行政や民間団体が地域理解を深める講座を提供する「ジモト大学」。5年目となった今年の真室川町プログラムは全3回の講座を用意。自ら志望し、参加した5名(1回目のみ9名)の女子高校生とデザイナーの佐藤南以さん(砂子)とのコラボレーション(協働)により、マスクングテープのデザイン制作・販売体験にチャレンジしました。

真室川deデコレーションプロジェクト ～オリジナルのマステで地域を彩ろう～

1 1回目の講座(8月11日)でもコンセプトやテーマを固める作業を行い、その結果、マスクングテープを使用することの多い女性に向けて、方言の面白さや魅力を伝えるということに。



5人の仲間たちと頑張りました。

2 2回目の講座(8月11日)でもコンセプトやテーマを固める作業を行い、その結果、マスクングテープを使用することの多い女性に向けて、方言の面白さや魅力を伝えるということに。



今後新庄駅などの販売を目指しています。見かけましたらぜひお買い求めください。また、「ちの店」で売りたいという方は、企画課(☎622090)まで相談ください。



10月16日、新庄駅で販売会を開催しました。



7月24日、町の魅力を深し歴史民俗資料館へ



10月30日(土)
北村山高校生が
そば粉を使った新スイーツ発表

こんなスイーツ考えました

3回目の講座では、試作を重ねて完成したスイーツを発表。地元菓子店やそば生産者、北村山高校長などが審査員となり、グループごとにプレゼンテーションされたスイーツを賞賛しました。そばの風味を活かした5つのスイーツに審査員も感心しながら審査。5つのグループそれぞれに賞が贈られました。(※審査員氏名 敬称略・敬称不詳)

最優秀賞
「そばくまパフェ」

クッキーをクマの耳にして、スポンジと寒天にそば粉を入れました。

優秀賞
「そばクリームガレットとそばチョコ」

生クリームにそば粉を混ぜて、砂糖と卵黄を加えて、型に入れて焼きました。

尾花沢市長賞
「シフォン＆マカロン」

そば粉とそばを混ぜてそばの風味を活かしました。苺やイチゴ、イチゴとイチゴを飾りました。

おばね菓子店賞
「そばフレンチクルーラー」

生地にそば粉を混ぜ、砂糖と卵黄を加えて、型に入れて焼きました。

そば研究会賞
「レアチーズケーキ」

上白糖の代わりにそば粉を使い、苺やイチゴを飾りました。

アクティビティを通して歴史とイベント運営を知る！～歴史ある湖には、ドラマがある～

7月18日(日)
徳長湖でヨット体験教室

小中学生を対象にしたヨット教室で、ヨット体験の機会と、一緒に活動する機会が提供された。この機会に、ヨット体験の楽しさや、ヨットの歴史や、徳長湖の魅力を発見しました。

新庄・最上 高校生が
旅立つ前に
学ぶコト

**新庄・最上 ジモト大学
尾花沢キャンパス開講!**

新庄・最上地域の高校生を対象に、平成29年度より行っている「ジモト大学」地域全体をキャンパスに見立て、学校だけでは学べない地域を学ぶことができない地域のヒト・モノ・コトを地元の大人から学び、高校生が地域を知る事業として、様々な実践プログラムを行っています。

この事業に尾花沢市も連携して取り組むことになり、今年度新たに「尾花沢キャンパス」を開講し、7月10日に開講式を行いました。

尾花沢キャンパスで実施された2つのプログラムを紹介します。

**★こだわりのそば「原種最上生」を使って
そばガールズと一緒に商品開発!**

7月10日、いよいよ「尾花沢キャンパス」がスタート。開講式の後、さっそくそば粉を使ったスイーツの試作講座を行うプログラムがスタート。全3回講座で新スイーツの考案・試作・発表までを行います。

1回目の講座では、地元そば店の店主、そば研究会代表の高橋寛治さんを招いてトークショーを開催。参加した北村山高校の生徒たちは、尾花沢でそばの保存・生産・そばの消費までを行っている「原種最上生」には、地域と密着したつながりがあるのかを学びました。

尾花沢のそばがどうやって作られるのかは、実際に原種最上生のカフェで提供されているスイーツを試食。プロの味を確かめながら、アイデアを練っていきます。

グループごとにどんなスイーツを開発するかアイデアを出し合いながら話し合い。スマートフォンでインターネット検索しながら、ヒントとなるスイーツを調べ、そば粉とマッチする新スイーツを考えたいです。

令和4年1月号（広報もがみ）

まちのわだい

新庄・最上ジモト大学 高校生が台湾の生徒に地元の魅力を紹介

「ジモト大学」とは、最上地域の市町村や企業等が高校生を対象に、『授業では体験できない地域のことを学ぶ機会』を提供する事業です。最上町では、高校生が地元の魅力を動画にして台湾の皆さんに紹介するプログラムを実施。新庄北高最上校生2名が参加し、地元の魅力を撮影・編集し、12月18日に台湾の高登日本語学校の生徒とオンラインで交流しました。台湾のみなさんからも台湾文化を日本語で紹介いただき、参加者からは「互いの文化のことを知れてよかった。いつか遊びに行きたい。」などと感想を話してくれました。

77

元学
地大

[illegible]

成長と定住を目指して

ジモト大学の主な目的は、2つあります。1つ目は、主体的に学習する姿勢を身につけること。高校生が、さまざまな人と関わり、将来生きたいことを考えることで、自ら進んで学ぶことを目指します。2つ目は、地域の中を担う人材の育成。地域課題を知り、その解決策を考えることで、地域民としての当事者意識を持つことと目指します。

地域を活性化させるために、自分も何かできるのではないかな

いろいろな視点から物事を見ると、もっと地元が好きになる

参加した高校生の声

改めて
将来について
考えてみると、
とても
わくわくした

交流を深め、
新庄の魅力を学び、
とても楽しかった。

今年度のジモト大学の活動状況などの展示を行います。ぜひ、見に来てください!

■とき 1月21日(金)～2月3日(木) ■ところ ゆめりあ1階花と緑の交流広場
※ジモト大学の活動は、facebookからご覧いただけます。(右記二次元コードからアクセスできます)



結果／読者を驚めよう

3 今後に向けて

2つ目は「得意なことだけを生かす」です。やらされ感や負担感を感じることはだれにとってもイヤなことです。個々の性格や経歴等を考慮し、「あなたの得意なこの部分だけを頼みます」と伝え、その他の部分は他に得意



実行委員会のメンバー

今後も、プロジェクトでかかわったすべての方からいただいた「学び」を大切に、人々の活躍を後押しするとともに、人と人をつなぎ、魅力ある地域をつつくりたいです。

(西伯郡南部町教育委员会事務局
社会教育主事 中前 元香)



一般社団法人とらいあ

所在地：〒996-0027 山形県新庄市本町1-7
電 話：0233-29-8150

はじめに

1 新庄・最上ジモト大学について

「新庄・最上ジモト大学」は「高校生と地域の大人が本気で語り、学び、交流する場」



令和3年度ジモト大学ポスター

として、最上地域全体がキャンパスとなり、平成29年に開校しました。そもそも山形県最上地域には大学等の高等教育機関がないこともあり、卒業すると同時に多くの高校生がこの地域を離れていきます。活動場や学校の授業で多忙な高校生に、少しでもこの地域の課題や魅力を知り、地域の大人とつながる機会を提供したいと、行政、高等学校、企業、団体等が地域一体となって推進しています。新しい学習環境を築く「主体的、対話的で深い学び」を実現する

深い学び」を重視しており、高校生が主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、将来の定住や地域の中核となる人材育成を図ること、このこととジモト大学の大きなねらいです。

(2) 推進体制

平成29年度に官民協働事業として事業化され、さらに平成31年3月には、市町村、県、管内高等学校、大学、経済団体などの22団体で構成されるコンソーシアム体制となりました。令和3年度からは、最上地域に隣接する村山地域の尾花沢市等も取り組みに加わり、25団体となっています。また、山形県と私たちといふ関係が官民協働の事務局の運営は全国的にも珍しく、官の牽引力、民の柔軟でユニークな発想と幅広いネットワーク、お互いの強みがシナジーとなって今年度で5年目を迎えることができました。

2 具体的な取り組み

(1) カテゴリ

ジモト大学のプログラムはそのコンテンツで大きく3つに分類されています。仕事を意識し、内容ややりがい、その仕事に就くための方法などを学ぶことができる「キャリア型プログラム」、体験すること、最上地域の食や文化・歴史を学ぶことができる「体験型プログラム」、地域の課題を見つけ、そこに自分は何を考え、かわりようのない未来の自分を作る

て、自分を知る、活動をおして地域を知る「課題発見型プログラム」にカテゴリ分けされています。

(2) 具体的なプログラム（昨年度）

① キャリア型「Jump in your dream ～本場の大学生生活～まだ私は知らない～」（提供：Agassaki House（山形大学で活動している学生団体））

新庄・最上地域には高等教育機関がなく、身近に大学生がいないため、高校生は大学進学へのイメージを持てない状況にあります。そこで、オンラインで大学生とのリアルな対話を重視し、大学受験や大学生生活についてのイメージを磨くとともに高校卒業後の地元とのかわりようを考えました。

② 体験型「まちなかイベント大作戦」（提供：glassydesign（新庄市内のブランディング・デザイン事務所））

イベント（アート）をおして地域の人が一体となり、楽しく元気にまちを盛り上げ、地域活性化につなげるプログラムです。



令和2年度まちなかイベント大作戦

高校生が企画から入り、イベントする場所を決め、交渉し実施運営しました。多世代の地域の方が利用する図書館の駐輪場前に、140名を超える参加者が一緒にイベントを行いました。図書館の館内からも見ることができた壁面アートは、利用者の方にも大変好評でアートスポットになっています。

③ 課題発見解決型「新型コロナに負けない！みんなを元気にする『てれ・ぼろ』プロジェクト」（提供：最上教育事務所社会教育課）

地域活動に興味心を持つ中高高校生が、青年ファシリテーターのアドバイスを受けながら、SNSを介して地域情報を発信しました。それにより、地域におけるさらなる絆とボランティア活動の輪を広げることができました。地域に出て実際に取材を行い、情報モラルの学習をしたあとジモト大学Facebookに投稿し、話題を集めたプログラムでした。

(3) プログラム勉強会とフォーラム

プログラム勉強会は、高校生がこれからの時代を生き抜く力（主体性・協働性・社会性・探究性）を学ぶプログラムとなるように開催しています。プログラム提供者や関係者の勉強会を年1回以上行うとともに、あわせて、高校生とともに考え学ぶことができる地域の大人のネットワークづくりの場となっています。また、フォーラムは高校生の探究発表、プログラム提供者の事例発表、多世代の地域の方との高校生のワークショップによる財

話など、1年間のリフレクションと交流の場となっています。昨年はどちらとも、オンライン開催となり初めてのことが多かったが、今後のさまざまな可能性や方向性につながったかと思っています。

(4) 地域側の協力と学校との連携

ジモト大学の情報を丁寧に伝え、各高校の生徒に平等かつ円滑に参加してもらうために、各高等学校を会場にジモト大学説明会を開催しています。これは、共同事務局の原の調整があり、学校の協力があって5年目にしてはじめて管内高校のほぼすべての学校で行うことができました。今年度さらに進化したい。プログラムの内容を説明したこと、動画や写真画像での紹介などにより、プログラムの魅力を高校生に存分に伝え、アプローチすることができたかと思っています。また、地元の企業が協力開催したWEB申し込みシステムでは、高校生がプログラムの情報を知ることができるとともに円滑に参加申込がで



高校を会場としたジモト大学説明会

きようになっています。事務局としては、リアルタイムのプログラムの情報発信や参加申込状況の把握ができるようになっています。生徒のとりまきや連絡手段等、事務局業務の簡素化にもつながるよう、システム開発企業と事務局とで密に話し合いをしながら、よりよいシステムの構築をめざしています。

3 活動等の成果

(1) 高校生の動き

平成29年度～令和2年度の4年間で96プログラムの実施。そこに参加した高校生は延べ1,789名となりました。世代を超えた交流、他校の生徒と多様な地域の大人とつながることのできるジモト大学はコロナ禍の今年度も、オンライン、リアルとそれぞれの状況に応じて常に学びを止めずに展開しています。5年目の今年度は、尾花沢キャンパスも加わり36プログラムが実施予定。うち2プログラムがコロナ禍により中止となりましたが、令和3年11月末現在19名の参加があり、過去最多となっています。今年度は最上管内の高校生はもちろん、北村山地域の高校生との相互交流も図ることができ、何気なく道端で会う高校生が「今日これからジモト大学に行く」など、そんな会話を聞かれるようになりました。私たちとらいうが新庄市内の社会教育施設2館を指定管理していることも相まって、地域全体での高校生との信頼関係も築かれています。今年度は卒業生が、ジモト大学に返恩したいという大学のボランティアサークルとして、防災プログラムを提供し



最上マイプロジェクト推進運営委員会 オンライン勉強会チラシ

てくれたり、そんなつながりが後輩たちに引き継がれ、高校生の自走も始まっています。高校生や地域のやりたい情報がそと入ってきたり、相談されるなど、私たちとらいうが、より身近な存在となっています。今後地域で活動した高校生が、将来の地域の担い手に育つことも期待したいと思っています。

(2) 地域の動き

ジモト大学では地域の大人が提供者としてプログラムに主体的にかかわっています。プログラムに参加した高校生からのアンケートをもとにリフレクションを行い、プログラム提供者の地域部会が立ち上がり、プログラムの提供の自走を安心安全に活動できるようにサポートしながら、大人たちもともに学んでい

こうと「最上マイプロジェクト推進運営委員会」が地域に生まれました。そこで学んだことを生かしながら、自分たちの住んでいる地域の魅力や課題を再発見し、地域振興、地域づくりにかかわる機会やコミュニティが地域のなかで生まれてきていることも、ジモト大学の大きなリターンと感じています。

4 今後の課題

新庄最上及び尾花沢管内の多くの高校生が地域で安心安全に学び、活動できるようにするためには、学校と地域がさらに連携協働しやすいコーディネートやそれができる人材が必要だと感じています。また、高校生や地域のやりたいことが集まって、活動の起点となるような、活動交流拠点の整備充実が今後の大きな課題となっています。

少子高齢化が進み、高校再編も差し迫るなか、新庄・最上地域から学校が消滅しないように、子どもたちがいなくなるいないように、そしてまちが潰れ失せないように、多角的に、地域全体で取り組んでいくことが急務であると考えます。「学校・地域・家庭」との信頼関係を構築しながら丁寧につなぎ、実直に進めてきた私たちとらいうが、まだまだ進捗ですが、点と点がいつか線となり面となる、そんな地域づくりをめざさなければ、ジモト大学をおして、日々学び続けたいと思っています。そして子どもたちが高校に進学したときに、スムーズに自身のマイ



令和元年度 Next Action ～一歩踏み出す、今日がその日～（提供：Agassaki House）

プロジェクトが自走できるように、小学校、中学校から探究学習やふさと学習を支え、地域機能が取り組める体制づくりを推進していきたいと考えています。

高校生も地域の大人もその先の未来に向かって、常に学び成長し、前に進んでいるように……。

大人と高校生のグランドルール！
②ジモトのことをよく知ろう！
③もっと自分から積極的に語ろう！
④自分と本気で学ぼう！

合言葉は、ジモト！
今日も笑顔で元気に、新しい笑顔に出会い、ジモト大学で待っています。

（一般社団法人とらいう専理理事
新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム
事務局 高橋 一佳）



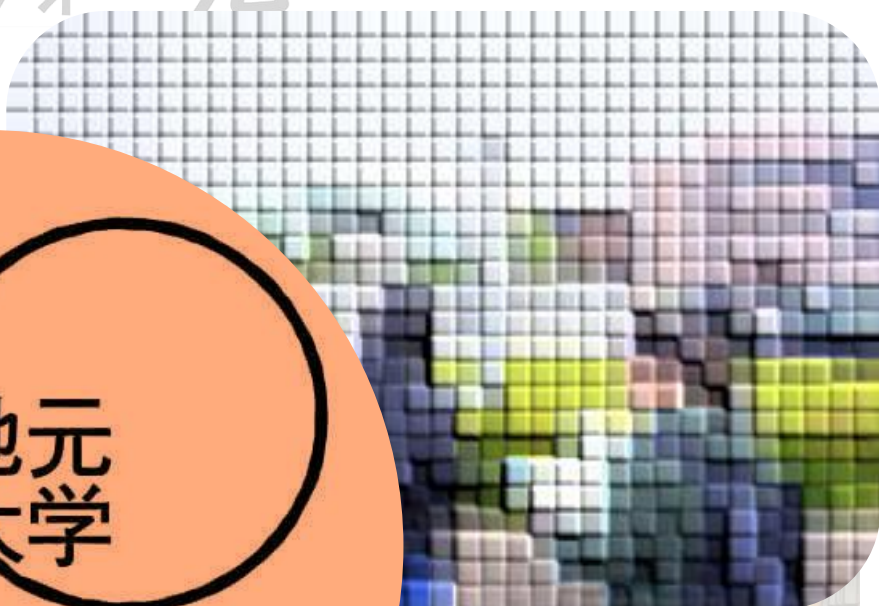
会議等一覧 他

新庄・最上ジモト大学

高校生ともにある
地域・未来フォーラム



SHINJO-MOGAMI
JIMOTO
DAIGAKU



— 総会・運営委員会・各部会・事務局会議等一覧 —

◆ 新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム総会

- ・令和3年4月13日（火）10:00～11:00 オンライン

◆ 運営委員会

- ・第1回：令和3年5月18日（火）9:30～11:30
オンライン
- ・第2回：令和4年2月25日（金）9:30～11:30
オンライン



◆ 高校部会

- ・第1回：令和3年5月14日（金）10:00～11:30
最上総合支庁特別会議室
- ・第2回：令和3年10月11日（月）14:00～16:00
最上総合支庁北棟第1・2会議室
- ・第3回：令和3年12月16日（木）10:00～11:30
最上総合支庁北棟第1・2会議室



◆ プログラム地域部会

- ・令和4年2月9日（水）19:30～21:00 オンライン

◆ プログラム勉強会・個別相談会

- ・令和3年8月31日（火）13:00～15:00 オンライン
- ・勉強会終了後、個別相談会 オンライン

◆ 新庄・最上ジモト大学「高校生とともにある地域・未来フォーラム」

- ・令和4年1月23日（日）13:30～16:00 オンライン

◆ 市町村担当者会議

- ・第1回：令和3年5月13日（木）10:00～11:30 最上総合支庁特別会議室
- ・第2回：令和4年2月15日（火）10:00～11:30 オンライン

◆ 事務局会議

- ・第1回：令和3年4月21日（水）
- ・第2回：令和3年5月21日（金）
- ・第3回：令和3年6月16日（水）
- ・第4回：令和3年7月15日（木）
- ・第5回：令和3年12月2日（木）
- ・第6回：令和4年2月9日（水）
- ・第7回：令和4年3月7日（月）

新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 規約

(名称)

第1条 この会は、新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）と称する。

(目的)

第2条 コンソーシアムは、新庄・最上地域の高校生を対象に地域課題等に関する住民等との対話や協働等を通じて、高校生の主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、地域住民としての当事者意識を醸成することにより、将来の定住や地域の中核となる人材育成を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 地域課題等に関する新庄・最上地域及び尾花沢市に在住又は通学する高校生（以下「高校生」という。）と住民等との対話や協働等を行うプログラムの実施に関すること
- (2) 高校生を対象とした尾花沢キャンパスの設置・運営に関すること
- (3) その他コンソーシアムの目的を達成するために必要な事項に関すること

(構成団体)

第4条 コンソーシアムは、別表及び別表2に掲げる団体（以下「構成団体」という。）をもって構成する。

(役員)

第5条 コンソーシアムに代表及び監事を置く。

- 2 代表及び監事は、構成団体の代表者（以下「委員」という。）の互選により定める。
- 3 代表は、コンソーシアムを代表し、会務を総理する。
- 4 監事は、財務及び会計を監査する。
- 5 代表及び監事の任期は、2年とする。

(総会)

第6条 コンソーシアムに総会を置く。

- 2 総会は、委員をもって構成する。
- 3 総会は、代表が招集し、代表はその議長となる。
- 4 総会は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。
- 5 総会の議事は、議長以外の出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 6 委員は、やむを得ない場合は、代理者を出席させることができる。
- 7 代表は、必要に応じて、委員以外の者に総会への出席を求めることができる。

(議決事項)

第7条 総会は次に掲げる事項を議決する。

- (1) 事業計画及び予算
- (2) 事業報告及び決算の承認
- (3) 規約の変更
- (4) その他コンソーシアムの事業及び運営に関する重要な事項

(運営委員会)

第8条 コンソーシアムに執行機関として運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、総会において選任された運営委員をもって構成する。
- 3 運営委員会に委員長を置き、運営委員の互選により定める。
- 4 第6条第3項から第7項までの規定は、運営委員会について準用する。この場合において、同条第3項及び第7項中「代表」とあるのは「委員長」と、同条第4項から第7項までの規定中「委員」とあるのは「運営委員」と読み替えるものとする。

(部会)

第9条 運営委員会は、必要に応じて部会を置くことができる。

(事務局会議)

第10条 コンソーシアムに事務局会議を置く。

- 2 事務局会議の運営に関し必要な事項は、運営委員会において定める。

(ジモト大学サポーター)

第11条 コンソーシアムの目的及び事業に協賛する企業、団体、個人をジモト大学サポーター（以下「サポーター」という。）とする。

- 2 サポーターに関し必要な事項は、運営委員会において定める。

(経費)

第12条 コンソーシアムの経費は、負担金及びその他の収入をもって充てる。

- 2 前項の負担金の額は、総会の議決を経て定める。

(補則)

第13条 この規約に定めるもののほか、コンソーシアムの運営に関し必要な事項は、運営委員会において定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規約は、平成31年 3 月19日から施行する。

(経過措置)

- 2 コンソーシアムの設立当初の代表及び監事の任期は、第 5 条第 5 項の規定にかかわらず、平成33年 4 月30日までとする。

附 則

- 1 この規約は、令和 3 年 4 月13日から施行する。

別表（第4条関係）

団 体 名	代 表 者
新庄北高等学校	校長
新庄南高等学校	校長
新庄神室産業高等学校	校長
新庄東高等学校	校長
最上総合支庁	総合支庁長
新庄市	市長
金山町	町長
最上町	町長
舟形町	町長
真室川町	町長
大蔵村	村長
鮭川村	村長
戸沢村	村長
東北芸術工科大学	学長
最上教育事務所	所長
一般社団法人とらいあ	代表理事
新庄商工会議所	会頭
もがみ北部商工会	会長
もがみ南部商工会	会長
新庄中核工業団地立地企業協議会	会長
新庄横根山工業団地企業協議会	会長
最上地域農業法人研究会	会長

別表2（第4条関係）

団 体 名	代 表 者
北村山高等学校	校長
尾花沢市	市長
村山総合支庁北村山地域振興局	局長

あとがきにかえて ～ジモト大学が創っているものとこれから創るもの～

一般社団法人とらいあ理事
最上マイプロジェクト推進運営委員会
代表 笹原 啓一

2月9日に行われた、新庄・最上ジモト大学「令和3年度プログラム地域部会」では、山形市職員の後藤好邦さんからさまざまな示唆をいただきました。一つだけ紹介すると、「高校生×地域」が求められる背景に、日本はこれまで成長社会だったが、今は成熟社会へ変わってきているということがありました。成長社会はジグソーパズル（正解がある）、成熟社会はレゴブロック（答えがない）という例えを出されていました。

今の日本は、少子高齢化と人口減少、経済と技術の低迷、格差と貧困、社会保障の不備と財政赤字、女性の社会進出の不振、マイノリティへの差別の強さなどの大きな課題を抱え、解決の道筋をつかめないでいるように思います。また、成長社会という上り坂ではなく、成熟社会というこれまで経験したことのない下り坂を生活している時代だと思います。このような時代・社会では、人と人とがつながり、知恵を出し合い、汗をかき、みんなでブロックを積み重ねていく、正解ではないけれどもみんなが納得できるもの（納得の濃度はあるけれど）をつくっていく、そんな人が求められているのではないかと考えています。ジモト大学は、そのような人を育てる環境をつくっているのだと考えています。

プログラム地域部会のブレイクアウトルームでの、「きのこ0円食堂～キノコの捨てる部位だけ使って料理してみた件～」のプログラムを提供してくださった、「Professionalきのこ山形」の方のお話も興味深いものがありました。あいにくコロナの影響で、実際に集まって調理することはできなかったものの、高校生の子どもたちがレシピをつくるにあたってお母さんと相談したり一緒に調理する姿がレシピの発表から浮かんできて、ジワーとなったということでした。たぶん高校生の子どもたちは、親と一緒に知恵を出し合い、プログラム提供者とつながり、自信をもらい、他の高校生ともつながるという経験をしたのではないのでしょうか。これまでのジモト大学のプログラムの中で、参加した高校生が似たような経験をしたことは多々あったと思います。ジモト大学が、今の時代を生き抜く人を育てる環境をつくっているのは間違いのないと思います。

1月23日に開催された「ジモト大学『高校生とともにある地域・未来フォーラム』」でも多様な高校生の活動が発表され、とても興味深く聴くことができました。高校生どうしがお互いの活動を知ることができ、自分たちの励みになり、他の高校生のがんばりを認めるという、とてもいい機会だったと思います。その中で、新庄南高校金山校の生徒の「私たちがこのような活動ができてるのは、まわりの大人の人たちのおかげです。」という言葉が心に残りました。そういうことが言える高校生の子どもたちは、これから生きる社会の中で、人と人との支え合いを大切に、様々なことを学びながら、充実した生き方をするのではないのでしょうか。

今後のジモト大学ですが、「地域・未来フォーラム」のように高校生のつながりが出てくること、高校生だけでなく中学生や小学生もジモト大学のような環境ができ、小中高のつながりができること、そして高校生の活動を支援する大人（伴走者）が増えることを願っています。一般社団法人とらいあ、最上マイプロジェクト推進運営委員会とも、「つながり」と「居場所」をつくるジモト大学を応援していきます。

高校生が
旅立つ前に
学ぶべきこと



SHINJO-MOGAMI
JIMOTO
DAIGAKU

令和3年度

新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム事務局業務委託事業

発行：令和4年3月

発行者：新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム

事務局：一般社団法人とらいあ
TEL & FAX 0233-29-8150
E-mail toraia@ic-net.or.jp